569-142
1200501517469
569
39
142

改造文庫
第九十三篇 第一部

組織論

ヴンニエン
鈴木厚譯

改造社出版

170

紛本

改造文庫

第一部第三十九篇

組織論

レニン著

鈴木厚譯

改造社出版

昭和四・八・廿二・四友

569-142

譯者序

レエニンは、獨りアクセルロッドによつてのみではなく、多くの人々によつて認められてゐるやうに、單なる理論家でなかつたと共に、單なる實際家でもなかつた。彼れが、何人よりも優れてゐた點は、彼れ自らが、理論家的一面と實際家的一面の優れた統一體であつたといふことでなければならない。

今、彼れのさうした特質を、最もよく代表してゐる著作を、求めるならば、私は躊躇なく、第一に『國家と○○』を擧げ、第二にこの『組織論』を擧げるものである。科學的社會主義の創設者、マルクス及びエンゲルスにもまして、レエニンは、これ等の著作に於て、○○○○○の彼れの比類なき卓越さを示してゐる。實に、彼れは獨創○○○○○であり、またその獨創を直ちに實行に移し○○○○○であつた。

この『組織論』に於ては、特に、浮草の如き日和見主義者としてではない、○○○○○○○としてのレエニンの偉大さが、具體的に示されてゐる。本書に於て、マルクス及びエンゲルスが、

論及する時間を有しなかつた問題に就いて、彼れは、縱横に適確に、目ざましくもまた勇敢に、自己の本領を發揮し、組織問題に關する正しい道を、現實的に且つ明確に展開してゐる。

我が國プロレタリア運動が、ブルヂョアジーの一大彈壓の下にあつて、今や○○○○○○○○○○○○○○○○、この『組織論』は、少からず與へるものがあるであらう。特に組織問題に於ける日和見主義的傾向の排擊は、我が國に於ても、近き將來に於て必要不可缺な問題となつて現れるであらうから。

元來、本書は、ロシヤに於ける特殊な事情及び問題を取扱つてゐるものであり、而も其れが、全部過去に屬することであり、またレエニンの文章が、決して平易な方ではない爲めに、たとへ譯者は、最善の努力を拂つたつもりでも、おそらく判りにくい箇所が少くないと思ふ。其れが誤譯乃至惡譯の爲めなら、無論譯者の責任だが、本書を手にするに當つて、『判りにくい讀物だ』といふことは、前以て念頭に置いて貰ひたい。さうすればロシヤに於ける特殊的な事情や問題から、吾々は、比較的容易に、普遍性を看取することが出來るであらう。

本書の飜譯に當つて私は、全部獨逸語の書物 "Lenin Über Organisations Fragen" によつた。而して獨逸語のものに不充分な箇所及び缺けてゐる箇所を、英語の方の書物 "Lenin On

Organization" によつて補足した。補足するに當つては、一々斷つておいた箇所もあるが、あまり煩しい場所（たとへばミツコヴイツチ・カプスカスの序文の如き）では、其れをはぶきもした。また全然英語のものから採用した部分は、第二章、第三章、第七章、第八章等であつた。一言、お斷りしておく。

一九二八年六月十日

鈴木厚

組織論目次

譯者序

一、レエニンとボルシエヴイキ黨の構成(序文の代りに)……一一
　ボルシエヴイキ黨創立事情……一三
　ボルシエヴイキとメンシエヴイキの分裂……一六
工場細胞の組織……二〇
黨の再組織……二五
清算派との闘爭……三一
勞働階級の前衛としての黨……三九
黨の規律と黨の統一……四四
　レエニンの遺言……五二
　(以上編纂者ミツコヴイチ・カブスカスの序文)――譯者
二、何から始むべきか……五八

集中的組織者としての新聞紙……六四
三、文書の配布……六六
四、經濟主義者の素人細工と〇〇〇の組織……六八
(イ)素人細工とは何か……六八
(ロ)勞働者組織と〇〇〇組織……七二
(ハ)組織的事業の效力範圍……一〇〇
(ニ)『〇〇〇』組織と『民主々義』……一一二
五、組織の一般形態……一二九
宣傳家の團體……一四二
種々の團體……一四四
六、黨員資格(一歩前進二歩退却)……一四六
(イ)規約の第一條……一四六
(ロ)組織問題に於ける日和見主義……一八七

七、組織問題に於ける日和見主義……二二四
八、プロレタリア自己指導者訓練の理由……二二六
九、吾々は〇〇を組織すべきか……二三一
一〇、黨の再組織に關して……二三八
一一、組織問題……二五〇
一二、進出の途上……二五四
一三、清算主義の清算……二六九
一四、清算派及び清算派の集團に就いて……二七四
一五、ボルシエヴイキ成功の一主要條件……二七七
一六、一致の活動、統一的な意志……二八三
一七、黨の統一に就いて……二九〇

一八、黨の廓淸に關して……………………………………………二九五
一九、『獨逸共産主義者への手紙』から……………………………三〇〇
二〇、コンミュニスト・インターナショナルのセクションに對する組織問題に就いてのレェニンの遺言……………………………三〇二
索引………………………………………………三〇七

組織論

一、レェニンとボルシェヴィキ黨の構成

（序文の代りに）

ロシヤのプロレタリアートが、專らブルヂョアジーと地主に對する勝利を獲得せんが爲めに、而も農民との同盟に於て、干渉と封鎖とを突破し、未聞の經濟的な破壞や饑餓や寒氣に打ち克ち、而も經濟的生活の復舊を行ふことが出來たのは、優秀な、一の鋼鐵の塊から鍛へ上げたやうな、大衆と密接に結合したボルシェヴィキ黨なるものを、其れが有してゐたからであつて、今日、このことを何人も疑ふものはないのである、而して、この黨の天才的な創立者は、W・I・レェニンであつた。それ故、〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇、この黨が、如何にして創造されたか、如何なる組織原則を、W・I・レェニンが、その基礎づけの爲めに說いたかを、知らうとすることは、〇〇〇〇〇〇〇。〇〇〇〇〇〇〇〇〇、〇〇〇〇〇〇〇・〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇、〇〇〇〇〇〇〇・〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇、組織問

題に對するW・I・レエニンの○○○○○○、○○○○○○○○○○○。

ロシヤ○○は、勿論、一氣呵成に、今日あるがやうなものになつたのではない。其れは、闘爭に於て發展を遂げたものであつて、吾々は、W・I・レエニンの論文や、彼れの文書及び演說の斷片を集めた、吾々の手に殘されてゐるこの書物の中で、同志諸君に、その闘爭が如何なるものであつたかを、示さうと試みるものである。

ボルシエヴイキ黨創立事情

ロシヤに於てはプロレタリア黨は、西歐に於ける其れとは、異れる事情の下に創立された。西歐に於ては、社會主義的な黨は、合法的な事情の下に於て成立し、そこには、合法的な勞働團體（勞働組合其の他）があり、ブルヂヨア議會があり、また勞働運動に對して、最少限の自由が與へられてもゐたが、しかしロシヤに於ては、勞働黨の建設は、最も苛酷な專制主義の支配下に於て卽ちブルヂヨア民主々義革命以前の、何ら自由の與へられてゐなかつた、しかしながら幸ひにも勞働者大衆の廣汎な自然發生的運動が發生した時代に於て、遂行されたのであつた。

卽ち一八九八年に、ロシヤ社會民主勞働黨は、創立されたのだ。

九十年代に至るまでは、社會民主々義的な運動は、ロシヤの進步が遲れてゐたが爲めに、主として知識階級によつて支持されてゐた。勞働者は運動に參加してはゐたが彼等はまだ、革命的な勞働黨の形態に於ける彼等の前衞を持たなかつたし、また、發展しつゝある勞働運動の重要性が、革命的な知識階級によつて、充分には評價されてゐなかつた。知識階級の最も進步的な部分の間では、所謂るナロードニキ（人民黨）の觀念が、優勢であつた。而してこのナロードニキは、ロシヤに於て資本主義が發達してゐたことを、否定なし、而もロシヤが西歐の其れとは別な、より苦難の少い道によつて、卽ち資本主義と大規模機械生產を通じてではなく、農民共產體を通じて、社會主義へ向つて進むであらうといふことを、主張なしたものである。かくて、九十年代に於て、マルクス主義がロシヤに於て、それ自らの爲めに道を開拓し始めるや、革命的マルクス主義の精神とは、全然異れるブルヂヨア知識階級は、ロシヤに於ける革命運動の進展に關する、小ブルヂヨア的なナロードニキの概念を驅逐する爲めに、それからまた、ロシヤが不可避的に、資本主義的生產の段階を、通過しなければならないといふことを、證明する爲めに、彼等はマルクス主義を適用し始めた。このことがつまり『合法的マルクス主義』なるものを、生ぜしめたのだ。彼等は、資本家階級の利益の爲めに、勞働者階級を利用しようとしたのだ。然るに他の一面に於ては、社會民主々義の主力分

子はツアーの憲兵によつて組織的に、一連の社會民主々義的組織から、取り除かれてゐた。そこで、知識階級分子達は、勞働運動に深く入り込み、其れを單なる勞働組合運動(經濟主義)たらしめ、且つまた其れを、自由主義ブルヂョアジーの闘爭に於ける補助武器に變へようとつとめてゐた。それ故○○○○○○○の爲めの闘爭に、勞働者階級の擴大なる自然發生的運動を導くことが出來たところの、○○○○○の確固たる、不拔の、完全に○○○な精鋭分子をつくることは、其れは必要なことであつた。それなくしては、資本の桎梏から、勞働者階級を解放することは、達成されなかつたのである。されば、社會民主々義者の任務は、勞働運動にまとひついてゐた知識階級を取りのけることであり、彼等の躍進力を、勞働組合主義的な運動の水準に押しさげることであり彼等を、自由主義ブルヂョアジーの闘爭の附屬物と見做すことであつた。即ち、その任務は各地方に於て、經驗ある○○○○○の指導體を、つくらなければならなかつた。其れは、その指導體に、明白なマルクス主義的な綱領と確乎たる戰術とを、與へなければならなかつた。つまり其れは、このやうな指導體を、○○○○○に備へる爲めに、完全に○○○であつた、また同時に、必要な瞬間に於ては、大衆を闘爭に指導する爲めに、充分に勞働大衆と結合してゐた、○○○○○による、統一的にして强力な黨組織に、配合しなければならなかつた。

斯くの如き任務を、W・I・レエニンは、既に九十年代の終り及び二十世紀の當初に於て充分明白に把握なし、ロシヤの○○○社會民主々義の中央機關紙、舊『イスクラ』に於て絶えずそれを主張した(一九〇〇年から一九〇三年の間、後には舊『イスクラ』として知られるやうになつた『イスクラ』――火花――は、社會民主々義の左翼の○○○政策を標榜してゐたが、しかし一九〇三年以後は、メンシエヴイキの指導を受けてゐた)。而して、ロシヤ共產黨の建設と發達の歷史に重大な役割を演じたところの、『何をなす可きか』(一九〇二年)といふ、レエニンの著名な文書は、この時代に屬するものであつた。この書物の中で、W・I・レエニンは、九十年代の後半期に於て浮び上つたところの、ロシヤ社會民主々義に於ける日和見主義的潮流、即ち『經濟主義者』共に粉碎的な打擊を與へたのであつた。この『經濟主義者』共は、『合法的マルクス主義者』と同類であつて、勞働運動に於ける自然發生を讃美し、中央集權化された社會民主々義的な黨の必要を拒否し、勞働者の經濟的利益の爲めの組織(即ち相互救助、ストライキ基金等々の爲めの團體)を以て、滿足するものであつた。W・I・レエニンは、最初『イスクラ』と彼れの著書『何をなす可きか』の中で、一九〇一年既に彼れが、『○○○○○』による組織に關して立案してゐる計畫に對して、深い基礎づけを行つた。吾々は、組織問題に捧げられたこれ等の文書の中から、數章

をこの書物の中に再錄する。

ロシヤに於て當時、社會民主々義的組織が、如何なる組織形態を採用したかといふことは、一同志へのレエニンの手紙（一九〇二年九月の）の中で、明瞭である。それは、ロシヤ社會民主勞働黨の基礎となつたものであつて、地方的運動の尖端に、委員會を設置し、その下に地域的集團と團體とを從屬せしめたのであつた。而してこれ等の集團と團體との或るものは、委員會の認可を得て、黨に加はつた。しかし他のものは、單に交友團體として認められた。この委員會のみが、『○○○○○○』の實際的組織として、ロシヤ社會民主勞働黨第二回黨大會（一九〇三年）に於て採用された規約により、黨大會に、それから黨の中央委員會と中央機關紙の編輯局に、彼等の代表者を送る權利を有した。而も、この中央機關紙は、ロシヤに於ける社會民主黨創立に際して、重大な役割を演じたところのものであつて、其れは、『集中的な宣傳者や集中的な煽動家であつたばかりでなくて、また集中的なオルガナイザーであつた』（一九〇一年『イスクラ』第四號に於けるレエニンの言葉）。

ボルシエヴイキとメンシエヴイキの分裂

第二回黨大會までは、マルトフ及びP・アクセルロッドは、レエニンと相提携してゐた。P・アクセルロッドは、レエニンの小册子『ロシヤ社會民主々義者の任務』の序文の中で、九十年代の終りに、レエニンに就いてかう書いた『レエニンは幸福にも、立派な實際家の經驗に、理論家的素養と廣汎な政治的視野とを一致せしめてゐる』。しかし彼等は、一九〇三年に於ける、ロシヤ社會民主勞働黨の第二回黨大會に於て、分離してしまつたのだ。何よりも第一に、彼等は、同志レエニンが當時既に、偉大な而も決定的な重要性を認めてゐたところの、組織問題に於て、離反して行つたのである。

ロシヤ社會民主勞働黨は、當時やうやく建設されたばかりであつたので、從つて、其れが如何なる基礎の上に、建設さる可きであるかといふことを、決定することは、特に重大なことであつた。マルトフやP・アクセルロッドや他の二三の『イスクラ』の舊執筆家達は、小ブルヂヨア分子の影響の下に走り、黨を、曖昧な基礎の上につくり上げようと欲した。卽ち、彼等は、何ら黨の組織に屬してゐない人でも、黨に單に援助を示すものは何人でも、實に黨員として見做す可きであると、提案したものであつた。これによつて彼等は、黨の規律の前と實際的○○○鬪爭の前では、恐怖なしたところの、黨に接近せる小ブルヂヨア知識階級に、門戸を開放なしたものだ。彼

等は、總ての同盟罷業者をして、敢て自ら黨員たることを宣言せしむ可しといふ見解であつて、階級闘爭の意識的指導を、自然發生的突進の下に配置したものだ。其れは、メンシエヴイキが、一九〇五年の革命後の暗黑な反動の時期に於て、卽ち一九〇八年から一九〇九年に至る時代に於て、非合法的な黨の清算と『廣汎にして』『公然の』合法的な勞働黨、卽ち實際的には自由主義的な勞働黨の創立、といふ標語を持ち出したやうに、彼等の立脚點の單に歸結に過ぎなかつたのであつた。

レエニンは既に第二回黨大會に於て、『黨は、殘りなく（或は殆ど殘りなく）、黨組織の「統制と指導下に」於て働くけれど、黨に殘りなく所屬してはゐないところの、勞働階級の尨大な大衆の指導者、卽ち單に前衞であるのである』と述べた。このことにより、黨員は偉大な要求を課され何人でも組織の一部分に於て、その中で實際に働いてゐる者のみが、黨員として資格あるものであるといふやうに、彼等は見做されることになつた。かくしてレエニンは、黨に、『〇〇〇〇〇〇』による强固な基礎を與へ、小ブルヂョア分子の黨への加入を困難なものにした。このやうに黨を構成することの結果は、自然組織狀態の變更を來たしたが、しかし基本的な中心は、依然保存されたのであつた。而してそのことは、ボルシエヴイキ黨をして、その綱領とその戰術を、反動の

最も困難な時代に於て猶ほ、確實に維持せしめ、遂に其れを闘爭に於ける勝利者たらしめることに役立つたのである。

メンシエヴイキは第二回黨大會の後、中央集權主義、組織の自治及び民主々義の諸問題に於て同樣に日和見主義を立證した。而してボルシエヴイキの、指導的中央部に對する地方組織の無條件從屬に對し、それから地方組織の自治に對する嚴格なる黨の規律に對し——これ等の問題に於て、メンシエヴイキはまた、經濟主義者に追從した。こゝから出發してメンシエヴイキは、民主主義的原則と地方委員會の無條件選擧を擁護なし、『仕命』（委員會の委員による選擧）に、決定的に反對なし、ボルシエヴイキの專制主義と官僚主義に悲鳴をあげ、『盲目的服從』に悲鳴をあげ、而も黨の規律を嘲笑なした。されば、レエニンは、これ等の問題に於けるメンシエヴイキの日和見主義的假面をはぎ取り、而して一九〇四年に既に、小册子『一歩前進二歩退却』に於て、彼等が全世界の社會民主々義日和見主義翼と、相互關係を有してゐたものであることを、彼れは示したのである。

斯くて、メンシエヴイキは第二回黨大會に於て、組織問題に關して、一連の社會民主々義的日和見主義者の中に、その立場を置いたものだ。彼等は、第二回黨大會の後に直ちに、舊經濟主義

者と同盟し、而も全政治戰線の上を、日和見主義の方へ滑走し下つたのである。一九〇四年に書かれた、レエニンの小册子『一歩前進二歩退却』は、第二回黨大會の決議と、黨大會後に於けるメンシエヴイキの行動の分析を行つてゐる。この小册子の中から吾々は、組織問題に於ける、ボルシエヴイキとメンシエヴイキの根本的見解の差異を特質づけてゐるところの數章を、同樣に再錄するものである。

工場細胞の組織

W・I・レエニンは、如何なる瞬間でも、既に一九〇二年に、『一同志への手紙』の中で述べたところの、根本的な思想、卽ち組織を勞働者大衆に最も密接に結合することによつてのみ、黨は、必要な瞬間に於てこの大衆を、鬪爭に導くことが出來るものだといふことを、同時に看過してはゐなかつた。それ故彼れは、一九〇二年に既に、後には『工場細胞』と變つたところの、『工場團體』なるものを、工場につくることを主張したのであつた。『總ての工場は、吾々の要塞であらねばならない』とレエニンは書き、而もその後もまた彼れは、屢〻この問題を繰り返してゐた。

しかし、工場細胞を、ボルシエヴイキ黨に於けろ黨組織の基石たらしめるといふことは、其れ

は、一氣呵成にはなし遂げられなかつたのだ。一九〇七年にレエニンは、『ペテルスブルグの分裂』といふ論文の中で、今日のレエニングラードの組織に就いて、書いて云つた。

『吾々は、ペテルスブルグに於て（おそらくまたロシヤの大部分の都市に於けるがやうに）、選擧區域や副選擧區域や副次細胞が、單に地域的（地方的）特質によつてではなく、職業的特質や民族的特質によつて、かたちづくられてゐるのを見る。ペテルスブルグには、例へば、鐵道選擧區域がある……またそこには猶ほ（レツトランド人の）其れがあり、エストニヤ人の區域と軍事的組織がある』。

こゝに吾々はまた、初期の黨組織の種々な形態を見る。地域的、職業的並びに民族的特質によつてつくり上げられた、他の副次的細胞の下に於ては、吾々は、他の選擧區域と同樣な權利を有するところの、特殊化された民族的なものと鐵道區域とを見る。勿論、民族的細胞及び民族的選擧區域は、總ての勞働者を、民族的差異なしに包括する、而も工場細胞の上につくられるインターナショナルなものと同樣な役割を演ずるものではないのである。第一にたゞ煽動的宣傳的及び敎化的啓蒙的な仕事を、本質上なし遂げるところのそれ等のものは、一般政治生活及び鬪爭に於ては、殆ど全く無關係なものである。しかし、それにも拘らず、それ等のものは、一九一七年に至

るまで、ロシヤに殘存したのだ。そのことは、舊組織形態の克服が、如何に困難なものであるかを示す。ロシヤ共産黨の第八回大會は（一九一九年三月に）、初めて、鐵道從業員や、郵便從業員や、軍事從業員などの特殊な黨組織を、斷然淸算することを、決議に取り入れた。しかし、當時にあつては、それ等のものが、非常に必要なものであつて、ボルシエヴイキ黨の影響を、勞働者及び從業員のこれ等の種類のものに擴大することによつて、それ等のものがまた、非常に重要な役割を演じたことは、認められなければならないであらう。

ボルシエヴイキ黨は、既に久しいこと、工場細胞をつくることに、偉大な注意を支拂つて來た。既に一九〇五年の革命の間及びその後に於てもまた、黨委員會は、特定の工場に、如何に多くの勞働者が雇はれてゐるか、彼等の勞働條件は、如何なるものであるか、而して如何に多數のボルシエヴイキ黨や、メンシエヴイキ黨や、社會民主黨やの黨員がゐて、また、如何に多數の各黨の同情者が、そこにゐるか、明確に知つてゐた。ボルシエヴイキは主として實際、工場に於て活動したものであつた。彼等は、工場でストライキを指導し、雇主と勞働者のあらゆる衝突を指導したのだ（大衆的勞働組合は、ロシヤに於ては、一九〇五年の革命の時期に、やうやく發生したのであつた）。このことは、ロシヤ社會民主勞働黨に、勞働階級の鬪爭を指導し、其れに勞働者を、

追從せしむる機會を與へた。黨は、工場内に或は工場の門前に、集會を組織し、而して工場からは、多くの勞働者が、〇〇〇〇〇に流れ出て行つた。

一九〇五年――六年の革命の後、かの暗黑な反動期が突發するや、黨は短期な半非合法的なものとなつて、再び地下（〇〇〇〇〇）運動に行かなければならなかつた。其れは、新らしいものによつて、置き換へられなければならなかつた。されば、レエニンは、この新しい情勢に關聯して、一九〇八年に次のやうに書いた。

『黨中央部の强固な〇〇〇〇〇組織、大衆と直接的な接觸に於て生活してゐる勞働者自身の中の最も進んだ分子の指導下にある黨のあらゆる、しかしながら地方的特殊的な工場細胞の、組織的〇〇〇〇出版活動――それが、吾々が〇〇〇及び社會民主々義的な勞働運動の、確乎不拔な中心分子をかたちづくり、また事實かたちづくつて來たところの基礎なのである。而して、この〇〇〇〇な中心分子は既往の時代のものとは、比較にならないほどより廣汎にその支派を擴張し、ロシヤ議會の媒介の下にまた、その影響を、勞働組合の中に、協同組合の中に、それから教化及び教育團體の中に擴大するであらう』。

このことは、〇〇〇〇〇〇〇・〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇にとつて、極めて〇

○なものである。

○○○○○○・○○○○○○○○○○○○○○○○○○、その成員が、直ちに解雇されてしまふので、その爲めに、工場に於て公然と中心分子を組織することが出來なかつたといふことを、正しく指摘してゐる。即ち、この事情の下に於ては、雇主の飼犬の眼からかくれて、中心分子をつくることが必要であるが、しかしその仕事は、工場内の勞働者には、明白なことでなければならないのだ。而してこれ等の中心分子は、工場委員會に、勞働組合會員の中に、協同團體の中に、スポート倶樂部や○○○○○○○○○○○○○○○○○○○關係を持つてゐた他の諸組織の中にその支派を持たなければならない。

レエニンは當時既に、勞働組合や協同組合や教育團體の中に、ボルシエヴイキのフラクションをつくることの問題を、そのフラクションがまだ細胞と間違へられてゐたにも拘らず、提唱したのである。そのことは、頑強な持續的な闘爭に於てこれ等の組織を、内部から戰ひ取る爲めにボルシエヴイキ黨の助けとはなつたものである。

ボルシエヴイキ黨の基礎、即ちその根據は、現在では、工場細胞である。黨は、偉大な注意をこの工場細胞に向けてゐる。あらゆる黨外の組織や、評議大會や、協議會や被選擧團體の中には黨の影響を强め、黨外の領域に於て、その政策を達成することをその任務とするところの、共産主義フラクションが組織されてゐる。これ即ち、工場に於ける黨細胞に就いての、レエニンの根本的思想であつて、かくて、黨外諸團體及び諸組織に於けるフラクションの問題は、結論に到達するものである。

黨の再組織

吾々が上に見て來たやうに、レエニンは、一九〇五年に至るまで、○○○○○○の緊密な組織の爲めに戰ひ、委員の選擧に反對して來た。嚴密に○○○な活動が必要とされてゐただけに、從つて、當時、選擧は、實行不可能なことなのであつた。(一)されば、一九〇五年にその事情が一變するや、レエニンは、黨の再組織の問題を提唱した。即ち彼れは、基本的組織細胞の廣汎な形態單に昔の『○○○○○の團體』との比較に於ては『よりゆるやかな』『より自由な』形態を提唱した。かくて、黨の民主々義化と選擧制の確立が達成されたのだ。しかしながら、黨の○○○○○○○○○○○○てゐて、而もそのことが、客觀的情勢が其れを要求するや、何らの困難なしに、再び其れを、○○○○な狀態に復歸することを可能たらしめたのだ。

(一)、現代に於ては、或る所に於ては、○○○○な事情の下に於ても、黨員の選出が可能である。黨が○○○○をしなければならない何處の場所に於ても、ツアー治下のロシヤに存在したやうな政治的統治は見られないからである（英譯によ?)――譯者)。

當時、ロシヤ社會民主勞働黨の組織が、如何なる組織形態を戰取してゐたかといふことは、レエニンが『一九〇七年のペテルスブルグの分裂』といふ論文の中に述べたところの、ペテルスブルグの組織に關する次のやうな文章を見れば、明瞭なことである。

『ロシヤ社會民主勞働黨は、民主々義的に組織されてゐる。そのことは、この黨の總ての活動が直接的に、或はまた全黨員の代表者を通じて、除外例なしに同等の權利を以て、導かれるものだといふことを意味してゐる。そこでは、一切の役員、一切の指導團體、一切の黨機關が、選擧され、仕事に責任を持ち、而も理由があれば、いつでもやめさせることが出來る。ペテルスブルグ組織の活動は、ロシヤ社會民主勞働黨の選擧されたペテルスブルグ委員會によつて、導かれてゐる。總ての黨員(約六〇〇〇人)を、一時に召集することは、不可能なことであるが故に、ペテルスブルグ組織の最高機關は、事實上、この組織の代表者會議なのである。而してこの會議に、組織の總ての成員は、代表者を送り出す權利を有する。即ち一定數の黨員の中から、常に一人の代議員・

を、例へば、最近の會議に於て、採決されたがやうに、黨員五十人毎に、一人の代議員を送り出す權利を有するものである。されば、この代議員は、總ての黨員によつて、選出されなければならないのであつて、代表者の決議は、從つて、全組織にとつては、問題の最高にして動かす可からざる決議となるのである』。

『しかしながら、それではまだ總てだとは云へない。問題の決議を、眞に民主々義的たらしめんが爲めに、組織の選出された代表者を、召集するといふことだけでは、充分だとは云へない。組織の總ての成員が、彼等の代表者を選出するに當つて同時に、獨立的に而も各人が自らの爲めに全組織に關係するところの論爭の的となつてゐる問題に對して、彼等の意見を述べることが、必要なことである。されば民主々義的に組織された黨や聯盟は、少くとも最も重要な場合、特に大衆が獨立的に參加する政治行動、例へばストライキ、選擧、大きな地方工場のボイコット等々の如きものを處理する場合に於ては、例外なしに總ての會員の意見を發表させるといふことの原則を無視することは出來ないのだ……』。

『總ての勞働者が、ストライキを起す可きか、起す可きではないか、カデットの(一)爲めに投票す可きか、投票す可きでないかといふやうな問題を、全く譯が判らずに而もでたらめに決定したなら、

ストライキはうまく遂行され得ないし、また選擧は有意義には行はれ得ない。また、總ての政治問題を、全黨員の意志に問ふて決定するといふことは、實際不可能なことであつて、それは不斷の煩しい無效果投票を、招來することになる。しかし、最も重大な問題や、特に大衆自身の一定の行動と直接的に結びつけられてゐるところの問題は總て、代表者を派遣することによつてのみでなく、また全黨員のレフレンダムによつて、民主々義の圈内に於て、決定されなければならない』。

(一)、カデツト (Cadets) は、立憲民主黨員 (Constitutional Democrats) の省略語であつて、彼等は、アルヂヨア自由主義者である（英譯による——譯者）。

『それ故、ペテルスブルグ委員會は、カデツトと同盟を結ぶ可きかどうかといふ問題を、黨員が討究した後、而してこの問題に關して、總ての黨員が投票を行つた後、協議會への代議員の選擧を、絶對に行はなければならないといふことを、決議したのであつた。選擧は、大衆が直接に參加するところの事項である。されば、社會主義者は、大衆の意識を、最も重要な力として考へる。かくて總ての黨員は、選擧の際に、カデツトに投票す可きであるかないかといふ問題を意識的に決定しなければならないのだ。先づ、全黨員が集合して、この問題を公然と討論した後に、吾々の各々にとつて、これかあれかの意識的な確乎たる決議を行ふことが出來る』。

他の多くの場所に於けるがやうに、こゝでもレエニンは、黨の問題の決議に於ける、總ての黨員の活動と參與とを、全く特別に强調なしてゐる。彼等總ての黨員は、協議會や黨大會に於て、義務を負ひ、その選擧人達に對して、責任を遂行するところの、黨の總ての指導體を選ぶものである。しかし同時に、上の黨機關の決議は、下のものにとつて義務的なものである。そこには、單にメンシエヴイキとボルシエヴイキとのフラクション鬪爭を惹起したといふことは例外としても、當時既に、レエニンによつて達成されたところの、民主々義的中央集權主義の原則そのものが、表示されてゐるのである。それに就いては、吾々は議論をもつと深めなければならない。

他の論文『再組織とペテルスブルグに於ける分裂の清算』(一九〇七年) の中で、レエニンは、ペテルスブルグ組織の新しい（ボルシエヴイキの）規約以後は、協議會は一の不變の制度になつてゐるといふことを書いてゐる。『その集合は、月に二回以下といふことはなく、而もそれは、組織の最高機關となつてゐる。而してそれは、六ケ月毎に新たに選擧する。この協議會は、地方組織のあれやこれの選擧區域に於て働いてゐるところの、單にあらゆる人々の中からではなく、總ての黨員そのものの中から、一の黨委員會を選出する』。かくて結論に於て、改革が唱へられなければならなかつた。卽ちボルシエヴイキ黨の地域の、縣の、それから地方的の協議會は、不變の

制度の特質を、おびるものではなくして、六ケ月毎に召集されるものであるといふことになつたのだ。

勿論、反動と帝國主義戰爭の時代に於て、而も非合法的な事情の下に於て、黨大會をも協議會をも、平生通りに召集することは、不可能なことであつた。第五回黨大會(一九〇七年)から、第六回黨大會(一九一七年)に至るまでに、十ケ年經過した。委員會會員による附加選擧の原則が再び廣汎な程度に於て適用された。そのことは、ボルシエヴイキ黨の伸縮性を、證明するものである。しかし、民主々義は、この黨のために、如何なる時にも如何なる事情の下に於ても適用し得るやうな原則を、何ら示さなかつたのである。〇〇〇便宜主義が、それの最も重要視するところのものであつたのだ。されば、ボルシエヴイキ黨は、或は民主々義原則を擴大することにつとめたり、或はまたそれを制限したりする。戰時共產主義の時期に於ては、ボルシエヴイキ黨の全體が、〇〇〇〇〇轉化する。中央委員會の決議は、當時屢々、〇〇〇〇のかたちに於て遂行された。しかし、〇〇〇が終りを告げ、各地の經濟生活がよりよくなり、新經濟政策の危機が、非常な程度にまで通り過ぎた時、其の時はボルシエヴイキ黨は、再び、民主々義的中央集權主義の原則へ歸つたのであつた。

清算派との鬪爭

一九〇五年——一九〇六年の革命以後、反動の興起に際して、知識階級は黨からはなれて行つた。黨にくつついてゐたメンシエヴイキは、眞に小ブルヂョア的な樣相を示し、而も革命的な標語と革命的なプロレタリア黨とを、彼等は清算しようとした。彼等は後者の代りに、『黨の綱領、戰術及び傳統の公然たる放棄といふ代價を支拂つてさへ、何としても合法的圈内に於ける無形態團結を』これに置き換へようと試みた(一九〇八年の黨協議會の決議の拔萃)。しかし、ボルシエヴイキは、レエニンの指導下に於て、この清算派的企てに對して、最も確乎たる理論的並びに組織的鬪爭を行つた。一九〇八年のメンシエヴイキがまだ參加してゐた全露協議會に於て、レエニンは、非合法的な組織を、隅石として提唱するところの一の決議案を通過せしめ、同時に彼れは總ての合法的な可能性の利用を、必須なものとして認めたのであつた。而してこの決議は、特に注意を、まだ委員會として見做してゐたところの、工場の黨細胞をつくることに向けたのであつた。

吾々がこの書物の中に再錄したところの、この決議の爲めに、メンシエヴイキはまた投票をし

た。彼等は、一九〇八年の十二月協議會に於て、清算主義を、革命的マルクス主義からの背反同様に宣告した。しかし、この宣告にも拘らずメンシエヴィキは、清算派の道をたどることになつたのだ。かくて、彼等から、メンシエヴイキ黨のあまり勢力のない一團、即ちプレハノフとトロツキイ等の一團が、分離して行つた。

『逆轉の清算派』とレエニンが呼んだところの一團は、ボルシエヴイキのフラクションに殘つたが、しかしレエニンは、確然と彼等との間に、分離の一線をひいた。而して、ロシヤ議會から、社會民主々義的な議員の召還を、要求したところのものは、其れは『オトゾヴイスチ』(召還派)であり、社會民主々義的議會フラクションが、議會に最後通牒を與へることを提唱し、其れを嚴密なる黨フラクションたらしめ、黨中央部のあらゆる指令に服從せしめることを望み、或はまた議會の成員たることを辭することを望んだところのものは、其れは最後通牒派であり、また、反動の時期に於て、プルヂョア知識階級と共に、『社會主義者の神樣』を創造し始めたところのものは、其れはボコストロイーテツリ(神の創造派)である。一九〇九年に於ける、ボルシエヴイキ黨の中央機關紙『プロレタリイ』の編輯局と、尨大なプロレタリア的中心地からの代表者達との、擴大協議會の決議の中で、吾々は、一連のボルシエヴイキのフラクションの中にもまた、プロレ

タリア的立脚點そのものに、充分に通達してゐないところの分子が、出現してゐたといふことを見る。『これ等の分子は、不利な時勢に立ちて、彼等の社會民主々義的な堅實性の不充分なことを益々明白に露呈し　革命的社會民主々義的戰術に對しては、益々絶大な矛盾を來し、また過去一年間に於ては、オトゾヴイズム及びウルテマテズムの理論を、公式化さうとする一の風潮を生じてゐる。しかし實際に於ては、彼等は、社會民主々義的な議會主義及び社會民主々義的なロシヤ議會の活動に就いての、誤れる觀念を、單に一原則に高揚し、而も强めたに過ぎなかつた……オトゾヴイズム及びウルテマテズムの理論は、總てその〇〇的な言葉使ひにも拘らず、實際に於て、そして非常な程度に於て、國會そのものが、人民のあらゆる切迫せる要求を滿すことが出來るといふ期待を深く考へてゐる。立憲的幻想の反面を示してゐるものであつて、それ故この理論は、本質上に於ては、プロレタリア的觀念の代りに、小ブルヂョア的傾向を置き換へようとつとめるものである。所謂ウルテマテズムはまた、社會民主々義的な活動の上に、公然たるオトゾヴイズムに劣らない損害を持ち來してゐる。政治的ウルテマテズムは、現在に於ては、オトゾヴイズムと少しも異つてゐない。其れは、オトゾヴイズムの陰蔽された特質を通じて、單により大きな混亂とより大きな壞亂とを運び込む……。〇〇のあらゆる緊急時に於ける代議制度ボイコ

ットの個々の適用から、ボイコット方策は、反動革命時代に於てもまた、ボルシエヴイキ戰術の特殊なものだと、きめつけようとする企てによつて、ウルテマテズムとオトゾヴイズムとは、彼等の傾向が、○○發展の段階の如何とは無關係に、それから○○運動の存在するとしないとに無關係に、代議制度に對して一般的完全なる參加を要求するところのメシエヴイキ主義の反面を本質上示すものであるといふことを、露呈してゐるものである』。

『總てこのやうな情勢に鑑みて、「プロレタリイ」の擴大編輯局は、卽ちロシヤ社會民主勞働黨内の明確なる思潮としてのボルシエヴイズムは、オトゾヴイズムやウルテマテズムと、何ら共通なものを有しないといふ事及び、ボルシエウイズムのフラクションは、革命的マルクス主義の道からの、このやうな離反と、決定的な闘爭を行はなければならないといふことを宣言したのである』。

これと同樣に、レエニンの指導下に於けるボルシエヴイキは、哲學に於ける『神の創造派』から――プロレタリア哲學から歴史的唯物主義を拒否し、勞働階級にブルヂヨア理想主義的料理を、御馳走したところの、かの經驗批判論者からもまた、分離した。されば、西部歐洲の代表的な社會民主々義者の多數でさへも、レエニンの非妥協性を、決定的に非難なし、彼れを、勞働運動の分離主義者、分裂主義者であると稱したのだ。しかしながら今日に於ては、革命的マルクス

主義の總ての曲解者共に對する、レエニンのこのやうな非妥協性が、實に、鋼鐵の斷片から鍛へ上げられたやうな、ボルシエヴイキ黨の創造を可能ならしめ、而も其れなくしては、ロシヤのプロレタリアートが、今日のやうに輝ける勝利を、戰取することは出來なかつたといふことが、全く明白なこととなつてゐるのである。

斯くて、一九一〇年に於て、清算派と妥協せんとする、最後の企てが行はれた。而して、メンシエヴイキ清算派もまた、參加したところの、中央委員會の總會が召集された。レエニンは、既にもう彼等との妥協の可能性に就いて、信じてゐなかつたが、ボルシエヴイキのフラクション内では、當時まだ、メンシエヴイキ清算派を、革命的社會民主々義の道に、連れ込むことが出來るもののやうに考へた幻想を、完全に克服してはゐなかつた。これが、レエニンがこの合同會議の召集に、賛成したところの理由である。而してこの會議に於て、一の決議が、滿場一致を以て採用された。吾々は、その決議の中に、次のやうな文章を見るものである。

『ブルヂヨア的反動革命期に於ける、社會民主々義的運動の歴史的地位は、不可避的に、一面に於ては、ブロレタリアートに對するブルヂヨア的影響の出現並びに、○○○○社會民主黨の否定を招來し、その役割と意義とを壓殺し、革命的社會民主々義の鋼領と戰術に於ける任務の標語

を、截斷せんとする等々の種々な企てを持ち來す。而して他の一面に於ては、其れは、社會民主黨の議會に於ける活動と、合法的可能性の利用を拒否し、これ等いづれもの緊要さを理解せしめず、而も現代當面の特殊な歴史的條件に、○○的民主々義的戰術を、適應せんとすることの不可能なこと等々、を示すものである』。

『このやうな情勢の下に於ける、社會民主々義的な戰術の缺く可からざる要素は、プロレタリアートの階級鬪爭の全領域に於ける、社會民主々義的活動の、擴大と深化とによつて、それからこれ等の過誤の危險を、明白ならしむることによつて、これ等双方の過誤を克服することである』。

この決議は、清算主義、オトゾヴイズム、ウルテマテズム及び『神の創造派』を、『プロレタリアートに對するブルヂヨアジーの影響』(一)だと見做し、右翼と左翼の双方の過誤に對しては、鬪ふ可きであると唱へたところのものであつて、メンシエヴイキや『ウペロード派』(『ウペロード』——前進の追從者、オトゾヴイスト等々)を加へて、滿場一致を以て、通過したところのものであつた。しかしこのやうな一致は、單に紙上の決議をとどめたに過ぎなかつたのだ。實際に於て、メンシエヴイキ及び其の他のものは、何らこれ等の過誤を、拋棄する意志を持たなかつたのである。

結局一九一二年一月、ボルシエヴイキは協議會に於て、これ等の清算派は、黨から放逐されたものだと宣言し、遂に彼等を全く分離することになつた。

(一)、ブルヂヨアジーは、勞働階級の革命的な黨の清算に對して、そのスローガンの變更に對して、向けられたあらゆる觀念に、全心からの支持を、へたのである(英譯による——譯者)。

斯くて、ボルシエヴイキ黨が、メキシエヴイキ清算派と分離するに至るまでに、鬪爭の十年が必要とされた。而してそれまでは、吾々が知つてゐるやうに、ボルシエヴイキ中央委員會の中にさへ、一の動搖があり、所謂る『調停派』が、そこに存在した。しかしW・I・レエニンは、當時既に全く明白に、メンシエヴイキが他の階級の代表者であるといふこと、及び彼等に對してはただ最も決定的な鬪爭が可能であるといふことを見てとつてゐた。されば一九〇八年に、レエニンは既に、資本に對する勞働の決定的鬪爭の瞬間に於ては、メンシエヴイキは、ブルヂヨアジーと結んで、防柵の彼方の側に現れ、而も平和の時代に於けるとは、異れる方策を使用するであらうといふことを述べてゐる。このことは、既に早くも——一九一七年の三月革命後の、帝國主義戰爭の間、更らにまだ十月革命の間に於て——總ての人々にとつて、充分明瞭な眞理となつたのである。

しかし、レエニンは、西部歐洲の諸黨に對してもまた、特に資本との決定的な鬪爭の時期に於

て、これと同樣な非調停性を、論證なしたのであつた。一九二〇年に書いたところの、『自由に關する謬說』といふ論文の中で、彼れはかう說いてゐる。

『メンシエヴイキをもし、陣列の中に置くなら、吾々は、プロレタリア革命に於て勝利をうることが出來ないし、この革命を維持することが出來ない。其れは、原則上明白なことである。其れはまた、ロシヤに於ける經驗によつて、明白なことであり、ハンガリーが確證してゐるところでもある。ロシヤに於ては、もしメンシエヴイキ、改良主義者、小ブルヂヨア民主々義者などが、黨內に殘存してゐるならば、確かにソヴイエット政權は、顚覆されたかも知れないやうな、困難な狀態が、屢〻生じたであらう。イタリーに於ては、一般的に認められてゐるやうに、今や、國家權力獲得の爲めの、ブルヂヨアジーとプロレタリアートとの決定的鬪爭が開始されてゐる。このやうな緊急時に於ては、メンシエヴイキ、改良主義者、ツラッチ派を、黨から驅逐することが、單に無條件に必要であるばかりではなく、また、動搖してゐて、改良主義者との『一致』の方への傾向を、暴露するところの、有名な共產主義者を驅逐し——彼等を、總ての責任ある地位から去らしめることが、必要なこととして承認出來る。○○の直前及び、その勝利の爲めの痛烈極まる鬪爭の瞬間に於ては、黨內部の最微小の動搖でも、一切のものの損失を來し、○○を水泡に歸

せしめ、プロレタリアートの手から、權力を奪還されることになる。何故なれば、この權力はまだ、確乎不拔なものにはなつてゐないし、これに對する突擊は、猶ほ强力なものであるからである。然るに、もし動搖不定な指導者共が、このやうな時期に取り除かれるならば、そのことは、黨を弱めるものではなく、反つて黨を、勞働運動や○○に於ける同樣に、强めるものであろ』。

不幸イタリーに於ては、そのことが、正しい時期に行はれなかつたので、吾々は、この不決斷の悲しむ可き結果を見た。

清算派に對する鬪爭期に於ける、組織問題に關するW・I・レエニンの見解の特質を明かにする爲めに、吾々は、次のやうな材料を引用する。卽ち、一九〇八年の十二月協議會の決議、十二月協議會の批評であるところのレエニンの『進出の途上』といふ論文からの斷片、『清算派の清算』といふ論文からの斷片——一九〇九年のボルシエヴイキ協議會の批評、それから最後に、ボルシエヴイキが、清算派を黨から放逐し、彼等と遂に分離することになつたところの、組織問題及び清算派に關する、ボルシエヴイキの一月協議會（一九一二年）の決議などを。

勞働階級の前衛としての黨

マルクスが既に『共産黨宣言』に於てなしたと同様に、レエニンが、黨を勞働階級の前衛として定義なしたことは、吾々は、上に述べておいた。特に其れは、コンミユニスト・インターナシヨナルの第二回大會に於て採用された、プロレタリア革命に於ける○○黨の役割に關する指導文の中に、明瞭に述べられてゐる。吾々は、こゝに其れを見るであらう。

『○○黨は、勞働階級の一部分であり、而も最も進歩的な、最も階級意識ある、從つて最も○○なものである。○○黨は、自然淘汰の方法に於て、最もすぐれた、最も階級意識ある最も獻身的な、最も見通しのきく勞働者をつくる。○○黨は、全勞働階級の利益と離反する利益を何ら持たない。しかし、○○黨は、全勞働者大衆とは異るものであつて、其れは、勞働階級の全歷史的進路に關する展望を、全體性に於て把握し、而して、この歷史的進路のあらゆる屈曲の上に於て、一集團或は一組合の利益を、擁護することにつとめるものではなく、勞働階級全體の利益の擁護につとめるものである。○○黨は、組織的政治的動力であつて、勞働階級の最も進歩的な部分の助力によつて、プロレタリアート及び半プロレタリアートの全大衆を、正しい進路に導く』

これは、レエニンが常に指導なしてゐたところの黨に對する、レエニンの教義の最も重要な原則を、短く拔萃なしたところのものである。レエニンは、コンミユニスト・インターナシヨナルの同じ第二回大會に於て、かう述べた。

『一の政黨は、あらゆる資本主義社會に於て、實際に階級意識ある勞働者が、單に、總ての勞働者の中の少數に過ぎないと同樣に、單に一階級の少數を包括し得るに過ぎない、かゝるが故に吾々は、廣大な勞働大衆は、たゞ意識ある少數者によつてのみ指導され、また指揮され得るものだといふことを、承認せざるを得ないのだ。而もこの少數者が、眞實に階級意識を持つてゐて、大衆の指導を理解し、議事日程にのぼるところの、あらゆる問題に對して、解答を與へることが出來るなら、其の時彼等は、實際に一の黨なのである。然るに少數者が、大衆の指導を理解せず、大衆との連結を持たないなら、彼等は、何ら黨なのではなく、たとへ彼等が、黨だと稱しても、彼等はその價値なきものだ』。

斯くて○○黨は、○○○○の爲めに、勞働階級の少數者を、單に彼等の成員にしなければならない。そのことを遂行する爲めに、○○黨は、勞働運動の背後にくつついて行くのではなしに、その先頭に立たなければならない。されば黨は、勞働階級及び勞働階級の總ての團體と、非常に密接に結びつけられてゐなければならない。即ち、勞働組合、協同組合、工場會議、議會及び國會に於けるフラクション、勞働者内部の諸團體、教化及び教育團體、青年同盟、それからプロレ

タリアートが、權力を把握した曉に於ては、ソヴイエット、○○諸機關等々と。而してこれ等の團體及び機關の中に、○○○○○は、彼等のフラクシヨンをつくらなければならないし、またこのフラクシヨンの媒介によつて、その團體及び機關を○○○○ければならない。このやうな戰術によつてのみ、ボルシエヴイキ黨は、あらゆる名稱の組織の○○に、○○なものである。

『急進派、共產主義の小兒病』の中で、レエニンは、黨が『プロレタリアートの階級的團結の最高形態』であるといふこと、其れが、プロレタリアート及び半プロレタリアートの諸團體の、他のあらゆる形態を指導し、またそれ等のものとの鬪爭にも、實際に關與しなければならないといふことを、述べてゐる。

其のことは、レエニンが、勞働組合や他の勞働團體の所謂る『中立』に對して、それから議會フラクシヨンその他のものの『獨立』に對して、決定的な反對をなした理由の、根據なのである。この『中立』及び『獨立』なるものは、實際に於ては、ブルヂヨアジー及びその代理人への最も恥づ可き從屬以外の何ものでもないのだ。

レエニンは、プロレタリアートがもし、自身の獨立の政黨を持つてゐないならば、戰勝プロレタリア○○を、○○○○することが出來ないといふことを敎へてゐる。さうであるなら勞働組合も

協同組合もまた、たとへそれ等のものが、資本の桎梏から解放の爲めの、勞働階級の鬪爭の歷史に於て、實に偉大な役割を演ずるとも、それを達成することは不可能である。ひとりロシヤのプロレタリアートは、强固なボルシエヴイキ黨を持つてゐたが故に、資本家と地主に對する勝利の獲得にすぐれてゐたのである。ひとりこの黨のお蔭で、また、この勝利の獲得の維持にもすぐれてゐたのである。

レエニンは、○○黨が單に、プロレタリア○○○○○○○○○○、○○であるばかりではなく、またその○○○○○○○、○○○○○○○○○、○○であるといふことを、敎へてゐる。○○黨はプロレタリア○○の○○○○○である。されば、○○○○○、○○○○○及び意志の統一、最强な○○やうな○○○○○、日和見主義者及び異分子の陣列からの驅逐が、特殊な重要性をおびて來る。

ボルシエヴイキ黨は、指導的黨となつて、其れとは無緣な分子に、くつつかれ出した。特に、苦難なブルヂヨア戰爭が終りになつた時、新しい經濟政策への過渡期に於て、それは險惡なものとなつた。レエニンは、黨を淨化することの問題を、大いに主張なし、昔のメンシエヴイキを百人中九十九人まで、放逐す可しと叫んだ。勿論それは、文字づらでだけ唱へられたのではなかつた。レエニン自身が、それを說明したやうに、彼れは、第一番に、十月革命の勝利以後に、ボル

シエヴイキ黨に參加したところの知識階級を、注目してゐたのである。卽ち彼れは、彼等知識階級が、利己的目的の爲めに、ボルシエヴイキ黨に入り込んだのではないかどうか、彼等が、ボルシエヴイキ黨とは無緣な、分解及び離反を來す分子を、入り込ませてゐはしないかどうか――に就いて、彼等知識階級に、特殊な注意を向く可きであると主張したのだ。思ふに、このやうな連中は、容赦なしに黨から驅逐されなければならない。『情けは少なければ少いほど、反つていゝのだ！』――さうレエニンの標語は唱へたのである。

黨の規律と黨の統一

革命的マルクス主義的戰線からの個々の離反に對する、和解しがたき鬪爭に於て、ボルシエヴイキ黨そのものは建設された。レエニンは、決して意見の差異を握りつぶさなかつたし、決して外面的體裁だとか、平和だとか、調和だとかによつて、それを蔽ひかくさなかつた。――反對に彼れは、あらゆる離反者と曲解者とに對して、革命家の全き熱情を以て、最後まで鬪爭なした。而して彼れは、單にメンシエヴイキ淸算派のみではなく、また言葉の革命主義者、オトゾヴイスト・ウルテマテスト及び神の創造派などの、分離や黨からの放逐にも、驚き後去りはしなかつた。

しかしながら彼れは、分裂の爲めに、決して如何なる犧牲をでも拂つたのではない。先づ第一に彼れは、革命的なマルクス主義の道に、誤れる同志を導く爲めの、あらゆる可能性を調べ上げた。而してそれが、總て何ら望ましい結果を招來しない時に始めて、彼れは彼等と斷然と分離したのである。最初の分裂以後に、卽ち一九〇五年、メンシエヴイキが革命的な大衆の壓力を强く受けて、左翼に傾き、而して實際的革命的鬪爭に於て、自らボルシエヴイキに近かづいた時、レエニンは同盟の爲めに盡力なした。その結果、一九〇六年の春には、ロシヤ社會民主勞働黨の聯合黨大會が開かれた。大會に於て、メンシエヴイキは多數を占めた。しかしレエニンは、黨から脫退するやうなことはなく、反つてその陣列の中にあつて、內部から黨を獲得せんとする鬪爭を開始した。かくて一九〇七年に於ける、ロシヤ社會民主勞働黨の第五回黨大會までには、ボルシエヴイキは、旣に首尾よく多數を保有してゐた。黨に於ける指導的役割は、ボルシエヴイキに移つた。而してメンシエヴイキは、たゞ一つの完全に結成されたフラクションを、黨內にとどめた。一九〇八年に其れが卽ち、公然と革命的黨の淸算派として出現したのであつた。

メンシエヴイキと共に一の黨に殘つてゐた間、當時レエニンは、民主々義的中央集權主義の原則に對して、黨の規律と黨の統一に對して、如何なる態度をとつてゐたか？　勿論彼れは當時、

フラクション闘爭の自由を主張し、討論の自由や、且つまた中央委員會の決議に對する、批評の自由を要求した。當時彼れは、特に斷乎として、メンシエヴイキ中央委員會に對する、諸團體の權利を主張した。しかし同時に彼れは、當時また、民主々義的中央集權主義及び嚴格な黨規律の原則を、たゞ一つの保留をおき、動かす可からざるものとして認めた。されば『カデット化された社會民主々義者との闘爭と黨の規律』といふ論文の中で、彼れは述べて云つた。

『吾々は原則的には、勞働黨、陣列内に於ける、規律の意義と規律の概念に關して、再三もう定義して來た。行動の統一、討論と批評の自由――をその定義で述べた。このやうな規律のみが、思ふに、進歩的な階級の民主々義的政黨に、相當するものである。勞働階級の强味は、組織にあろ。大衆を組織化することなしには、プロレタリアートは無力である。組織化してをれば、其れは全能である。組織は、行動の統一であり、實際的活動の統一である。しかし、あらゆる行動とあらゆる活動は、それ等のものが前進はするが、退却はしないといふ點に於て――それから、それ等のものが理論的には、プロレタリアートを結合し高揚はするが、低下し脆弱にはしないといふ點に於て、單にそれ故にのみまたその限りに於てのみ、明かに充分な價値を有するものである。無理論な組織は、無意義なものであつて、其れは權力を掌握してゐるブルヂヨアジーの憐れむ可

き協力者に轉化する。それ故プロレタリアートは、討論と批評の自由なしには、何ら行動の統一を考へることが出來ない。それ故階級意識ある勞働者は、あらゆる組織的關係の分裂を、餘儀なくせしむるほどの力ある、原則上の損傷が生ずることを、決して忘れることが出來ない』。

從つてこのことは、結果に於て、ボルシエヴイキとメンシエヴイキとの完全な分裂に導いた。しかし一九〇六年――一九〇七年に於ては、斷然たる分裂は、まだ時期尙早だとレエニンは考へてゐたので、それ故彼れは、メンシエヴイキに對して、時々は實に廣大な讓歩をさへもなした。例へば、國會への選擧に際して、自由主義者とのブロックの問題や、彼等との共同名簿の問題に於けるがやうにである。メンシエヴイキの中央委員會は、それ等の問題を提唱なしたのだ。レエニンは、自由主義者とのブロックといふことには、斷乎たる反對者であつたが、しかし彼れは、何らかより多くの不利益を避けるが爲めに、丁度開かれてゐた黨協議會が、この問題を解決する權利を、諸團體に與ふ可きだといふ主張をなしたのであつた。されば、このことに論及してゐる論文『カデット化せる社會民主々義者との闘爭と黨の規律』の中で、彼れは述べてゐる。

『吾々の黨は、それ自らの前に、二つの綱領を有してゐる。その一つは、協議會の十八人の代議員、卽ちメンシエヴイキとブンド派によつて、提議されたものである。他の一つは、十四人の代

議員、ボルシエヴイキ、ポーランド人及びレツトランド人等によつて、提議されたものである。諸組織の權能ある機關は、これ等の綱領を、變更するか、補足するか、或は新しいものに置き換へるかする自由を持つてゐる。而してこの權能ある機關が、それ等のものの決議をねり上げた後吾々黨員總ては、一人の人間の如く、行動することが出來るのだ。オデツサに於けるボルシエヴイキは、たとへ嘔吐を感じても、カデツトの名を選擧用紙に書いて、投票箱に入れなければならない。ところがモスコウのメンシエヴイキは、たとへ心でカデツトを思つてゐても、選擧用紙に社會民主々義者の名を書いて、投票箱に入れなければならないのだ』

こゝではレエニンは、メンシエヴイキに對して、それにふさはしい戰法を用ひなければならなかつた。しかし當時また、彼れは黨の規律を擁護した。而してその規律は、ボルシエヴイキがメンシエヴイキと、斷然分裂するや、特にボルシエヴイキ黨が、權力を獲得するに至るや、無論より嚴格なものにならなければならなかつたものだ。

一九二二年に於けるロシヤ共產黨の第十一回黨大會(其れは、ロシヤ共產黨の最後の黨大會であつて、レエニンはこれに個人として參加した)に於ける、演說の結論に於て、彼れは說いて云つた。

『吾々は常に、六十萬人の軍隊(吾々の黨)が、勞働階級の前衞とならなければならないこと、而

も鐵のやうな規律なくしては、吾々の任務を達成することが、殆ど不可能であることに、注目しなければならない。吾々の最も嚴格な規律の、適用と維持の爲めの根本條件は、獻身といふことである。規律適用のあらゆる古き方法手段は、破壞されてゐる。吾々は、吾々の行動に、高き段階の考慮と意識とを、基礎づけて來てゐるものだ。そのことは、他の國家の規律にもまして、より高度なものである、そして其れは、資本主義社會の規律が、少しでも維持されてゐるとしても、辛じて維持されてゐるところのものとは、全然異れる基礎の上にある規律を、實現する可能性を吾々に與へた』。

レエニンは、實に屢々この規律の問題を、取扱つてゐるものであつて、今日ロシヤ共產黨に於て、他の大衆黨に於ては、到底見られないやうな、黨の規律を吾々が持つてゐるといふことは、彼れに負ふところである。ロシヤ共產黨の敵手は、既に再三(黨の討議の間に於て)、ロシヤ共產黨に於ける黨の規律が、不斷に破られるといふことを喜んだが、しかしその度毎に、黨はその試練から、益々强固なものになつて行つたのだ。この規律の根本的意義は、次のやうなものであつたし、また次のやうなものであるであらう。卽ち、何よりも第一に、プロレタリヤ〇〇と共產黨の利益、これである!

しかしながらこのやうな規律を、行動の上に存立せしむる爲めには、根本的な問題に關する、全黨員の意見の充分な統一が、必要である。吾々はレエニンが第一にボルシエヴイキのフラクションに、次いでボルシエヴイキ黨内に、この意見の統一なるものを行ひ、その統一を破壞せんとするあらゆる連中と、決定的に鬪つたことを知つてゐるものだ。彼れは、ボルシエヴイキ黨内部に於ける、あらゆる集團及フラクションに對して、決定的な反對者であつた。何となればそれ等のものは、不可避的に黨を脆弱なものに導き、黨の統一とソヴイエット政府の支配に致命的な脅威を與へるからである。一九二一年に、勞働組合に關する討論の中に、或る過誤が明瞭になるやレエニンは、ロシヤ共產黨の第十回黨大會に於て、この過誤の決定的な排擊を主張した。『吾々は嚴酷なる困難によつて滿されてゐる條件の下に鬪ふところの一黨なのである。吾々は、統一を强固にする爲めには、明確な過誤をば、排擊しなければならないことを、叫ばなければならない』而して黨大會は、壓倒的な多數の投票を以て、その過誤を排擊なした。而も第十回黨大會は、レエニンが支持したところの、黨の統一に關する決議を通過し、かのフラクションや集團は、それによつて、決定的に排擊されたのであつた。

フラクションや集團の禁止は、勿論、紛議の的となつてゐる問題の討究や、指導的な黨機關の

活動の批評などの禁止を、意味するものではない。それとは反對に、總ての黨員は、細胞に於て一般會議に於て、協議會及び黨大會に於て、紛議の的となつてゐる問題を討究なし、指導的な黨機關の活動を批評し、而も彼れの動議を提出す可き權利を有してゐる。しかしながらロシヤ共產黨の第十三回協議會の決議の中では、かう述べてゐる。『黨内部の討議の自由とは、如何なる場合に於ても、黨の規律を破るやうな自由を、意味するものではない。黨の中央委員會及び總ての地方的な黨中央部は、黨の規律を動搖させようと企てる者の存在する、あらゆる場所に於て、鐵のやうなボルシエヴイキの規律を維持する爲めに、最も尖鋭な方法を、早速に執らなければならない』

斯くて批評の自由は、黨規律の自由にして無邪氣な損傷となつてはならないのだ。

第十回黨大會に於て、レエニンは述べた。『吾々は、何ら討論倶樂部なのではない。論文集や專門の文書を、吾々は勿論出版することが出來るし、出版するであらうが、しかし吾々は、何をさておいても、最も困難な事情の下に於て、鬪爭を餘儀なくされてゐるのだし、從つて吾々自らを統一的に結成しなければならないのである』。

紛議の的となつてゐる問題の討論は、單にそれを決定する爲めにゆるされる可きである。されば、黨の指導機關や、協議會もしくは黨大會が、その決定を行つた後に於ては、たとへあれこれ

の黨員もしくは或る團體全體が、その決定に同意しないとしても、その決定は、無條件に遂行されなければならないものだし、多數への少數の絶對服從を意味するものである。それこそ卽ち、ロシヤ共產黨の黨の規律の根本原則であり、レエニンによつて、黨內に實施されたところのものである。

黨の規律と黨の統一に關する、レエニンの見解を知らしむる爲めには、吾々はこの書物の中に、ボルシエヴイキの如何なる特質が、權力を獲得し、最も困難な事情の下に於て、其れを確保することに、あつかつて力あつたかといふことのすぐれた敍述のある、レエニンの著『急進派、共產主義の小兒病』からの拔萃を、再び收め、更にまた、勞働組合に關して、當時點火された熱情的な討議の一般的批判を含むところの、第十回黨大會に於けるレエニンの演說からの拔萃と、最後に、黨の統一に關する第十回黨大會の決議からの拔萃を、吾々は收錄するものである。

レエニンの遺言

レエニンは、黨組織に關する根本的な組織原則を、吾々に遺して行つた。其れは、今日も力あるものとして存續してゐるものであつて、〇〇〇〇〇〇〇、〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇、〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇。

これ等の根本原則とは、卽ち次のやうなものである。

一、共產黨は、勞働階級の前衞であるといふ敎義。この敎義は、マルクス及びエンゲルスからの引用で、レエニンによつて力說され、近代的情勢の下に、發展せしめられ、見ごとに適用されたものだ。

二、古い敎義ではあるが、而も共產黨の非常な多數によつては、運用されなかつたところのもの、卽ち黨の主なる幹部、所謂る〇〇〇〇〇の結成。

三、黨の全員の活動、組織の仕事への彼等の直接的參加。

四、黨組織の基礎、その『要塞』は、工場細胞であること。

五、共產黨は、黨外勞働者及び農民の組織の中の共產主義フラクションを通じて、勞働者及農民の大衆と密接に結合し、搾取者及び壓制者に對する彼等のあらゆる鬪爭に、能動的に參加なし且つまた、共產主義細胞及び共產主義フラクションを通じて、その鬪爭を指導しなければならないこと。

六、黨及コンミユニスト、インターナシヨナルに於ける民主々義的中央集權主義。

七、プロレタリア黨の爲めの鐵のやうな規律。

レエニン主義のこれ等の根本的な組織原則を、○○○○○○○○、○○○○○○○○・○○○○○○○○○○○○○○、なす可き尨大な仕事を有する。西部歐洲及びアメリカの○○○○○○○○○ては、社會民主々義的新聞『イスクラ』の第一號に於て、一九○○年にレエニンが書いたところのものを、今日でも說くことが出來る。彼れは、かう書いてゐた。

『組織問題は、吾々の最も苦難な問題の一である。この點では、吾々はロシヤの革命運動に於ける、古い勞働者よりも、著しく遲れてゐる。吾々は、この缺點を卒直に告白しなければならない。吾々は、單に閑暇な時間だけではなく、その生活全體を、○○○○○に捧げる男女を、訓練しなければならない。吾々は、勞働の種々な領域に於て、分業を移植することが出來るやうな、大きな組織を建設しなければならない』。

レエニンは、一九○一年に、『何をなす可きか』と題する論文の中で、かう述べた。

『吾々は、一の戰鬪的組織の形成につとめなければならないし、また、『灰色』の平和な狀態に於ても、『○○精神凋落』の時期に於ても、實に、政治的アヂテーションの指揮につとめなければならない。而も益々、このやうな狀態、このやうな時期に於てまさしく、この仕事は必要なものな

のだ。何故かなれば、○○○○○○の瞬間に於ては、組織の設置は遲過ぎるからである。組織は、その活動を卽座に展開することが出來るやうに、準備されてあらねばならない』。かくてこれは、西部歐洲及びアメリカ○○○○○○、全部的に適應するものである。

西部歐洲及びアメリカの共產黨は、それ等のものが、勞働者及び勤勞農民の大衆と、密接な結合を持つに至るや、其の時にのみ、組織問題の領域に於て、レエニンの考へを遂行することが出來るであらう。其れは、ボルシエヴイキ黨にとつても同樣なことであるが、かくて黨は、困難な情勢の下に於て、勞働階級及び勤勞農民の○○○、指導なすことが出來るのである。

共產黨と勞働大衆との、出來るだけ密接な結合を設ける爲めには、黨を、工場細胞の基礎の上に再組織することが、緊要なことである。黨外勞働者及び農民團體の中に、共產主義フラクションを形成しなければならない。黨の總ての成員が、能動的であること、及び地方組織がまた、イニシヤテイヴを示すこと、其れが必要である。

『尖鋭化せる階級戰の現在の時期に於ては』とレエニンは、『コンミンターン加入條件』の中で述べた——『共產黨は、單に其れが、最も中央集權化された方法に於て組織され、軍隊的規律に近似せる鐵のやうな規律によつて、統べくゝられ、而も黨の中央部が、廣大な權力を以て、黨全般

の信任を得てゐる權威ある機關である限りに於てのみ、その任務を遂行することが出來るであらう』。

『現在の「平常時」に於てさへも、民主々義的中央集權主義の原則を押し進めることは、必要である。それと同時に、革命的潮流の一時的退干や、多くの黨に於ける右翼及び左翼の離反の出現に鑑みて、以前にもまさる決斷を以て、マルクス主義及びレェニン主義のあらゆる曲解、嚴密に合致してゐるマルクス主義——レェニン主義の政策からのあらゆる離反と、鬪ふことそのことが必要である。黨の統一、それの陣列內の、內部的堅實及び嚴格な○○規律は、今や○○の時期に於けるよりも、より以上に必要である。かくて最後に、組織の伸縮性、轉變する情勢に對して其れを迅速に適應する能力——而もボルシェヴイキ組織の根本原則を保存する——が、必要である』（一）

これは一九二二年の終りに、コンミユニスト・インターナショナル第四回大會に於て、レェニンが演說の中で述べたところの、○○○○○○・○○○○○○○○○○○○○○○○○○○、○○○○の遺言である。○○○、○○○○○○○・○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○、○○○○○○○○○○○。

W・S・ミツコヴイツチ・カプスカス（コンミユニスト・インターナショナル執行委員會の組織部長）。

（一）、コンミユニスト・インターナショナル第四回大會に於けるレエニンの演說だと稱するこの『最後の引用文』は、『レエニンの死後に於ける誰かの言葉であらう』と言つてゐる日本の譯者渡邊、西兩君の見解に、本譯者も贊成するものである（譯者）。

二、何から始むべきか

（一九〇一年五月第四號『イスクラ』の『何から始むべきか』から）――英譯による――。

……吾々の意見では、總て吾々の活動の出發點、吾々が熱望する組織の創造への實際的第一歩、及び吾々をして不斷に、その組織を發展させ、擴大させ、深化せしめ得るところの要因は、一國民的（全ロシヤ的）な政治新聞をつくることである。新聞は、吾々が何よりも第一に必要とするところのものである、其れなくしては吾々は、一般的には社會民主々義者の主要な而も不斷の任務であり、特殊的には、政治上及び社會主義問題に於ける興味が、人民の廣大な部分を把握してゐるところの現在のモメントの緊要な任務であるところの、その廣大にして理論的に確實な宣傳と○○とを、組織的に行ふことが出來ない。個人的影響や地方的リーフレット、パンフレット等々の形態に於けろ個々の煽動を一般的且つ正規的に扱はれる○○によつて補充するの必要が、定期的な新聞の援助によつてのみ行はれ得るがやうに強くは、以前は決して感じられてゐなかつ

た。新聞の頻繁にして正規的な發行（及び配布）は、吾々の戰鬪的活動の初歩的にして最も本質的な部門が、如何なる程度に、强固に確立されたかを正しく測ることに、役立つもので、其れは殆ど誇張ではないのである。加之、新聞は全ロシヤの新聞であらねばならない。吾々が印刷になつた言葉の助けによつて、人民と政府の上に、統一的な影響を持ち來し與へることが出來ない限りは、吾々が、他のより複雜にして困難な、しかしより效果的である形態の影響を、統一的に與へ得ると考へるのは、空想である。吾々の運動は、理論的にもまた實際的（組織的）にも、殆ど大部分は運動の分散といふことに、換言すれば社會民主々義者の大多數が、彼等の見地を狹隘にし、彼等の活動を制限し、而も彼等の○○○な熟練と訓練とを障害するところの、地方的な仕事に沒頭してゐるといふ事實に、何より苦難を感じてゐる。私が上に述べたところの、孤疑逡巡をば吾々は、この分散といふことに歸せなければならない。而して、この缺點を取り去り、個々の地方的運動を、統一された國民的（ロシヤの）運動に變へる爲めの第一歩は、國民的な新聞紙をつくることである。結局、吾々が必要とするところのものは、政治的新聞なのである。政治的機關紙なしには、苟も政治運動と稱するに値ひする運動は、近代歐洲に於ては不可能なことである。このやうな新聞紙なしには、吾々の任務を遂行すること、謂はゞ、政治的不安及び不滿のあらゆ

る要素を集中し、それ等のものを以て、プロレタリアートの〇〇〇〇を充實することは、絶對に不可能である。吾々は、その第一歩を既に仕遂げ、勞働階級の中に、『經濟的』工場的威嚇の爲めの情熱を喚起して來た。吾々は今や、第二歩を踏み出さなければならない、人民の或る程度に啓蒙された部分の中に、政治的威嚇の爲めの情熱を、喚起しなければならない。吾々は、政治的威嚇の聲が、まだ脆弱であり、稀有であり、臆病であるといふ事實によつて、自ら勇氣をそがれるやうなことがあつてはならない。このことは、政治的暴壓に對する一般的屈從の爲めではなく、威嚇する能力と準備とを有する人々が、叫びかける爲めの演壇を何ら持つてゐない爲めであり、辯士の述べるところのものを、熱心に傾聽し、贊成する聽衆がない爲めであり、辯士は辯士で、自分にとつて價値あるやうな力を、同時に人民の不平を『全能な』ロシヤ政府に對して向けるに値ひするやうな力を、何處に於ても人民の中に認めることが出來なかつたが爲めである。しかしながら今や、一變化が起つてゐる。而も非常に急速な變化だが、今やそのやうな力——〇〇〇プロレタリアートが現存してゐる。其れは、單に政治鬪爭に對する訴へに傾聽し、それを支持する準備のみではなく、またその鬪爭の中で、大膽に鬪ふべき準備あることを示してゐる。されば吾々は今や、ツアー政府の國民的威嚇の爲めの、演壇をつくるべき立場にあるのであつて、また、さ

うすることは吾々の任務でもある。その演壇とは、社會民主々義的な新聞でなければならない。ロシヤの勞働階級は、ロシヤの社會の他の階級や層と對比して、政治知識に對して不變の熱望を示し、而も異常な不安の時期に於てのみではなく、不斷に、〇〇〇〇な文書を要求してゐる。その要求を滿し、經驗ある〇〇〇指導者の、既に開始されてゐる訓練を加へ大都市の勞働階級街に於て、工場地帶及び產業的村落に於て、眞の支配者となるところの、勞働階級の偉大な集中を行つたならば、政治的新聞をつくることは、プロレタリアートの力で可能なものとなる。而してプロレタリアートの媒介によつて、新聞は、都會の中間階級や、村落の手工業者や、農民に運び込まれ、かくして其れは、眞の國民的政治的新聞となる。

しかしながら新聞の役割は、單に思想の普及、政治敎育及び政治的同盟の形成といふことにのみ、限られてはゐないのである。新聞は、單に集中的な宣傳者、集中的な煽動者であるばかりではない。其れはまた、集中的な組織者なのである。その點に於ては、新聞は、建物の周圍に組立てられてゐるところの、足場に比較されなければならない。この足場は、未來の構造の輪廓をつくり、建築者間の聯絡をたやすくし、彼等が仕事を分擔し、組織立てられた仕事によつて、克ち得た共同の結果を見ることが出來るやうにするものである。新聞の助力によつて、而も新聞の周

團には、單に地方的活動體のみではなく、また、正規的な一般的仕事にも關聯するところの組織が、自動的に發達するであらう。而してその組織は、それの成員に、政治的な出來事を注意深く監視す可きを敎へ、人民の種々な層に於ける、それ等のものの意義及び影響を評價す可きを敎へ且つまた、○○○な黨を通じて、これ等の出來事に影響を及ぼす爲めの、妥當な方法を案出す可きを敎へるであらう。新聞に對する材料の正規的な支給と、新聞の正規的な配布を媒介する、單なる技術的な問題は、統一的な黨の媒介者の綱目を、(一)つくることを必要とするであらう。その媒介者達は、相互に緊密な接觸を持ち、一般的な情況をよく知り、國民的な全ロシヤ的な仕事の詳細な職能を、常に遂行するものであり、また、○○○な活動の組織に於て、彼等の力を試すものである。この媒介者の綱目は、吾々が必要とする組織の骨組、卽ち、全國を包含するに足るほど偉大なものである、精確にして詳細な分業を成就するに足るほど、廣大にして多面的なものである、あらゆる苦難、變動及び、豫期せない襲擊にも拘らず、それ自身の道に、それ自身の仕事を遂行するに足るほど、正しく試練されまた鍛錬されてゐる、優秀な集中的勢力に對して、公然の戰鬪を拒否することが必要な場合は、充分にさうすることが出來、而も敵の難境と動員出來ないことを利用して、敵が少しも攻擊を豫期してゐない場所と時間に、攻擊することが充分出來るや

うな骨組を、形成するであらう。今や吾々は、大都市の街頭に於て示威運動をなす學生達を支持するといふ、比較的單純な任務に當面してゐるが、明日はおそらく、吾々はもつと困難な任務、例へば或る地方の失業者運動を支持するといふ任務に當面するであらう。明日はおそらく吾々は農民の○○に於て、○○○役割をとる部署につく準備をしなければならないであらう。今日は吾吾は、ゼムストヴオに對する政府の攻擊によつてかもされた、緊張せる政治的情勢を利用しなければならない。而して明日は、ツアーのバシ——バザックの○○に對する抗議に於て、民衆を支持し、ボイコット、○○、示威運動等々によつて、彼等を助け、彼れが退却なす可く餘儀なくされる敎訓を、彼れに示してやらなければならない。戰鬪準備のこの段階は、正規軍の不斷の活動によつてのみ、仕遂げられることが出來る。吾々がもし、共同の新聞の經營の爲めに、吾々の力を結合するなら、その仕事は、最も勇氣ある宣傳者のみではなく、最も手腕のある組織者と、戰鬪命令を發するのに正しい時機を知り、而もその戰鬪を指揮することが出來るところの、最も才能ある黨指導者を用意し、持ち出すであらう……。

(一)、これ等の媒介者達(Agents)が、吾々の黨の地方委員會(團體や集團)との密接な結合に於て活動なす時にのみ彼等の活動が成功し得るといふことは、勿論理解されてゐる。實際、吾々が略述した全計畫は、たゞ委員會の最も能動

的な支持によつてのみ、遂行され得るものである。而もこの委員會とは既に再三統一的な黨を實現せんとする計畫を立てたところのもので、また其れは、遲かれ早かれ、何らかの形態に於て、その統一を達成すると考へられるところのものである。

集中的組織者としての新聞紙

（一九〇二年『何をなすべきか』から）

吾々がもし、總てか或は大多數の地方委員會、團體及び集團が、その共同の仕事にたづさはるやうに、し向けることが出來るなら、吾々は非常に近き將來に於て、全ロシヤに數萬部を正規的に配布するやうな、週刊新聞をつくり上げることが出來る。この新聞は、巨大な一對のふいごの役割をつとめ、階級闘爭や人民の不平のあらゆる火花を、一般的な大火に〇〇込むであらう。それ自身に於ては、甚だ單純にして無意味なものであるが、言葉の充分な意味に於ては、正規的にして共同の仕事であるところの、この新聞の周圍には、經驗ある闘士の常備軍が、組織的に糾合され、訓練を受けるのである。而してこの共同の組織的構造の足場と登り段の上に、やがて、吾吾〇〇〇の中からして、我が社會民主々義的ジエリヤボフが現れ、また我がロシヤの勞働者の中

からは、我がベエベルが現れ、而して動員軍の指導を行ひ、ロシヤの恥辱と災禍をなくなす爲めに全民衆を立たしめるであらう。吾々が夢想しなければならないことは、卽ちこのことなのである。

今日まで吾々の地方組織の大多數は、殆ど專心に、地方機關に關心なし、且つまた殆ど專心にそれ等のもののみに、能動的に働きかけて來た。このことは、誤謬である。實にその反對のことが、行はる可きである。地方組織の大多數は、專ら全ロシヤの機關に、關心なす可きであつて、主としてその點に集中されなければならない。而して、吾々がこのことを遂行するまでは、吾々は、あらゆる問題に關する新聞の〇〇を以て、運動に役立てることが出來ないであらう。しかしながら一と度びこのことが遂行さるば、必要な中央機關と必要な地方機關との間の正則な關係が、確立されるであらう。

三、文書の配布

（一九〇二年九月『吾々の組織問題に關して一同志への手紙』から）――英譯による――。

……地域的な團體に就いて述ぶれば、その最も重要な職能の一つは、當然、文書の配布を組織立てることである。法則としては、地域的な團體は、委員會と工場との間の媒介者として、それから傳達者としてさへも、活動す可きであると私は考へる。それ等のものの主要な任務は、委員會から受取つた文書の、正確にして○○○配布である可きである。これは、非常に重要な任務である。何故なら、吾々が配布者の特殊な地域的團體と、その地域に於ける總ての工場及びその地域に於ける非常に多數の勞働者住宅との、接觸を堅固にすることが出來るなら、其れは、示威運動の場合にも、また○○の場合にも、偉大な價値あるものであるからである。文書、リーフレット、宣言書等々の迅速にして正確な配布の爲めに、媒介者の綱目の作用を訓練するといふことは、偶發的に起るかも知れない示威運動や○○の爲めの準備の仕事の、大半を遂行することであ

る。不穩、ストライキ、○○の時機に於て、この文書の配布を、組織立てし出したのでは、其れは遲過ぎるのであつて、配布は、一ケ月に二度乃至三度すら行はれて、漸次に其れは遂行されてゐなければならないのだ。もし新聞がないなら、リーフレットを以て行はれなければならないのだが、配布機關は、如何なる場合でも、怠慢なものたらしめではならない。吾々はその機關を、全勞働階級人が助言を受けることが出來、且つまた、謂はゞ一夜にして彼等を動員することが出來るがやうな程度の完全なものにすることにつとめなければならない。そのことは、もし中央部からより狹小な媒介團體への、次ぎにそれ等の團體から配布者への、リーフレットの組織的傳達が行はれるならば、決して空想的な望みではないのである。

これは一九〇二年に書かれたものであるが、當時は一册の社會民主々義的リーフレットでも、合法的に配布することが出來なかつた。しかしこゝに說かれてゐるところのものは、吾々の新聞が合法的なものとなつてゐる國々には、等しく適用されることが出來る、吾々の合法的な出版物の廣大な配布は、注意深く組織立てられてあらねばならない（編者）。

四、經濟主義者の素人細工(二)と○○○の組織

（一九〇二年小册子『何をなすべきか』から）

（イ）『素人細工』とは何か

……吾々は、一八九四年——一九〇一年に於ける、典型的な社會民主主義的集團の活動に就いて、簡單な叙述をなすことによつて、この問題に答へることにする。この時代の青年學生のマルクス主義に對する無際限の熱狂ぶりに就いては、吾々は既に論及した。そもそもこの熱狂ぶりは、單に理論としてのみではなく、實際また理論としては大して重大なこともなかつたが、寧ろ『何をなすべきか』といふ問題に對する解答として、敵に對する戰鬪召集として、マルクス主義に對して生じたものであることは、自明である。而してその新しい闘士達は、驚嘆するほど幼稚な武裝と教養を以て、戰場にのぞんだのであつた。されば實に多くの場合に於て、殆ど全く武裝のなかつたことや、極く僅かの教養もなかつたことさへ示した。彼等は、鋤や單なる棍棒を持

つた農民の如く、戰鬪にのぞんだものだ。この一團の學生達は、古き運動家との何らの連絡なしに、他の地方に於ける或はまた、單に町の他の部分に於ける（もしくは他の學校に於ける）集團との、何らの連絡なしに、○○○な勞働者のたゞ一つの部分の組織すらなしに、何らか重要な時代の爲めの活動の、・何ら組織的な計畫もなしに、彼等は勞働者達と關係を結び、細工をし出したのであつた。而してその一團は、○○○○○○○○○○、○○

（このやうな公然の戰鬪とは、客觀的情勢に應じて、最初の○○○リーフレットか、もしくは最初

の號の新聞か、最初の示威運動の中に現れるであらう)。而も一般的には、このやうな活動は、その最初の發端に於て等しく、警察の爲めに直ちに全く押しつぶされてしまつたのだ。この直ちに全く押しつぶされてしまつたといふことは、實に、この戰鬪が、長期に亘る執拗な鬪爭の爲めの組織的で豫備的な、而も心ひそかに備へた計畫の結果ではなくして、單純に、傳統的に導かれた集團活動の自然發生的な發達であつたといふことに起因するものである。卽ち其れは、警察が勿論のこと、學生時代から既に目をつけてゐたところの、地方運動の主要な代表者達を殆ど絕えず見知つてゐて、而も、逮捕することが出來るがやうな明確な罪狀をつかむ爲めに、故意に集團をして充分な成長發展を遂げしめ、また故意に或る有名な人物を、常に『手蔓をつくる爲めに』取り殘しておき(このやうな術語は、私の知る限りでは、吾々によつて使用されてゐると共に、また憲兵によつて使用されてもゐる)、ひたすら一網打盡の爲めの最も好都合な時機を待つたことを意味してゐたのだ。思ふにこのやうな戰鬪は、棍棒を持つた農民の群れの、近代的な軍隊に向つての戰ひに、比較しないわけにはゆかない。○○○○○、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○、○○○○○、○○○○○○○○○○、○○○○○○○○○○○○○○○○○ばかりである。歴史的見地からすれば、この武裝の幼稚性は、端初に於ては確かに

不可避なものであつたばかりではなく、鬪士を包括的に引き寄せることの爲めの、一の豫定條件としては、適宜なものでさへあつたのだ。しかしながら、熱烈な戰鬪が開始（嚴密には一八八六年の夏に於けるストライキと共に、既に開始）されるや否や、吾々の戰鬪分子の組織の缺陷が、益益強く感知されるに至つた。政府は、最初はあわてふためいてゐて、幾多の過失を犯したが（卽ち社會主義者の恐る可きものなることの記述による社會への訴へ、もしくは勞働者の都會から地方の工業中心地への移送の如き）其の後間もなく、新しい鬪爭條件に自らを適應させ、密偵、間諜憲兵などの、完全に武裝せる部隊を、要所々々に配置することを覺つた。かくて、迫害が頻々として繰り返へされることになり、非常に多數の犧牲者を出し、地方的集團はきれいに一掃され、而して勞働大衆は、文字通りにその指導者を總て失ひ、運動は信ずることの出來ない飛躍的性質をとり、堅實にして間斷なき活動を、生起せしめることは全く不可能となつたほどであつた。地方運動家の驚歎す可き分裂離散、集團の續々として偶發したこと、理論的、政治的、組織的問題の領域に於ける、用意の缺乏と見解の範圍の狹小なことは、既に述べた事情からの、避く可からざる結果であつた。而して、或る地方に於ける勞働者達は、吾々の不屈性の缺乏やら、○○○の缺乏やらの結果、知識階級に對する不信用を持つに至り、彼れ等から離反して行くやうになつた

ほど、事態は進展したのであつた。卽ち彼等は、知識階級は、あまりにも輕卒に、破滅に導くと云つた。

（一）、渡邊、西兩君は、これを『素人細工』と譯してをられる。英譯では（Amateurishness）なのだから、それでよいと思ふ。しかし私は獨逸譯の方をとつて、『素人的不細工』とでもやつたら、直譯ではあるが、獨逸語の（Dilettantische Stümperei）の意味をはつきり傳へることが出來ると思つた。さう譯さうかと思つた。が、考へるに、どうもぎこちない。それでまた佛譯の（Primitivisme）の方をとり、『幼稚性』とやらうかとも思つた。その佛語は、普通は『原始主義』の意味だが、それは通り一篇の譯語で、『單純』『初步』などの意味もあるのだから、實はこれを『幼稚性』とやつてもよいと考へたのだ。第一內容から云つて、さう譯した方が、反つて意味がやさしく誰れにも判つてよいと思つた。

嚴密には原語は『クスタルニチエストヴオ』といふのださうで、『手工業的たること』の意味ださうだ。つまり近代的な科學的な技術を意味するのではないが、手工業的な謂はゞ幼稚な技術を意味する言葉のやうに考へられる。

兎に角、厄介な言葉で、さんざん迷つた揚句、よい智慧も出なかつたので本文に於ては別として、表題だけは、渡邊西兩君の譯語を踏襲することにした。

（譯者）

（ロ）勞働者組織と○○○組織

社會民主々義者がもし、政治鬪爭の概念を、『雇主と政府に對する經濟鬪爭』の概念と、いつしよくたにするならば、彼れが、『○○○の組織』の概念を、多かれ少かれ、『勞働者の組織』の概念と、いつしよくたにするものだいふことが、當然豫想される。それ故吾々が、組織に關して論ず

る時に、異つた國語を話してゐる場合のやうなことが、實際生ずるものである。例へば、私は、昔は未知の人であつたかなり推理的な經濟主義者との會話を、想起する。その會話は、『何人が○○○を成就するか』といふパンフレットに就いて行はれた。吾々は全く直ちに、そのパンフレットの根本的缺陷が、組織問題を等閑に附してゐることに橫はるといふことに一致した。而して吾々は、互に完全に同意見なのだと、實際考へ込むところであつた。しかし……その會話が發展するや、吾々は異つたことを考へてゐたことが、判つて來た。私の話相手は、パンフレットの著者が罷業基金、共濟組合等々を、等閑に附してゐたことを非難したが、しかし私は、○○○の『達成』の爲めには、必須なるものであるところの、○○○の組織に注目してゐた。かくて意見の相異が明白になるや、つまり、如何なる根本的問題に於ても、この經濟主義者と一致を遂げることが出來なかつたことを記憶する！

この意見の相異の根據は、何處に存在するか？　其れは、政治問題に於けると同樣に、組織問題に於てもまた、經濟主義者が不斷に、社會民主々義からはなれて、勞働組合主義の道をとるものだといふこと、そのことに存在する。社會民主々義者の政治鬪爭は、雇主及び政府に對する勞働者の經濟鬪爭よりも、遙かにより廣大にして、より複雜なものである。されば全く同樣に（ま

たそれ故に)、〇〇〇社會民主黨の組織は、このやうな鬪爭の爲めの勞働者の組織とは、別種のものでなければならない。勞働者の組織は、第一に、組合的な性質のものでなければならないし、第二に、出來るだけ包括的なものでなければならないし、第三に、出來るだけ〇〇なものであつてはならない（こゝでもまたこの先に於ても、私は勿論、單に專制ロシャに就いて云つてゐるのだ）。ところが〇〇〇の組織は、〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇、〇〇〇〇〇〇〇するところの人を、包括しなければならない（かゝるが故に私は、〇〇社會民主々義者を、念頭におく場合は、また〇〇〇の組織に就いて述べるものだ）。而して、このやうな組織の成員は、この共通の特質の前では、勞働者と知識階級人との間のあらゆる相異を、完全にすて去らなければならないのであつて、個々の職業的差異も、全然取り去られなければならない。かくて、この組織は、特に廣汎なものであつてはならないのであつて、〇〇〇〇〇〇〇〇〇。吾々は、この三つの部門の差異を、布衍して見よう。

政治的自由を有する國に於ては、勞働組合組織と政治組織との間の差異は、勞働組合と社會民主黨との間の差異が明瞭であると同樣に、全く明瞭である。後者の前者に對する關係は、歷史的法律的、及び其の他の條件に從つて、勿論各國共に異つてゐるであらう。卽ちその關係は、緊密

の度、複雜の度等々に、多少の差はあり得る（吾々の見地からは、其れは、出來るだけ緊密であり、出來るだけ複雜なものであつてはならない）。しかし勞働組合組織と、社會民主々義黨の組織との混同といふことは、自由の與へられてゐた國に於ては、議論にはなり得なかつたのである。ところがロシヤに於ては、一見しても、專制主義的抑壓の爲めに、社會民主々義的組織と勞働組合との間のあらゆる差別なぞは無視され、總ての勞働組合及び總ての團體が禁止されてゐて、勞働者の經濟鬪爭の基本的表現と武器、卽ちストライキが、つまり刑事上の犯罪として（時には政治的犯罪としてさへも！）見做されてゐるのだ。それ故ロシヤの事情は、一面に於ては、經濟鬪爭に於ける勞働者をして、政治問題に『突き當ら』しめ、他の一面に於ては、社會民主々義者をして、勞働組合主義と社會民主々義との混同に『突き當ら』しめてゐるやうなことになつてゐる（我がクリチエヴスキイ、マルチノフ及びその仲間は、第一の場合の『突き當り』に就いては、熱心に考へてゐるが、第二の場合の『突き當り』は、看過してゐるものである）。實際に於て、九十九パーセントまでが『雇主及び政府に對する經濟的鬪爭』に就いて、熱中してゐるやうな人々を、吾々が自身考へて見よ。彼等の中の或るものは、彼等の全活動期（四ケ月から六ケ月まで）の期間に於て、たゞ一度も、〇〇〇の複雜な組織を必要とするやうな問題に、突き當らなかつた。また

他のものは、比較的廣く普及されたベルンスタインの文獻に、おそらく『突き當り』、その中から彼等は、『灰色の日常闘爭の行程』の非常な重要性に就いての確信を汲み取つてゐる。最後に第三のものは、プロレタリア闘爭との『緊密にして組織的な結合』の、即ち勞働組合運動と社會民主々義運動との結合の、新しい見本を、世界に示さうとするところの、誘惑的な思想のために、おそらく心を奪はれるであらう。一國が、資本主義の從つてまた勞働運動の場裡に、歩み入ることが遲ければ遲いほど――とこのやうな連中は、論證するであらう――それだけ速かに、社會主義者は勞働運動に參加し、彼等の支持を、其れに與へることが出來るし、それだけ非社會民主々義的勞働組合は、存在することが出來ないし、また事實存在しない。而してこゝまでは、この觀察は全く正しい。しかし彼等が、其れを發展せしめて、社會民主々義と勞働組合主義との完全なる混合を夢見ることは、まさしく有害なことである。されば、吾々は直ちに、この夢想が、如何に吾々の組織的計畫の上に、有害な働きかけをなしたかを、『ベテルスブルグ闘爭同盟』の規約の實例に就いて見よう。

經濟闘爭の爲めの勞働者の組織は、勞働組合的な組織でなければならない。總ての社會民主々義的勞働者達は、出來るだけこの組織を要求し、この組織の中で能動的に活動す可きである。其

れは、正當なことである。しかし『職業組合』の成員が、單に社會民主々義者であるといふ主張は、全然吾々の興味とするところではなくて、謂はば其れは、大衆に對する吾々の影響の程度を制限するものである。雇主と政府に對する闘爭の爲めに、團結の必要を理解してゐるところの勞働者は總て、職業組合に加はつていゝのだ。實に、職業組合の目的は、單にこの初歩的段階の認識を持つてゐるところの、總ての人間を包括しない限り、且つまたこの職業組合が、非常に廣汎な組織のものにならない限り、全然達成することが出來ない。また、この組織が廣汎なものであればあるほど、それだけそれ等のものに對する吾々の影響が、即ち經濟闘爭の『初歩的』な發展に於てのみではなく、それ等のものの仲間に對する社會主義團體員の、直接的にして意識的な影響に於ても現れるところの影響がまた、擴大されてゆくのである。しかしながら組織の廣汎なる結成といふことは、緊密なる○○組織ではあり得ない（其れは經濟闘爭に關與するよりかも、遙か多大な訓練を必要とするものだ）。然らば、緊密なる○○組織と、廣汎な結成のこの必要とは、如何にしてその結合を計られるか？　職業組合組織が出來るだけ○○○なものであつてはならないといふことは、如何にして達成されるか？　一般的に見て、吾々はその爲めに、たゞ二つの道をとることが出來る。即ち職業組合の合法化か（幾多の國々に於ては、社會主義的及び政治的組

織の合法化が先行してゐる)、もしくは、大衆が成員となるのでは、○○○なものも殆ど等しく無効になるほどだらしないものになるが、○○組織の維持かいづれかである。

非社會主義的及び非政治的勞働組合の合法化は、ロシヤに於ては既に開始された。吾々の急速に發達した社會民主々義的勞働運動の、あらゆる一歩が、この合法化の意圖を、増進し促進するものであることは、何ら疑ふことが出來ない。そもそもこの意圖は、主としては現存制度の支持者から、持ち出されるが、しかし部分的にはまた、勞働者自身及び自由主義知識階級によつても持ち出されるところのものである。されば、合法化の旗は、既にヴシリエフ及びズウバトフによつて押し立てられ、オゼロフ及びヴォルムスの諸氏によつて、これが協力を誓約され、而もこの新しい傾向の支持者は、既に勞働者達の間にも現はれてゐるのだ。今や吾々にはまた吾々で、この傾向を考慮に入れなければならないのだ。では其れを、如何に考慮すべきであるか――其れに就いては、社會民主々義者の間には、二つの意見はあり得ない。吾々は斷乎として、ズウバトフやヴシリエフや、憲兵や僧侶の、この運動への參加が、どういふものかを知らしめ、彼等の眞の見解がまた、どういふものかを、勞働者達に明瞭にしなければならない。吾々はまた、勞働者の公開の會議に於て、自由主義政治家共がその演說の中で鳴らすところの調停的『協調的』音色を

――この音色が、平和的階級協調が望ましきものであるといふ、まつすぐな確信から生ずるにせよ、よい身分になりたいといふ願ひからにせよ、或は結局單純な粗忽からにせよ、其れを暴露しなければならない。吾々は最後にまた、公開の會議や認可された會合に於て『○○○○○』をさがす、合法的な組織を通じて、○○○○○○○○○○○○○、○○○けるところの係蹄に就いて、勞働者達に警告を發しなければならない。

しかしながらそれ等のことを總てなすと共に、吾々は猶ほ、勞働運動の合法化といふことが、終局に於て、吾々の爲めに有益なものであつて、ズウバトフ一派に有益なものではないといふことを、決して忘れてはならないのだ。これに反して、吾々の暴露戰野を通じて、吾々は實際、雜草から小麥を雜物から本質的なものを分離するであらう。而も吾々は既に、その雜草に就いては論及してゐる。小麥即ち本質的なものは、社會的政治的問題に對する、より廣汎にして最も進步の遲れてゐる勞働者層の獲得であつて、謂はば其のことは、嚴密に合法的なものである機能（合法的な文書の配布、相互扶助等々）から、吾々○○が解放されること、その展開が吾々にまたより多くの○○○を供給するに相違ないことを意味するものである。このやうな意味に於て吾吾は、ズウバトフやオゼロフの連中に、諸氏よ、ひたすら活動せよ、より廣汎な活動をしたまへ

！、と叫ぶことが出來るし、また叫ばなければならないのである。但し勞働者に對して、一つの係蹄（直接的な教唆の意味か、もしくはストヴイズムによる勞働者の『榮譽ある』買收の意味に於ける）を設ける限り、吾々はまさに、彼等を暴露する爲めに備へるであらう。しかし彼等が、眞に一歩でも前進してゐる限り――たとへ其れが、臆病なジック・ザックな性質のものであつても――吾々は、さあ、どうかと云ふであらう。眞の一歩前進は、たとへ其れが單に僅かの前進であつても、眞實、勞働者の活動分野の擴大であり得る。而して總てこのやうな擴大は、吾々には有益であつて、而もスパイが社會主義者を捕へるのではなく、社會主義者がおそらくその支持者を捕へ、指導するやうな合法的な社會の成立を、促進するであらう。簡單に云へば、吾々の任務は、今や雜草則ち本質的なものではない雜物に對して鬪ふことである。とは云へ、吾々の任務は本質的なものを植木鉢の中で育てることではないのだ。何となれば吾々は、雜物を取り除き、本質的なものの萠芽の爲めに、土壤を淨めるものであるからである。而も老紳士諸君が、植木鉢の中の培養を、行はんとしてゐる限りに於て、吾々は、今日の皮相的なものを刈り取り、明日の本質的なものを培ふことの出來るところの刈り取人を、用意しなければならない。(一)

(一)、その雜物に對する『イスクラ』の鬪爭は、『ラボーチエ・デエロ』の側に、次のやうな憤怒の結果を招來した。『イスクラ』にとつては、この春先にしなければならないことが、當面の目的ではなくして反つて勞働運動を『合法化』せんとするズバトフの代理人の憐れむべき企てにある。其れは、これらの事實がそれとは反對な傾向のものであることを見落し、勞働運動が官憲の眼に、大きな脅威を與へてゐることを眞實證明することを見落してゐる、（『二つの評議大會』の二七頁）。このことに就いては、『盲目的にして背教者的な』正統派の『獨斷主義』を非難しなければならない、彼等は、一メエトル伸びた小麥＝本質的なものを見ようとはしないで、而も一インチ伸びた雜草＝雜物と鬪つてゐるのだ！。そのことは、『ロシヤの勞働運動に對する豫想の歪められた感情』ではないか？（同上二七頁）。

斯くて吾々は、合法化するといふことによつては、出來るだけ○○○である、而も出來るだけ廣汎な、勞働組合組織の創造の問題を、解決することが出來ないのである（しかし吾々は、ズウバトフやオゼロフが、幾分かでも單にこのやうな解決を可能にするならば非常な喜びであるが、――而もその爲めに吾々は、出來る限り精力的に、彼等と鬪はなければならない）。それでこゝには、○○○勞働組合組織の道だけがとり殘されてゐるのであつて、吾々はこの道に、既に踏み出してゐるところの勞働者達に（實際既に承知の通り）、あらゆる助力を供給しなければならないのである。元來、勞働組合組織は、ひとり經濟鬪爭を展開し强固なものたらしめる爲めに、甚だ必要なものであるばかりではなく、また政治的○○○○○○組織の、實に重要な援助者であり得る。このやうな目的を達成する爲めには、それから生起なせる勞働組合運動を、社會民主々義者の望

むところの進路に向ける爲めには、ペテルスブルグの經濟主義者が、既に五ケ年間もこね廻してゐたところの、組織計畫の無意義性に就いて、吾々は先づ第一に、明白にしてかゝらなければならない。この計畫は、一八九七年七月の『勞働階級規約』の中と、一九〇九年十月の『勞働組合勞働者組織の規約』の中に、展開されてゐる。これ等の規約の根本的誤謬は、廣汎なる勞働者組織の詳細に亘る基礎づけと、その組織と〇〇〇組織との混合に横はつてゐる。吾々は、こゝで、より完全なものにつくり上げられてゐるところの、第二の規約に就いて見よう。それの本能は、五十二の項目から成立つてゐて、その中の三十二項は、制度、事務擔當、及びあらゆる工場に於て設けられる（十人よりは多くない）、而も『中央工場集團』を選出するところの、『勞働者團體』の權限を取り扱つてゐる。『中央集團は』と第二項は唱へてゐる『その工場に於て起る總てのものを究め、事件の記錄を擔當する』。『中央集團は、出納狀態に關して、毎月報告をなす』（十七項）等。而して十項目は、地域的組織に當てられ、殘りの十九項目は、『勞働者組織の委員會』と『ペテルスブルグ鬪爭同盟の委員會』との、非常に複雜な組み合せに當てられてゐる。

社會民主黨――は、勞働者の經濟鬪爭の爲めの『實行團體』である！　經濟主義の思想行程が社會民主々義の道を、如何に無視してゐるか、それから、プロレタリアの全解放鬪爭を指導することが出來る、〇〇〇の組織に就いて、社會民主々義者が考へてゐるところのことに就いて、如何に其れが、何らの理解も持つてゐないか、其れをより實際的に表示することは、殆ど不可能なことである。『勞働階級の政治的解放』に就いて、『〇〇〇の〇〇』に對する鬪爭に就いて論じながら而もこのやうな組織規約を起草したのは、謂はば社會民主々義の現在の政治的任務に就いて、極く僅かの理解も持たないことだ。この五十いくつの項目の中の一つでもが、大衆の間に、最も廣汎なる政治的〇〇を、卽ちロシヤ專制主義の全局面及びロシヤに於ける種々な社會階級の全歷史を、明かにするところの〇〇をなすことの必要なことを、ほんの少しでも明白に示してゐるものはないのである。而もこのやうな規約を以てしては、單に政治的目的のみではなく、勞働組合主義的目的をも、達成することが出來ない。何となれば、其れは、そこには何ら述べられてゐないが、職業によるまた專門による組織を必要とするからである。

しかしながら最上の特質はおそらく、滑稽なほどの細則の絲によつて、それから三段階の選擧制度によつて、個々の工場と『委員會』とを結合しようとつとめてゐるこの全『體系』の著しく鈍いといふことである。經濟主義の狹隘なる視野の中にとぢこめられて、官僚的嗅氣を帶びてゐるところの項目そのものには、もの〻考察が缺けてゐたのである。實際に於て勿論、これ等の規

定の四分ノ三は、適用されないものであつて、各工場にそれの中央團體を持つてゐるこのやうな『○○○な』組織は、○○○○○○○○○○○○、○○○○○○○○○○○○。我がポーランドの同志達は、全世界が勞働基金の廣汎なる基礎づけの爲めに熱中してゐた時、既に同樣の時機に遭遇したことがあつたが、それがたゞ○○○○○○○を提供するに過ぎないことを彼等自らが確信するに至るや、全く直ちにこの觀念を放棄した。吾々が廣汎な勞働者の組織を持たんと欲し、而も何らの大衆的逮捕を欲しない限り、また吾々が、憲兵に喜びとなるやうな材料を與へようとしない限り、吾々はこの組織を、ゆるやかなものたらしめること、そのことにつとめなければならないのだ。しかしその場合それ等のものは、立派に機能を果すことが出來るか？

吾々は『……工場に於て何が起り、何が事件の記録を擔當するか、總て研究する』（規約の第二項）この機能に就いて觀察して見よう。一體そのことは、嚴しく組織的なものにされてあらねばならないか？。特殊な團體の設立なしにも、そのことは、○○○○な新聞の通信によつても、充分達成することが出來ないか？『……工場に於ける條件を改善する爲めに、勞働者の鬪爭を指導する』（第三項）。こゝでもまた、形式は不要である。多少賢明な○○○なら誰でも、單純な會話の中からして、如何なる要求を勞働者が提出してゐるかといふことを察知して、更にそれ

相應なリーフレットを手に入れる爲めには、○○○の狹い、非廣汎な組織に、其れを傳達することが出來る『……一ルーブルに付き二コペックの寄附によつて……基金を制定する』（第九項）。而してまた毎月基金の報告をなすこと（第十七項）、未納者は除名すること（第十項）等々。そのやうなことは、警察にとつては直ぐさま、待ちかまへてゐた御馳走となる。何となれば『中央工場基金』のこのやうな全祕密事をつきとめて、基金を沒收して、活動分子を運び去るといふことは、何よりも容易なことであるからである。されば、著名な（非常に緊密で非常に○○○な）組織のスタンプのある、一コペツクもしくは二コペックの切符を發行するか、或は全く切符なしの募集を企て、その報告を一定の範圍の○○○○○○○、○○○○○新聞に公表する方がより簡單ではないだらうか？　かくしてその○○○○○○○○○○○○、○○○○○○○、手蔓をたぐるのに百倍も困難になるであらう。

私は規約の解剖を、猶この上續行することが出來るが、しかし既に述べたところで充分だと信ずる。最も信頼することの出來る、經驗に富んでゐる、且つ頑强な勞働者からなる、一の小さな强固な中心分子、主要な選擧區に於ては、信頼するに足る人間を有してゐる、最も嚴格な○○的なあらゆる規定によつて、○○○の組織と結合してゐるところの中心分子は、全く大衆の廣汎な

る協力によつて、一切の形式的なものはなしに、勞働組合組織が荷負ふところの機能を遂行し得るし、而もそれが、社會民主々義者の要求通りに、しかく確實に遂行することが出來る。このやうな方法に於てのみ吾々は、全く憲兵に拘らず、社會民主々義的勞働組合運動の確立と發達とを達成することが出來るのだ。

人は私に答へて、營つて登錄し記名した成員を持たないやうな、そんなゆるやかな組織は、組織として見做されなかつたと云ふであらう。おそらくさうであつたかも知れない。私は、名稱を問題にしてゐるのではないのだ。しかしこの『成員なしの組織』は、必要である總てのことを遂行するし、また當初から、吾々の將來の勞働組合と社會主義との强固な連關を保證するものである。○○○

あつて、學生が去ると――停止し、活氣を失つてしまふ。卽ち『委員會』が逮捕されて、新しいものはつくられず、それどころか休止の狀態に入り込むのだ。而も如何なる種類の委員會が、形成されるべきか誰れも知らない。おそらくそれは、從來のものとは、全然異れるものであるかも知れない。それで一人が口を切れば、他のもう一人は、それと正反對なことを主張するであらう。かくて、昨日と今日との間の連關は失はれ、過去の經驗は、將來に役立ない。其れは全く、運動の根が、深く大衆の中におろされてゐないからのことであつて、仕事の上で百人の愚者がないのに、十人の賢者があるからである。その十人の賢者なるものは、常に逮捕されるが、しかし組織が大衆を包括し、總てが大衆の中から出てゐるならば――其の時は、如何なる嚴戒と雖、そのものを破壞することは出來ないであらう』(六三頁)。

事實は正しく記述されてゐる。吾々の幼稚性の記述が、巧みに記述されてゐる。しかしその結論は、沒理性的であり、また政治的策のない點で、『ラボーチヤイヤ。ミスル』にふさはしいものである。筆者は、運動の『根』を『深み』におろさうといふ、哲學的、社會的――歷史的問題を憲兵に對する最善の鬪爭の技術的、組織的問題と、取り違へてゐるが故に、それ等のものは、最上の沒理性を示すものである。筆者はまた、惡い指導者をよい指導者に取り換へる代りに、主と

して指導者を、『大衆』に取り換へるものであるが故に、極端な政治的無策を示すものである。そのことは、政治的見地に於ては、吾々を逆轉し、政治的アヂテーションを、テロリズムの行動によつて置き換へようとするものであると同樣に、組織的見地に於ても、吾々を後方に投げ出さうとする試みである。眞實私は、この贅物から、非常な困難を感ずるものであつて、『スボボーダ』に於けるこの紛亂狀態の論評を、何處から始む可きであるかを知らないのである。それを明瞭にする爲めには、私は一の實例をひくことにする。卽ち獨逸人を見よ。彼等に於てはその組織に、大衆を包括し、總てを大衆の中から持ち出してゐること、勞働運動が、自分自身の足で立つことを既に知つてゐることを、おそらく否定するものはないだらう。實に、何百萬といふ大衆が、『十人』の確定的な政治的指導者を尊重することは、甚大であり、而してまた實に、大衆と指導者との密着は、强固なものであるのだ！　議會に於て幾度も、反對黨の代議士達は、次のやうな愚弄を社會主義にあびせたのであつた。『立派な社會民主々義者よ。諸君は口先だけで、勞働階級の運動をしてゐるもので、實際に於ては、いつも變りのない飾物の指導者なのである。其れは年から年中、十年經つても次の十年目にも、いつも同じベーベルであり、同じリープクネヒトである。諸君は、勞働階級から選出されるのだが、皇帝によつて任命される終身官と變りがないのであ

る！』。しかし獨逸人は、『指導者』に對して『大衆』を分離し、大衆の中に暗い空虛な本能を鼓舞し、『十人の賢者』に對する大衆の信賴を切り崩すことによつて、運動からその强固性と安定とを奪ひ取らうといふ、この惡煽動的な企てに對して、單に侮蔑的な嘲笑を向けたに過ぎなかつた。獨逸人の政治的な觀念は、充分な發達を遂げてゐた。而して彼等は、『十人』の有名な、(有能な人物は、何百人もは現れないものだ)、確定的な、職業的に養成された、而も永年の訓練を經た指導者なしには、現代社會に於ては、如何なる階級と雖も、何ら精力的な鬪爭を行ふことが出來ないといふことを、理解する爲めには、充分な政治的經驗を有してゐたのである。また獨逸人は、『百人の愚者』を甘やかし、大衆の『强大な拳』に媚び、而も彼等を(モストやハツゼルマンのやうに)、無分別な『〇〇〇』行動に驅り立て、確乎たる立派な指導者に對する猜疑をひろめんとしたところの、惡煽動家共を見てゐる。されば、社會主義の內部に於けるあらゆる惡煽動家的分子との、確乎不拔な鬪爭によつてのみ、獨逸の社會主義は、非常に成長なしまた强力なものとなつたのである。しかし我が大變な賢人共は、ロシヤの社會民主々義の全危機が、自發的に覺醒なせる大衆が充分に訓練や敎育や經驗のある指導者を持たないことを明白ならしめてゐる時代に於て、馬鹿者共の深慮を以て、『運動は下からのものでないなら、それは有害である！』と云つて叫

んでゐる。

『學生によつてつくられる委員會なるものは、役に立たないものであつた。其れは堅實なものではない』——其れは全く正しい。しかしその點に於て、〇〇〇

を燃やし、あまりに奴隷的に、自然發生的な『雇主と政府に對する勞働者の經濟鬪爭』にべこべこしてゐたからである。かくて吾々○○○○○○達は、この『押し進め』を、幾回となしに營まなければならないし、また營むであらう。しかし、確かに、諸君が撰んだところの『外面から押し進める』といふ言葉は、政治的智識や○○○經驗を、勞働者達に持ち込むところの總ての者に對して、勞働者（少くとも諸君と同樣に、進歩の遲れてゐる勞働者）の不信賴を喚起し、このやうな人々に對して、本能的に抵抗をなさしめるがやうな、しかくいやしむ可き言葉であるが故に——諸君は惡煽動家である、而して惡煽動家は、勞働階級の最惡の敵なのである。

全くさうだ！　諸君は、私の論爭の『非同志的な態度』に就いて、わめき立てゝはいけない！

私は決して、諸君の志向の正純なことを、疑つて見ようとしてゐるものではない。人がたゞその純な政治的處女性から、惡煽動家に陷り易いといふことは、私が既に述べた通りだ。而も私は、諸君が惡煽動家になりさがつてゐるといふことを、指摘して來た。私は、決して疲勞することなく、惡煽動家が、勞働階級の最惡の敵であることを、繰り返し唱へるであらう。其れは大衆に最惡の本能を鼓舞するが故に、進歩の遲れてゐる勞働者達をして、友人の如く振舞ひ、また同時に卒直に振舞ふところの、この敵に對する批判の眼を持たせないが故に、實に其れは最惡のもので

ある。また、動搖と內部崩壞の時代、吾々の運動が、始めて現出してゐる時期に於ては、大衆を惡煽動家的に動かすこと以上に、容易なことはないのであつて、大衆は最も困難な試練を通じてのみ、後で、惡煽動の誤謬を知ることが出來るに過ぎないが故に、其れは最惡である。されば、現在のロシヤ社會民主黨の當面の合言葉は、惡煽動家的になりさがつた『スボボーダ』、並びに惡煽動家的にこれもまたなりさがつてゐる『ラボーチエ・デエロ』(一)に對する精力的な鬪爭、といふことでなければならない。

(一)、こゝに附記しておくことは、『外面からの押し進め』といふことと、組織問題に對する『スボボーダ』の廣汎な考察總てとに關して、こゝで述べた一切が、全經濟主義者、卽ち『ラボーチエ・デエロ』にもまた、關係するものであるといふことである。何となれば彼等は、部分的には組織問題に於て同一の見解を主張し辯護し、また部分的には彼等は、その爲めに正しい道からそれてゐるからである。

『十人の賢者は、百人の愚者にも、まして、容易に逮捕され得る』。この輝ける眞理（百人の愚者には、拍手を以て迎へられるであらう）は、議論の進行中に於て、諸君が一の問題から、他の問題へ飛躍してゐるが故に、それ故單に自明なことであるかのやうに見えるであらう。諸君は『委員會』の逮捕、『組織』の逮捕に就いて論じ續けたが、今や諸君は、『深み』に於ける運動の『根』の逮捕といふ問題に、飛躍して行くものである。確實に、吾々の運動は、數千の根を深みにおろしてゐる

が故に、逮捕されはしないが、しかし其れが、全く問題なのではないのだ。『深みに於ける根』といふ意味に於ては、吾々を『逮捕する』ことは不可能であり、吾々の分裂にも拘らず、今日でもそれは不可能である。しかし吾々は皆な、運動の繼續性を破壞するところの、組織の逮捕に關しては、悲嘆なすものであり、またその悲嘆に、滿足することは出來ないのである。それで、諸君が組織の逮捕といふことに就いて述べ、其れを固執するならば、其の時私は、十人の賢者を逮捕することの方が、百人の愚者を逮捕することよりかも、遙かに困難であるといふことを、諸君に主張しなければならないのだ。而して諸君は、私の『反社會民主々義的』な態度に對して、甚しくも大衆をけしかけたりなぞするかも知れないが、私は、この原理をあくまで擁護するであらう。私が既に繰り返して强調したやうに、『十人の賢者』とは、組織問題の點に於て、其れが學生であると勞働者であるとに拘らず、等しく、○○○○○○の意味である。それで今、私は次のやうに主張する。(一)、○○○○○○○○○○○○○○○なくしては、確立されてあり得ないといふこと。(二)、大衆がより廣汎なものであつて、自發的に鬪爭にひき入れられゝばひき入れられるほど、而も運動の基礎が完成されてゐて、それに大衆が參加すればするほど、益々このやうな組織は必須なものとなり、益々强固なものとならなければならないといふこと（何故か

なれば其の時は、あらゆる種類の惡煽動が、益々容易なものとなり、大衆の進歩の遲れてゐる層が、もぎ取られてゆくからである。(三)、このやうな組織は、主として、○○○○○○○○、○○として行ふところの人々から、形成されなければならないといふこと。(四)、專制主義の國家に於ては、このやうな組織を『逮捕』するといふことは、吾々がこの組織の成員を限定し、○○○○○○○○○○○、政治的取締に對する鬪爭の技術に於て、職業的訓練を獲得してゐるがやうな成員だけを承認すればするほど、其れは益々困難なものになるであらうといふこと。次に、(五)、其の時は、運動に參加し、自發的に活動することの出來る、勞働階級並びに他の社會階級出身の人間の範圍が益々廣汎なものになるだらうといふことを。私は、我が經濟主義者、テロリスト及び『經濟主義テロリスト』[1]が、これ等の命題を混亂せしめ易いと思ふ。それでこゝに、最後の二つだけに就いて詳述しよう。『十人の賢者』と『百人の愚者』と、どちらが容易に逮捕されるかといふ問題は、上に取り扱つた問題、卽ち大衆の組織なるものが、非常に嚴密に○○○なものであり得るかどうかといふ問題に依存する。吾々は、たとへ○○○○○○○○○○○○○○○○、考へ得られないやうなことがないとしても、一の廣汎な組織を○○○○○○○○○○○○○○○○

大衆が實際的役割を演じないといふこと、○○○○○○○『何も彼も一切行ふ』といふことを、決して意味しないのである。それとは反對に、大衆は、このやうな○○○○○○を、常に多數除き去る。何となれば大衆は、『委員會』をつくるために、少數の學生と經濟鬪爭的の勞働者達を、糾合してゐたのでは、充分ではないといふこと、及び、○○○○○○○

れ、兩者の間の限界が抹殺されるといふことは、馬鹿らしいことであり、有害なことである。また、大衆運動への『奉仕』の爲めに、專心的に社會民主々義的活動にたづさはる人間が、必要であるといふこと、及びこのやうな人間は、忍耐と不屈性を以て、自ら○○○○○○たらねばならないといふことを、卽ち不分明にではあるが認められてゐる事實を、大衆の間に曖昧化さんとすることは、馬鹿らしいことであり、また有害なことである。

（一）、前のよりもこの名稱の方が、『スボボーダ』には、おそらくより相應しいものである。何となれば其れは、『○○○義の復活』に於ては、テロリズムを辯護なし、こゝで論じてゐるところの論文の中では、經濟主義を辯護してゐるからである。其れはさう望むが、不可能なのだ！——と吾々はつまり、『スボボーダ』に就いて述べることが出來る。その望むところと意圖するところとは、すばらしいものであるが、結果に於て其れは、混亂であり紛亂である。これは主として、『スボボーダ』が組織の恒久性に就いて主張して、革命的思想及び社會民主々義的理論のこの恒久性をば、認めようとはしないことに由來する。其れ自らは、○○○○○の出現につとめてゐても（『○○○義の復活』）、其の爲めに第一にはテロリズムを提唱し、第二には『一般的勞働者の組織を』提唱し、毫も『外面からの押し進め』といふことをしない——眞實を云へば、家を暖める爲めに、其れは家そのものを燒いてしまふものである。

然り、この事實の認識は、信ずべからざるほど曖昧化されてゐる。組織の點に於ける吾々の主要な過失は、吾々が、その素人細工によつて、ロシヤに於ける○○○の威信を落したことにある。理論的な問題に於ては、狹隘な視野に立ち、脆弱であり動搖的である、自己の無氣力をば、大衆

の自然生長性によつて正當化する人間、民衆の擁護者としてよりは、寧ろ勞働組合の書記を想起せしむる、遠大にして大膽なる計畫を立てる資格のない、敵に尊敬せしむることも出來なければ、自らの職業的技術、卽ち○○○○○に對する鬪爭に於て、無經驗無熟練であるところの人間——諸君に私は敢て云ふ！　其れは、○○○○はなくして、惜しむべき素人的幼稚性を示すものにほかならないのだ！

實際家諸君は、この辛辣な言葉に對して、私に憤慨しなくてもよい。この批評が、準備の缺乏といふことに關してゐる限り、其れは何よりも先づ、私自身にも關聯することであるからである。私は、非常に廣汎にして廣大な任務を帶びた或る團體の中で、活動してゐたのであつて——而して吾々總て、卽ちこの團體の成員達は、『吾々に○○○○○○○○よ。然らば吾々は、扇の要を解くが如く、ロシヤをくつがへすであらう！』といふ有名な警句をいろいろもじつて叫んでゐた歷史的時期に於ては、自ら素人であつたことを、苦痛と苦悶とを以て承認しなければならないものである。爾來私は、當時私が感じたところのこの烈しい羞耻を、より屢〻想起すればするほど、多々益々、その似而非社會民主々義者共に對する苦々しさを、心に增して行つたのである。實に、その似而非社會民主々義者たるや、自らの說敎によつて、○○○の職業をけがすものであ

り、吾々の任務が○○、○○素人にまでひきさげることではなくして、反つて素人を、○○○の域にまで高揚することであるといふことを、何ら理解しない連中なのである。

(八) 組織的事業の效力範圍

吾々が上に述べたやうに、B—Wは、『ベテルスブルグに於てのみではなく、全ロシヤに於てもまた感知されたところの、活動能力ある○○○の勢力の缺乏』に就いて論じてゐる。何人もこの事實に就いて、異議を持ち出さうとはしないであらう。しかし問題は、其れを如何に說明するか？ といふことにある。B—Wは述べて云つてゐる。

『吾々は、この現象の歷史的原因の說明には立ちいたらないであらう。吾々は單に、打ち續く政治的反動によつて紊亂してゆく、また既に現はれた或は今尙ほ現はれてゐる經濟的變動によつて壞亂してゐる社會が、それ自らの中から、○○○な仕事に有用な人間を、極く僅かの數提供してゐるといふこと、卽ち勞働階級は、勞働者○○○の提供によつて、一連の○○○的な組織を、部分的に補充してゐるが、この種の○○○の數は、時代の要求に適應するものではないといふことを、述べるに過ぎないであらう。勞働者は一日に十一時間半も、工場に於て勤務してゐるが故に

多々益々その立場上、アヂテーターの職能を主として遂行することが出來るのであつて、宣傳や組織、○○○的文書の刊行や再刊行、宣言の發行等々は、主として必然的に、極く少數の知識階級分子が負擔するのである』(「ラボーチエ・デエロ」第六號、三八、三九頁)。

B—Wのこの見解とは多くの點に於て、特に吾々が圈點を附した言葉とは、吾々は一致しないものである。この言葉は特に的確に、B—Wが(概して多少は深慮ある實際家のやうに)、我が素人細工の爲めに、甚しく苦んで來たものであつて、經濟主義の壓力の爲めに、そのたへがたき立場から、何らの進路をも求めることが出來なかつたといふことを示してゐるのである。否、その『問題』の爲めに有用な人間を、社會は非常に多數提供してゐるのであるが、吾々は、それ等の人間を有益に用ふることを知らないのである。この議論になる點に關する、吾々の運動の批評卽ちその過渡的狀態なるものは、何ら働き手はないが、而も働き手の群れは存在する、といふ言葉の中で把握されてあり得る。卽ち、勞働階級並びに極めて多くの種類の社會層は、年々絕えず益々多數の不平分子をつくり出す。而してその不平分子たるや、總ての人間はまだ認めてはゐないが、しかし益々廣汎なものとなる大衆によつて、益々鋭く感知されてゐるところの、專制主義のゆるしがたきものだといふことに對して、抗議をなし、また專制主義に對する鬪爭を支持する爲めに、

戰鬪力を準備する。かゝるが故に、實に、働き手の群れは存在するのである。が、而も同時に、そこには指導的な人物がなく、政治的な指導者もなく、またどんな微細な力でも利用する、廣汎にして集中的でうまく組織立てられた仕事をなし遂げることが出來るところの、組織者的才能ある者がないので、それ故働き手がないのである。元來、『○○○の組織の成長及び發展』は、B—Wもまた認めてゐるやうに、單に勞働運動よりは遲れるのみではなく、人民のあらゆる層に於ける、一般的—民主々義的運動の成長よりかもまた遲れるものである。(今日に於てR—Wは尙ほ且つ、これを、彼れの結論に對する補足として、おそらく、認めるであらう)。○○○事業の效力範圍は、運動の廣汎で自然發生的な基礎に比較しては、あまりに狹隘であつて、『雇主及び政府に對する經濟鬪爭』の貧弱なる理論によつて、其れはあまりにも壓縮されてゐる。しかしながら今日に於てはまさに、單に政治的○○○のみならず、社會民主々義的組織者もまた、『人民のあらゆる階級の中へ』[1]行かなければならないのだ。而してまた、實際家は何人でも、社會民主々義者が彼等の組織的事業の數千の部分的機能を、最も多種な階級の個々の代表者達に、振り當てることが出來るといふことを、殆ど疑はないであらう。仕事を專門化することの不充分なことは、B—Wが、しかく痛烈にしかく正當に嘆いて云つたやうに、吾々の技術上の大きな缺陷の一つである。

全般的事業に對して、個々の『作業』なるものが、微細なものになればなるほど、吾々は、この種の作業を達成する爲めに有用な人間(多くの場合、○○○○○たるには全く無資格な)を、益々以て速かに見出すことが出來る。○○○○○

も總ての中立的分子にもまた、味方の强力なことを吹き込むことである。卽ち好意的な中立者は、時として、事件を決定することが出來るものである。もしも、强固な理論的基礎の上に置かれ、社會民主々義的な機關の上に規定された、この種の組織を持合せてゐるならば、其の時は吾吾は、多數の近寄つて來る『異』分子が、運動をその進路から取り除くだらうといふことを、氣づかふ必要はないのだ（それとは逆に、今や實際素人細工の支配下に於て吾々は、多くの社會民主々義者が『クレエド』に力こぶを入れて、而も彼等が、ひとり自分等だけが社會民主々義者であると自負してゐるのを見受けるのである）。一言にして云へば、專門化するといふことは、必然的に中央集權化するといふことを、豫想するものであつて、またそれは絕對的に、そのことを要求するものでもある。

（一）、例へば○○○の集團に、最近民主々義的精神の疑ふ可からざる興起を認めることが出來る。其れは部分的には、勞働者や學生のやうな『敵』との○○○の場合が、非常に多くなつて來たからである。吾々の力を思ふやうに用ふることが出來るなら、吾々は直ちに、無條件的に、○○及び○○の間に、○○と○○を行ひ、我が黨に所屬するところの『○○組織』をつくることに、最も眞劍な注意を向けなければならない。

（二）、政治的な祕密政策（英譯による——譯者）。

（三）、私は一同志が、私に語つた話を想起する。其れは、社會民主々義者に助力しようとした、而して實際にまた助力したところの一工場檢察官に就いてである。その檢察官は、自己の『通信』が、實際に○○中央部に屆くかどうか、如

何なる程度に於て、彼れの助力が必要であるか、如何なる範圍に於て、彼れの重要ならざる小さな奉仕を有效ならしめることが出來るか、何ら判つてゐないことに就いて、彼れは非常に苦情を云つてゐたといふのであつた。實際家は何人でも勿論のこと、我が素人細工によつて、團結が失はれてゐるところでは、このやうな場合を少からず認めてゐる。工場の雇人や事務員のみではなく、郵便、鐵道、稅關の官吏、貴族、僧侶及びその他の官吏、○○○○○○○○○○○○○までが、單獨には『些細』な、總體的には頗めて高價なこの種の奉仕を、吾々に示すことが出來るし、また示すであらう！。而して吾々が正しい黨、卽ち○○○の眞に鬪爭的な組織を持つてゐるなら、其の時は吾々は、このやうな『助力者』なるものを、しかく熱心には問題にしないであらう。其の時は吾々は、彼等を常に無條件的に、『○○○○』○○○○○○○○○○○○○○れようとはあせらぬであらう。それとは逆に吾々は、多くの學生が『短期間』の○○○としてよりは、黨の公の地位に於ける『助力者』として、より必要なものであることを念頭に置き、それ等の人間を特に節用し、且つまたこの種の機能の爲めに、それ等の人間を專門的に養成するであらう。しかし私は、もう一度繰り返して云ふ。充分な活動力を有してゐる、非常に强固な組織のみが、この戰術を適用する資格があるものであると。

しかしながら專門化することの全必要性を、あれほど堂々と述べてゐるB—Wは、彼れが示した討究の後半に於て、吾々の見解によれば、其れを充分高く評價してゐない。彼れは、勞働階級からの○○○の數では、充分ではないと稱してゐる。それは全く正しい。この『精密な觀察者の高價な報告』が、社會民主黨內の現存の危機の原因に關して、從つてまた、その危機の救治方法に關して、吾々の見解を大いに確證してゐることを、吾々はこゝでまた强調するものである。一般に○○○のみが、大衆の自然發生的運動に追從するものではなく、勞働者○○○もまた、勞働大衆

の自然發生的運動に追從するものである。而してこの事實は、明瞭なかたちに於て、それからまた『實際的』な見地からも、單にその愚劣さを確證するのみではなく、勞働者に對する吾々の本分に關する問題の討究に當つて、非常に屢々述べられたところの、『教育上』の政治的—反動的性質を確證してゐるのである。またこの事實は、吾々の第一の最も明確な本分が、黨の活動力といふ點では、知識階級○○○と同一の水準に立つところの、勞働者○○○の養成機關の支持にあるといふことを立證してゐる（吾々は、黨の活動力といふ點では、といふ言葉を强調する。何故ならば他の點に於ても、勞働者にとつては、同一の水準に立つことは、全く必要なことであるが、其れはしかく容易なことではないし、またしかく緊急事でもないのである）。されば吾々が目的とするところは、當然、勞働者を○○○にまで高揚することであらねばならないのであつて、經濟主義者が主張するがやうに、○○○を『勞働大衆』にまで、無條件に低下させることでも、或は『スボボーダ』が主張するがやうに、『平均勞働者』にまで、無條件に低下させることでもないのだ（彼等『スボボーダ』は、この點に於ては、經濟的『教育上』の第二級に、昇級なしてゐるものである）。私は決して、勞働者に對する通俗文書の必要及び、特に進歩の遲れてゐる勞働者に對する、特に通俗的な（しかし全く無價値なものではない）文書の必要を、否定しようとするものではな

い。しかし私は、政治問題、組織問題に對する教育のこの永續的な混合に憤激するのである。『平均勞働者』といふことに、しかしこだはつてゐる紳士諸君、諸君は、勞働者の政治とか、勞働者の組織とかいふことを論じようとする前に、無條件に低身低頭しようとする、諸君の意志によつて寧ろ、勞働者を眞に侮辱してゐるのである。充分正直な態度で、眞劍なことを云ひたまへ。教育のことは、政治家や組織者達にではなしに、教育家にまかせたまへ。一體知識階級の間に、進歩的な分子も、『平均勞働者』も、それから『大衆』も存在するではないか？　知識階級にとつても、通俗的な文書は、多方面的にその必要が認められてゐるし、またそのやうな文書は、書かれてゐるではないか？　しかし諸君は、たゞ大學生及び專門學校生徒の組織に關する論文の中で、筆者が、何よりも『平均學生』の組織が、必要であるといふことを、一大發見として反復說明なさうとしてゐるのを考へて見たまへ。このやうな筆者は、確かに嘲笑されるであらうし、而も其の嘲笑は正しいのだ。而して、その筆者が、組織に關する諸君の觀念を述べてゐるといふのなら、諸君がもし、何とか組織に關する觀念を持つてゐるといふのなら、其れを吾々に見せてくれたまへ。吾々のうち、誰れが『平均的な人間』であるか、誰れが高くて誰れが低いか、正しく知ることが出來るであらう。しかし諸君がもし、組織に關する自身の觀念を、何ら持つてゐないならば

『大衆』とか『平均分子』とかいふことに關する諸君の全努力は、單なる冗長なものとなるのだ。『政治』及び『組織』の問題は、それ自身、吾々には非常に眞劍な論題以外の何ものでもあり得ないほど、しかし眞劍なものであることを、少くとも諸君は理解しておいてくれたまへ。吾々はこのやうな問題を論ずることが出來るやうに、勞働者を（○○○○○○○○○○○○○○）、準備することが出來るし、また準備しなければならない。諸君は既に一度、議論を進めたのだから、その上は、『平均的な人間』とか『大衆』とかいふことの背後にかくれないで、また、洒落や空言空語を以て、吾々をごまかさうとはしないで、正眞正銘な說明を與へたまへ。(一)

(一)、『スボボーダ』第一號、『組織』といふ論文の六六頁には、次のやうなことが記載されてゐる。『ロシヤの勞働者の名前で提出されたところの、總ての要求は、勞働階級巨人の重い歩みによつて、踏み固められるであらう』これは全く、花文字を以て書かれてゐた！。而して同じ筆者はまた叫んで云ふ『私は絕對に、知識階級に對して敵意を持つものではない、しかし……』（このしかしは、スチエドリンが『耳は額より高くは伸びない！』といふ言葉の中で述べたしかしと同じものである。……『しかし、人あつて多くの美しい立派なことばかりを語つて、而もそれを、彼れ自らの美彼れ自らの優越として、認めさせようと欲するなら、其の時はいつも私は、憤怒を感ずるものである』（六二頁）、然り、私もまた『いつもそのことに非常な憤怒を感ずる』ものである。

勞働者○○○は、自己の活動力の爲めに充分なる用意をなす爲めには、○○○○○○○と同一のものにならなければならない。それでB－Wが、勞働者は一日に十一時間半も、工場に勤務するのだ

から、（煽動以外の）他の○○○機能は、『否應なしに主として、極く少數の知識階級の負擔になる』と說いたのは、間違つてゐるのである。そのことは決して、『否應なし』に生ずるのではなく、吾吾の未發達性の結果であり、また、職業的な○○○、○○○、○○○、○○○○○等々たり得るところの、優秀にして才能ある勞働者を援助することが、吾々の本分であるとして、吾々が認めてゐないが故である。この點に於ては、吾々は實に、精力の恥づべき浪費者であつて、全く特別な注意を以て養ひ、發展させなければならないところの、その力の節約といふことを、理解してゐないものである。吾々は獨逸人に就いて見よう。彼等は、吾々よりも百倍も多くの力を持つてゐるが、實際に才能ある煽動家や其の他のものが、『平均勞働者』によつては、決して非常に多くは持ち來されないといふことを、彼等は充分に理解してゐるのだ。されば彼等は、才能ある勞働者達を、その才能の展開と活用を、充分に可能ならしめる地位に、直ちに置かうとつとめてゐるものである。卽ち彼等は、それ等の人々を○○○な○○○たらしめ、而して彼等の分野を擴大し其れを一工場から全產業に、一地域から全國に擴張することにつとめてゐるものである。かくてそれ等の人々は、自己の職業的經驗と熟練を獲得し、自己の視野及び知識を擴大し、而も他の地方及び他の黨派の優秀な政治的指導者を、手近かに於て觀察することが出來、從つてそれと同等

な高さにまで、自己を高めようとつとめるし、勞働階級團體の知識と元氣一杯な社會主義的確信を、職業的訓練を以て一致させようと欲するのであつて、この元氣一杯な社會主義的確信なしには、プロレタリアートは、優秀な訓練を有する一連の敵に對して、執拗な鬪爭を行ふことは出來ないのである。かくして、實にかくしてのみ、勞働大衆の中から、ベーベルやアウエルが出現するのである。しかしながら政治的に自由な國に於ては、廣大な範圍にまで、自發的に生ずるところのものを、吾々は、ロシヤに於ては吾々の組織によつて、組織的に遂行しなければならない。○○○○○○○○○○○○『○○』○○○○○○○○、○○○○○○○○○○○○○○○。○○○、○○○○○○○○○○、○○○○○○○○、○○○○○○○○○○○○○○○

あまりに高いものたらしめることを恐怖するところの態度を、持ち來してゐる。しかし恐怖する勿れ、紳士諸君！。考へても見たまへ、吾々があまりに高く高揚することが出來るといふ考へでさへ、實に馬鹿らしいものであるほど、吾々は組織の點では低い程度にあるのだ。

(二)、『○○○』組織と『民主々義』

然るに吾々の手近には、眞實このことを、この最大多數が恐怖するがやうな、『生活の聲』に對して、それほど敏感な、非常に多數の人間があつて、而も彼等は、こゝに述べたやうな見解をいだくものは何人でも、『ナロードボリズム』であり、『民主主義』を理解してゐないものであるなどと云つて、非難するのである。吾々は、『ラボーチエ・デエロ』によつてもまた、明白に行はれたところの、この非難の説明に立ち入らなければならない。

さて、この言葉の筆者には、ペテルスブルグの經濟主義者が、ナロードボリズムの『ラボーチヤイヤ・ガゼツタ』を、既に非難したことが、充分に判明してゐる（其れは、『ラボーチヤイヤ・ミスル』に比較するならば、また容易に理解されることである）。其れは全く驚くに足らざることであつて、『イスクラ』が出來て間もなくのこと、或る町の社會民主々義者が、『イスクラ』を『ナロ

ードボール[7]の機關紙』であると云つてゐるといふことを、吾々に或日同志は云ひふらしたのである。この非難は勿論、吾々に對する單におべつかである。何故かなれば相當しつかりした社會民主々義者で誰れが、經濟主義者から、ナロードボリズムスだと云つて、非難されないものがあるだらうか？

このやうな非難は、誤れる二樣の態度を持ち來すであらう。第一に彼等は、我が國に於ける革命運動の歷史に就いて、甚だ貧弱な知識を持つてゐるものであつて、ツアーリズムに對する決定的な鬪爭を宣告するところの、中央集權化された鬪爭組織のあらゆる觀念を、『ナロードボリズム』だと云つてゐるほどである。しかしながら、一八七〇年代の革命家が持つてゐた、而も吾々總てに模範として役立てられなければならないところの、卓越せる組織は、全然ナロードボルツイによつて、つくられたものではなくして、チエルノペレデルツイ[7]及びナロードボルツイに分裂して行つたところの、ゼムレボルツイ[7]によつてつくられたものである。かくて歷史的にもまた理論的にも同樣に、革命的鬪爭組織といふことで、多少特殊的に、ナロードボリズムを見るといふことは、其れは馬鹿らしいことなのである。何故かなれば眞に眞劍な鬪爭を考へてゐるところの革命運動なるものは一つとして、このやうな組織なしには、目的を遂行することが出來ないのだ。

ナロードボルツイの缺點は、彼等があらゆる不平分子を、彼等の組織に引き寄せ、この組織を、ツアーリズムに對する決定的な鬪爭への方向に導かうと努力したことに存在するのではない。逆にそのことは、彼等の歴史的功績なのである。彼等の缺點は實に、彼等が根本的には全然、革命理論ではなかつたところの理論に、立脚してゐたといふこと、及び彼等が、發展しつゝあつた資本主義社會内部に於て、彼等の運動を階級鬪爭と、不可分的に結びつけることを知らなかつたし、また結びつけ得なかつたことに存在してゐる。而して單に彼等のマルクス主義の粗雜な曲解（もしくは『ストルウビズム』の精神に於ける、それと同樣な『解釋』）のみが、自然發生的なプロレタリア大衆運動の興起が、ゼルレボルツイが持つてゐたやうな立派な、實に無比にすぐれてゐる革命家の組織をつくることの任務を、吾々から取り除くものだといふやうな見解に、導いて行くことが出來たのである。然るに實際はこれと反對に、この自然發生的な運動は、吾々にこの任務を課するものであつて、其れは、プロレタリアートの自然發生的な鬪爭が○○○の强固な組織によつて指導されない限り、この鬪爭は、眞の『階級鬪爭』にまでは全然成長しないのである。

次ぎに、第二には、多くの人々――其の中には明かに、B、クリチエウスキイも加はる（『ラボーチエ・デエロ』第十號十八頁）――は、社會民主々義者が常に示してゐたところの、政治鬪爭

の『○○○』な理解に對する論戰を、理解してゐないものである。吾々は、政治鬪爭を、陰謀的な框の中に閉ぢ込めることに、常に反對をして來たし、更らにまたさうするであらう。(一) しかしながらそのことは勿論、吾々が强固な○○○の組織の必要を否定することを、決して意味するのではない。例へば脚註に於てあげてゐる小册子の中では、○○○なものに、政治鬪爭を閉ぢ込めることに反對な論戰に就いて、また『專制主義に決定的な打擊を與へる爲めに』、『○○』並びに『他の攻擊手段』の一切を、用ふることが出來るほど、しかく强固な組織（社會民主々義的な理想として）に就いて、述べてゐるのである。(二) 勿論、その組織形態によるならば、このやうな强固な○○の組織は、專制主義の國に於ては尙ほ『○○○』な組織として見做されるであらう。何となればフランスに於ける『○○○』といふ言葉と、ロシヤに於ける其れとは、客觀的情勢によつて自ら異るものであり、而も○○○であるといふことは、このやうな組織にとつては、非常に高い程度に於て必要だからである。この○○○であるといふことは、このやうな組織にとつては、非常に必要な條件であつて、あらゆる他の條件（成員の數、彼等の選擇、機能等々）は、それと一致的なものたらしめなければならない。かゝるが故に、吾々がもしも、社會民主々義者が○○○な組織をつくらうとすることの非難を恐れるなら、其れは甚しい臆病である。このやうな非難は、

『ナロードボリズム』に就いての非難と同樣に、經濟主義のあらゆる敵に對するおべつかでなければならないのだ。

(一)、『ロシヤ社會民主々義者の任務』二一頁、P・L・ラフロフに對する論戰參照。(レエニン全集のロシヤ版第一卷——編者)

(二)、『ロシヤ社會民主々義者の任務』二三頁。次ぎにまた、『ラボーチエ・デエロ』が、それに何が述べられてゐるか知らないのか、それとも『風向きによつて』彼等の見解を變更するのか、どちらかであることのもう一つの說明を示す。『ラボーチエ・デエロ』の第一號に於て、吾々はイタリツクで印刷された次のやうな記事を見る。『このパンフレツトに述べられてゐる本質的な意義は、「ラボーチエ・デエロ」の編輯プログラムと、完全に一致してゐる』(一四二頁)。實際にか？大衆運動の第一任務を、專制主義の倒壞に置くことが出來ないといふ見解が、私のかの『任務』なるものと、果して一致してゐるか？『雇主及び政府に對する經濟主義的鬪爭』の理論が、其れと果してまた一致してゐるか？ 更らにまた、段階の理論なるものが、果してそれと一致してゐるか？ 一體『一致』といふことに關して、このやうに奇拔な觀念を持つてゐる機關紙が、果して確乎たる原則を持ち得るかどうか？ 吾々はその批判を、讀者諸君に求めるものである。

或る人は、吾々に反問するであらう。○○○な活動のあらゆる關係筋を、○○○○○○してゐるところの、强力にして嚴格な○○組織、卽ち必然的に中央集權的であらねばならないところの組織は、あまりにも輕々しく、時期尙早な攻擊に移るかも知れないし、また無思慮に、勞働階級に於ける政治的不平の成長、それから勞働階級に於ける激昂や苦惱の增大等々に於て、其れが可

能であり必要であることを、考慮して見もしないで、運動を突き進めるかも知れないと。而して吾々は、それに對してかう答へるであらう。抽象的に述べるなら勿論、一の鬪爭組織を、敗北に終るかも知れない情勢の下に於て、決して必然的なものでもないところの、無思慮な鬪爭に導くかも知れないといふことは、否定されないかも知れないと。しかしながら吾々は、このやうな問題に於て、抽象的な考察に自らを制限することは出來ないのである。何故かなればあらゆる鬪爭が、抽象的には敗北するかも知れないものであつて、さうかも知れないといふことを減少せしめる爲めには、鬪爭に對して、組織的な準備を與へるほかに方法はないからである。かくて吾々がもしも、この問題を、現代ロシヤの事情の具體的な見地から見るならば、吾々は、眞に運動を堅實なものたらしめ、其れをして無思慮な攻擊を回避せしめる爲めに、强固な○○○○組織を、絕對に必要とするものであるといふ結論を示さなければならないのだ。實際今や、このやうな組織が缺げてゐることにより、また○○運動の速かな自然發生的發展によつて、吾々は實に、二つの對立的な極點(卽ち其れは當然『一致する』ところの)を見るのである。卽ち、時には全然堅實ならざる經濟主義者と溫和主義の宣傳を、或はまた『發展を遂げ强固なものになりつゝある、しかしまだ終局よりは、その發端により近くあるところの運動に於て、人爲的に、その終局の徵候

を呼び起さう』と努力してゐる（同様に堅實ならざる『煽動的テロリズム』を（『ザーリヤ』[10]に於ける『V、ザスリッチ』[10]第二――三號、三五三頁）。而して『ラボーチエ、デエロ』の例は、この兩極點の間にあつて、武器をなげ出してしまつてゐるところの、社會民主々義者が既に存在することを示してゐる。このやうな現象は、他の原因によるものであるが故に、驚異に値ひしないものである。何故かなれば、『雇主及び政府に對する經濟鬪爭』なるものは、決して○○○を滿足させるものでなく、對立的な極點を常に、或はこゝに或はそこに、出現せしむるであらうからである。單に、社會民主々義的政策を確實に遂行する、謂はゞ總ての○○○本能及び努力を滿足さすところの、一の中央集權化された鬪爭組織のみが、運動をして無思慮な攻擊を回避せしめることが出來るし、また效果的に現れる攻擊を、豫め準備することが出來る。

或る人は更らに、こゝに述べた組織に關する見解が、『民主々義原則』に矛盾するといふことを、吾々に反問するであらう。前の非難が、特にロシヤ獨特のものであるが如く、このことは同樣に、特殊な異國的性質をおびてゐるものである。而して異國的組織（ロシヤ社會民主々義者の同盟）のみが、その編輯者達に、次のやうな指令を與へることが出來た。

『組織の原則。社會民主々義の效果ある發展及び結合を有利にする爲めには、その黨組織の廣汎

なる民主々義的原則が、强調され、發展され、擁護されなければならない。これは、吾々の黨の陣列内に於て、曝露されゐる反民主々義的傾向の面前に於ては、特に重要なものである』（『二つの評議大會』一八頁）。『ラボーチエ。デエロ』が、『イスクラ』の『反民主々義的な傾向』に對して、如何樣に鬪つてゐるかといふことは、吾々は、次の章に於て示すであらう。しかし今吾々は、經濟主義者によつて提出されてゐる『原則』を、差し當り批判して見ようと思ふ。何人も、『廣汎な民主々義的原則』そのものの中には、二つの次のやうな必然的な條件が、結びつけられてゐることを、おそらく承認するであらう。第一は、完全な公然性であり、第二は、あらゆる機能に對する選擧主義である。公然性を伴はない民主々義に就いて述べるといふことは、馬鹿らしいことであり、同時にその公然性なるものは、組織の成員に限られないものであらねばならないのだ。吾々は、獨逸の社會民主黨の組織を、民主々義的だと表明することが出來るけれど、其れは、黨内に於て總てのことが公然と行はれ、黨大會の開催もまた公然と運ばれるからであつて、而も黨員ではない人間からは、遮斷のヴエールによつて、祕密に包みかくしてゐるやうな組織を、何人も民主々義的だとは考へてゐないからである。かくて、この原則の根本條件が、○○な組織にとつて、遂行することの出來ないものであるならば、如何なる意味に於て、『廣汎なる民主々義的

原則』なるものが提唱されるか、其れが問題となるのである。元來その『廣汎な原則』とは、單に響きはよいけれど、中味の空な言葉であるに過ぎないのだ。而も其れは、それだけにはとどまらない。その言葉は、組織問題に於ける當面の差し迫れる任務に對する、非常な無理解さを示してゐるものである。我が國に於て、○○の『廣汎』な大衆の中に、如何に甚しくも○○○○○○○てゐるかは、何人も知つてゐる。吾々は、B—Wが如何に痛烈にそのことを悲嘆なし、全く正當に『成員の嚴密な撰擇』といふことを要求したかを、既に見てゐる。(『ラボーチエ・デエロ』第六號、四二頁)。而も今や、『生活に對する敏感性』なるものを誇示してゐる人々があつて、彼等は、このやうな事情に於て——最も嚴密な○○○○及び、最も嚴密な(從つてまた綿密な)成員の選擇を、强調せずに、反つて——『廣汎な民主々義原則』を强調してゐるのだ! 謂はば其れは、ハーゼン代理の煽動家なのである。

民主々義の第二の特徴——選擧主義に就いて見るも、其れは立派に行はれてゐない。この原則は、政治的自由を持つ國に於ては採用されてゐる。『黨の綱領の原則を認め、各人の力の程度に應じて、黨を支持するところのものは何人でも、黨員としての資格あるものである』——獨逸社會民主黨の組織規約の第一條には、さう述べてある。而して全政治的舞臺は、觀客を前にした劇場

の舞臺と同樣に、總ての人の目の前に公開されてゐるものであるから、それ故誰れが承認してゐるか、誰れが承認してゐないか、誰れが支持してゐるか、誰れが反對してゐるか、何も彼もが、新聞並びに人民大會に於て、判明する。總ての人々は、某々の政治家が、これ〳〵の出身者であること、これ〳〵の徑路をたどつたものであること、生涯の困難な時期に於て、彼れがこれ〳〵の態度をとつたこと、彼れが概してこれ〳〵の特性を持つものであるといふことを知つてゐるが故に、總ての黨員は勿論のこと、專門的な知識を以て、一定の黨の部署に、或る人間を選ぶことが出來るし、選ばないことも出來る。政治的分野に於ける黨員のあらゆる行動に關する一般的統制(言葉の文字通りな意味に於ける)は、生物學上の『適者殘生』を意味するところのものに到達する、自動的作用の機構を、つくり出すものである。完全なる公然性、選擇及び一般的統制を通じてのこの『自然淘汰』は、結局、各人がその『專門』にたづさはり、彼れの力量と能力を、最も適應せる仕事の擔當におき、彼れが失敗のあらゆる結果に就いて、自ら責任を負ひ、而もその失敗を自らよく知り、將來再び繰り返さないことが出來るといふことを、總ての人々の眼の前に立證すること、そのことの確證を與へるものである。さて、吾々はもう一度、このやうな狀態を、我が專制主義の政體にあてはめて見よう! 然らば『黨綱領の原則を認めて、その力量の程

度に應じて、黨を支持してゐるところの『總ての人々が、○○○○○○のあらゆる行動を、統制するものであるといふことは、我が國に於ては、考へられてゐることなのではないか？　而も勞働階級の利益の爲めに立つ○○○が、何人であるかといふことは、この『總ての人々』の十中の九までには、○○○しなければならない國に於て、これ等總ての人々が、總ての○○○の中から誰れ彼れを、選出するのだと、我國に於ではまた考へてゐるのではないか？　吾々は、『ラボーチエ・デエロ』が計畫の上に述べてゐるところの、偉大な言葉の眞の意義に就いて、少しく考察して見よう。さうするならば吾々は、○○○○○○○の中に於ける、黨組織の『廣汎なる民主々義』なるものが、○○○○○選擧壓迫によつて、單に無效果で有害なつまらないものに過ぎないといふことを、看取するであらう。果して、實際に於ては、如何なる○○○の組織と雖も、この廣汎な民主々義なるものを、決して達成したことがないし、且つまた立派に達成することも出來ないが故に、其れは、無效果なつまらないものなのである。また果して、この『廣汎なる民主々義原則』なるものを、實際に達成せんとする企ては、單に○○をして、廣汎なる逮捕を容易ならしめ、かの優勢なる素人細工を不朽ならしめ、實際家の思想を、○○○○○を養成するところの、眞劍で、緊急な任務からひきはなし、其れを選擧制度に關する、審かな『紙上』法則の作成に導

いて行くに過ぎないが故に、其れは、有害なつまらないものなのである。而してこの『民主々義の遊戯』は、單に、實際的な活氣ある仕事を見出すことが出來ない人間が、少からず集合してゐる外國に於てのみ、そこ、こゝに於て、特に種々な小集團の中に於て、發展し得たものなのだ。○○○○の爲めに、『ラボーチエ・デエロ』によつて主張された、民主々義の尊い『原則』に對するあらゆる異論を、讀者諸君に明示する爲めには、吾々はまた證人の陳述を引用するであらう。その證人――ロンドンで出してゐる新聞『ナカヌーネ』の編輯者、E、セレブリヤコフ――は、『ラボーチエ・デエロに對する大きな弱點と、プレハノフ及び『プレハノフ主義者達』に對する大きな憎惡をいだいてゐる。卽ち彼れは、在外『ロシヤ社會民主々義者同盟』[12]の分裂に關する、彼れの論文の中で、『ナカヌーネ』をして斷然、『ラボーーチエ・デエロ』の役割をとらせ、非常な勢ひを以て、プレハノフに對して哀れむべき言葉をあびせかけてゐる。それ故この證人は、吾々にとつて、その討究された問題に就いて甚だ價値がある。『ナカヌーネ』第七號（一八九九年七月）に於て、E、セレブリヤコフは、『勞働者自己解放團體の宣言』といふ論文の中で、『眞劍な○○○○に於て、所謂るアレオパーグ[一]の指揮』の問題を惹起することは、不當であるといふことに論及し、而も同時に、彼れは次のやうに書いてゐる。

(一)、アレオパーグ (Aeropag) とは、昔ギリシャのアテネにあつた小さな丘の名であつて、そこには當時の最高の裁判所があつた。故に、こゝでは其れは最高裁判所卽ち獨裁所の意味である(譯者)。

『ミシユキン、ロガチエフ、シエルイヤボフ、ミハイロフ、それから婦人のペロフスカヤ、フイグナー[13]及びその他のものは、決して自身を指導者だとは考へなかつたし、また何人からも、そのやうな地位に選擧されもしなかつたし、任命されもしなかつたが、それにも拘らず彼等は、實際に於ては指導者であつた。何故かなれば彼等は、プロパガンダの時期並びに○○との鬪爭の時期に於て、最も重大な責任ある仕事を引受け、最も危險な立場に立ち、而も彼等の活動は、最も高い程度に於て、有效なものであるからであつた。而して指導者たることは、彼等の望むところではなかつたが、しかし其れは、彼等が同志に示したところの、彼等の智力、彼等の精力及び獻身に對する信賴の結果であつた。しかし運動を獨裁的に統制する能力のあるアレオパーグを恐れるといふことは(もし其れを恐れないならば、何故そのことに就いて書くのか?)、實に全く無邪氣なことである。一體誰れが、そんなことに耳を傾けよう?』

吾々は讀者諸君に質問する。かの『アレオパーグ』なるものは、『非民主々義的傾向』と、何によつて異るか?『ラボーチエ・デエロ』の『立派』な組織原則は、眞に同程度に、無邪氣なもの

であり、また不當なものであることは、明白ではないか——無邪氣だとは、『同志に對して彼等が示したところの、彼等の智力、彼等の精力及び彼等の獻身に對する信賴』が、何ら存在してゐないなら直ちに、『アレオパーグ』もしくは『非民主々義的傾向』を持つ人々に、何人も單に耳傾けないであらうからである。不當だとは、其れが或る人間の虛榮心に、吾々の運動の眞實の狀態に關する他の人間の無智及び、○○○○の歷史に關する第三の人間の無智に、うまく取り入るところの、惡煽動的なやり方だからである。吾々の運動にたづさはつてゐる人間達にとつての、唯一の眞劍な組織原則は、最も嚴密に○○○なもの、最も嚴密に黨員を選擇なせるもの、○○○○○○をなすものでなければならないのだ。吾々がもしも、このやうな特性を持合せてゐるならば、直ちに、『民主々義』以上の或るものを、卽ち○○○の間に於ける、完全なる友誼的な信賴を、確立することが出來る。而してこの民主々義以上のものが、吾々にとつては絕對的に必要なのだ。何となれば我が國ロシヤに於ては、其れを民主々義的統制によつて、置き換へるといふことは、全く問題にはなり得ないからである。而して眞の『民主々義的』な統制が、不可能であるからして、○○○の組織の成員が、○○○○○○

○○○

吾々の運動に於て、實際に活動して來てゐるものは何人でも、この民主々義に關する『原始的』な見解が、青年學生及び勞働者の大衆の下に、如何に强大にひろまつてゐるかを知つてゐる。さればこのやうな見解が、規約並びに文書などの中に、滲透してゐるといふことは、何ら不思議とするに足らないのだ。ベルンスタイン型の經濟主義者達は、彼等の規約の中で、次のやうに述べてゐる。『第十條、全聯合組織の利益に關係するところのあらゆる事項は、總ての成員の投票の多數決によつて決定されなければならない』。而して理窟家型の經濟主義者は、次のやうに饒舌り立てる『委員會の決議は、總ての團體を通過したものであることが必要であつて、其の時始めて眞の決議となる』(『スボボーダ』第一號、六七頁)。レフレンダムの適用を廣汎なものたらしめんとするこの要求は、選擧原則の上に、全體の組織が形成さる可きであることを望む要求と共に、提唱されるであらうといふことに、吾々は注目する。吾々は勿論、眞の民主々義的組織の理論と實際に就いて、殆ど知悉することの出來なかつたところの實際家を、そのことの爲めに非難しようとは決して考へてゐるものではないのだ。しかしながら指導的役割を說いてゐるところの『ラボーチエ・デエロ』が、このやうな事情の下に於て、自らを廣汎な民主々義原則の決議に閉ぢ込める時、吾々はそのことを、單なる『效果を求めるもの』といふ以外に、一體どう見る可きであるだらう?

五、組織の一般形態

(一九〇二年九月『吾々の組織問題に關する一同志への手紙』から)

……今、工場團體に就いて一言する。このことは吾々にとつて、特に緊要なことである。卽ち運動の全主力は、確かに大工場に於ける勞働者の組織の中に存在する。何故かなれば大工場(及び職場)は、單に數に於て卓越してゐるのみでなく、その影響力發展力、鬪爭能力に於てもまたより優秀な、全勞働階級の部分を包括してゐるからである。されば、あらゆる工場は、吾々の要塞でなければならない。而してこの目的の爲めには、勞働者の『工場』組織なるものは、あらゆる〇〇〇〇組織と同樣に、それ自らの內部に於てはしかく〇〇〇なものであり、外部的には——卽ち國外關係に於ては——しかく『分派立て』られたものであり、またしかく廣大で非常に多種な方向に、その觸手をのばしたものでなければならない。私はこゝでもまた無條件に、勞働者〇〇〇の集團が、中心分子や指導者や『領袖』を、つくらなければならないといふことを强調す

るものである。吾々は、『工場』團體をも含む、社會民主々義的な組織の純粋な勞働者のもしくは勞働組合の、傳統的な型を、完全に打破しなければならない。工場の集團乃至工場（職場）委員會（非常に多數の人を包括する他の集團とは區別すべきである）は、直接委員會によつて、工場に於ける全社會民主々義的な仕事の指導の指令及び全權を與へられるところの、實に○○○○○から、形成されなければならない。而して工場委員會の全成員は、自身を委員會の媒介者として認めなければならないし、彼等は、委員會に命令する義務を負ふてゐるものである。丁度其れは、『戰場の軍隊』が、一切の『規則と風習』を嚴守し、それに加つてをれば、戰時に於ては上官の許可なしには、如何なる進退の自由をも與へられないのと同樣である。されば工場委員會を組立てることは、非常に大きな重要性を有するのであつて、委員會の配慮すべき主なることは、副次的な委員會を、正當に構成することでなければならない。而して私は、問題を次のやうに見るものである。卽ち委員會は、その成員の或るもの（及び勞働階級の或る一定の人間、何らかの理由からして、委員會の構成には屬してゐないが、その經驗、人智、その理解力、その諸關係によつて、有要であり得るところの人間）に、一般的に工場副次委員會を組織することを、委任してゐるものであると。而して委員は、工場全權委員と協議なし、確實に一連の會合を開き、やがて

工場委員會の成員として見做されるところの候補者を、正確に根本的に吟味なし、彼等を『黨派的な』嚴酷な試問に附し、必要なる場合は其他試驗に處し、其の時は關係工場の工場副次委員會の爲めの候補者の出來るだけ多數と、直接的に接見なし、而も彼等を吟味することにつとめ、而して最後に委員は、總ての工場團體の集會を强固なものたらしめること、及び某々勞働者に、全副委員會の組立て、名簿の作成、人選などの全權を與ふべきことを、委員會に向つて主張するのである。かくして委員會は、これ等の媒介者（エジエント）の中に誰れが、委員會との連絡の爲めに盡力するか、如何にしてその連絡が維持されるかといふことを、自ら決定するであらう（一般的法則によれば、團體の全權委員を通じてであるが、しかしこの法則には、猶ほ追加と修正が加へられるかも知れないのだ）。このやうな副次委員會の重要性を認める時、吾々は、出來るだけの範圍に於て、總ての副次委員會が、中央機關紙に對する通信交附の爲めの住所を持ち、また安全な場所に連絡本部を持つことを、努力しなければならない（卽ち副次委員會が○○○○○場合、その卽時的復舊の爲めに、必要であるところの傳達を、出來るだけ規則的に出來るだけ完全に、黨中央部に交附し而もその本部を、ロシヤの○○○○○○○○○○○來ない場所に置くことが出來るやうに）。勿論、住所の傳達が、委員會それ自身の裁斷によつて、委員會により決定さる可きであり、また

實際委員會の任意によつてゐるものであつて、或る實在しない『民主々義的』な權利によつてゐないといふことは、其れは自ら理解されることであらう。最後に、數人の成員から成立つてゐる工場副次委員會の立場を、委員會の媒介者（エジエント）（及びその候補者もしくは代理人）の任命に制限するといふことは、時にはより便宜であることを、こゝで述べておいても、おそらく無駄ではないであらう。かくて、工場副次委員會が形成されるや、その後に於ては、種々な任務を有する、異れる程度の○○○と形態とを有する、全系列の工場集團と工場團體の創造を進めなければならない。例へば、文書の配布及び散布の爲めの團體（其れは、最も重要な機能の一つであつて、吾々自身が眞に一の郵便局を持つてゐるがやうに、しかく構成されなければならない。從つてまた、散布の方法のみでなく、住居への配布の方法もまた、吟味に吟味をなし、總ての住居とその通路を、絶對に明白にしておくがやうに、しかく構成されなければならない）、○○○○文書の讀書會、○○○○○○團體、(一) 勞働組合運動及び經濟鬪爭を專ら指導する團體、談話を交へ、而も其れを長いこと、完全に合法的に（機械、工場監督等々に就いて）行ひ、而して危險なしに公然と議論が出來、勞働者の考へを聞き、土地の情況を洞察することが出來るところの、○○○○○○○の團體等々が、これである。(二) 而してその工場副次委員會なるものは、全工場を、それから勞働階

級の出來るだけ大きな部分を、最も多種な團體（もしくは媒介者（エジエント））の綱によつて、包括することにつとめなければならない。この副次委員會活動の成功程度は、多數このやうな團體が存在することと、移動宣傳者がそれ等のものに喰ひ入ることが出來るといふこと、それから何よりも第一には、文書の散布及び報告通信の受取りの爲めの仕事を、巧みに規則的に遂行するといふことに、依存するのである。

(1)、吾々は勿論、スパイ、惡煽動家、裏切者を屢々無條件的○○○○○○○

部が生ずる。而してこのやうな綱は、○○に於ては、文書、リーフレット、宣言及び委員會の○○な通信を配布するであらうし、また○○に於ては、示威運動及びそれに類した集中的な仕事を企てるであらう。第二には、全體の運動に役立たなければならないところの、一連の團體及び集團(宣傳、送附、各種の○○○事業等々の)が、委員會から生ずる。あらゆる集區、團體 副次委員會は、委員會の組織としての、或は委員會の支部としての、資格を有してゐなければならない。それ等いものの中の或るものは、ロシヤ社會民主勞働黨に加入しようといふ希望を、直接的に表明するであらう。而して委員會によつて、それが承認された場合は、彼等は黨に加入するであらうし、(委員會の發議乃至は同意によつては)彼等は、一定の機能を擔當するであらう。また彼等は、黨機關の命令に服從する義務を負ひ、從つて總ての黨員が持つ權利を有するに至るであらうし、かくて委員會の最も手近かな候補者として資格を有するに至る。しかし他のものは、ロシヤ社會民主勞働黨には參加しないで、黨員によつて基礎を置かれてゐる、もしくは何らかの黨の集團と結合してゐるがやうな團體内に、殘りとどまるであらう。

總て彼等の内部的問題に於ては、あらゆるこれ等の團體の成員は、委員會の會員相互に於けると同樣に同權であることは自明なことである。このことに就いての唯一の例外は、地方委員會と

(同樣に中央委員會及び中央機關紙と)個人的に交渉を持つ權利は、單に、これ等の委員會によつて指名される個人(乃至は人々)のみが、持つことが出來るといふこと、そのことに存する。總て他の點に於ては、この種の人は、委員會や中央委員會や中央機關紙に、通信をなす權利を有する(個人的にではなしに)他の人々と、同權である。このやうな譯で結局、そのやうな例外は、同權の何ら破棄を示すものではなくして、○○の絶對的要求に於ける、必然の特權を示すものである。『彼れの』集團の報告を、委員會や中央委員會や中央機關紙に、送附してゐないところの委員會會員は、黨に對する本分を破棄なせるものとしての責任を負はなければならない。而して、多種多樣な團體の○○○の限度と、組織形態が、如何なる程度の關係を持つかといふことは、その團體の機能の性質に依存するのであつて、從つて諸組織は最も多種多樣な性質のものである(非常に『嚴密』な、狹隘な、閉鎖的なものから、非常に『自由な』廣汎な、公然の、且つ不確定な形態のものに至るまで)。例へば、次ぎのやうにである。散布者團體にとつては、偉大な○○○○○○○○とが必要とされる。しかし宣傳家團體もまた同樣に、○○○を必要とするけれど○○○○○は、遙かに必要程度が低い。合法的な文書を讀んだり、勞働組合の問題や要求に就いての議論を行つたりする、勞働者の集團は、猶ほ一層○○○を必要としないといふやうな譯で

ある。而して散布者の團體は、ロシヤ社會民主勞働黨に、所屬しなければならないのであつて、而も其れは、その成員及び機能の一定數の人々をよく知つてゐなければならない。しかし、勞働組合の勞働條件を研究なし、多種多樣な勞働組合の要求を達成する團體は、ロシヤ社會民主勞働黨に、[15] 絕對に所屬する必要がない。一人か二人の黨員が、協力の下に於て、自己敎育を行つてゐる學生、官吏、雇人の集團では、一般に屢〻、黨に彼等が所屬してゐることさへも、知られてゐないといふやうな譯である。しかしながら或る意味から吾々は、總てこのやうな支派的集團に於ては、絕對的に、仕事を出來るだけ正式なものに形成することを、要求しなければならない。卽ち、これ等の集團に加はつてゐる總ての成員は、これ等の集團の仕事を指導することの爲めには、有責任であらねばならないし、また中央委員會及び中央機關紙に對して、總てこれ等集團の構成並びにその活動の全機構や活動の全內容を、出來るだけ明白ならしめることが出來る總ての規定を、正しく遂行するといふことは、其れは彼等の義務であらねばならない。このことは、一面に於ては中央部が、全體の運動の完全な概念を持つことの爲めに、他の一面に於ては吾々が、出來るだけ廣汎な範圍の人々の中から、種々な黨役員の選擧を行ふことが出來る爲めに必要なものであり、それから一集團により（中央部の媒介を經て）、全ロシヤに於けるこの種の總ての集團

を、敎導することが出來る爲めに、且つまたスパイや疑はしい人間の出現を警戒する爲めに、必要なものである。これを一言にして云へば、このことは、無條件に且つあらゆる場合に於て、當面の必要事である。

では、其れは如何にして遂行されるか？　委員會に對する規則的な報告や、この報告の中央機關紙に對する、內容に於ては出來るだけ多樣な、數に於ては出來るだけ多くの傳達や、中央委員會及び地方委員會の成員による、個々の團體の訪問を組織立てることや、最後に、これ等の團體との連絡、卽ちこれ等の團體の數人の成員の名前と住所を、安全な地點（及び中央機關紙や中央委員會の黨事務局）に、義務的に傳達すること、これ等のことによつて遂行されるのである。而して單に、その報告を送附し、その連絡を通達した時、その時にのみ、一のこのやうな團體に加入してゐる黨員は、自己の義務を遂行したものだ。卽ち、單に全體の黨が、實際的な活動をしてゐる個々の團體によつて、敎導されることが出來る時にのみ、○○○○○○○、○○○○○○○○○時にのみ、種々な團體と連絡が成立してゐることによつて、我が中央委員會の代表者を、直ちに補充することもその仕事を復活せしめることも、常に容易に出來るのである。さればO○○○○○○○○、○○○○○○○○○、單に指導者を失ふ意味であつて、そ

の爲めには候補者が、既に存在してゐるのだ。而して吾々は、報告の送附や○○○○○○○○○、不可能であるとは、主張しないのだ。吾々は、我が國に於て、委員會や、中央委員會や、もしくは中央機關紙が存在する限りに於ては、交附すること（乃至傳達すること）や送附することや連絡をつけることが、可能であるし、また常に可能である――ことを、單に望むのである。吾々は今や、全體の黨組織及び黨の活動に關する、頗る重要な原則にまで到達してゐる。卽ち、その運動及びプロレタリア○○○○の、觀念的實際的指導に關して、出來るだけ大きな中央集權主義が必要であるならば、その時は、運動に關して、黨の中央部（從つて一般的には全體の黨）が情報を受けてゐるといふ點に於て、黨の責任を果さなければならない點に於て、最大限の地方分權主義が、必要なものとなる。元來運動は、出來るだけ少數の、出來るだけ同種の、充分な經驗のある○○○○○○の團體によつて、指導されなければならない。而して運動の中には、出來るだけ多數の、出來るだけ種々樣々な、プロレタリアート（及び其の他の人民階級）の最も多種な層からの集團が、參加しなければならない。而も斯くの如き個々の集團に關しては、黨中央部は常にそれ等のものの活動に就いての明確なる通告のみではなく、それ等のものの構成に就いての、出來るだけ完全な通告を、發しなければならないのだ。吾々は、運動の指導を、中央集權化しなければならない。吾々は、それと同樣に（而も、報告なしには何ら中央集權化することは出來ないが故に、その爲めにも）、黨に對する責任を地方分權化し、其れを、あらゆる個々の黨員、活動のあらゆる參加者、あらゆる黨の構成に屬してゐる、もしくは其れに結合してゐる團體に、負擔せしめなければならない。このやうな地方分權化は、○○○な中央集權主義にとつては、必須な條件であり、其れに對する必然的な正しい方法である。眞にこの中央集權主義が、完全に達成され、而も吾々が、一の中央機關紙及び中央委員會を有するに至れば、あらゆる最も小さな集團にとつても、それ等のものと連絡を持つことが出來――且つまた、中央機關紙及び中央委員會との連絡は、單に可能であるのみではなく、多年の實踐を通じて仕遂げられる規則正しいものになり――其れは、何らか地方委員會の結成に於ける、失敗の悲しむべき結果の生ずる可能性を、取り除くことになるであらう。而して今や吾々が、專ら黨の眞實の統一及び、實際的、指導的中央部の創造につとめてゐる場合、黨中央部に對する責任並びに黨機關のあらゆる活動による通告に於て、吾々が同時に、最大限の地方分權主義を實施しないならば、この中央部なるものは、無力に終るといふことを、吾々は特に充分念頭に置かなければならないのである。このやうな地方分權主義は、一般的に認められてゐるがやうに、吾々の運動の當面の實際的必要事の一であるところ

の、分業の反面にほかならないのである。指導的組織として、一定の組織を公然と承認すること、形式的な中央委員會を創設することは、何等、吾々の運動を眞に單一なものたらしめ、而もまた強固な鬪爭的な黨を創造するものではない。もし黨中央部が、古い型の地方委員會によつて、直接的で實際的な活動から、切りはなされてゐる限りは、卽ち一方に於ては、あらゆる可能な事を取り扱ふが、〇〇〇活動の何らかの機能には、身を捧げてゐない、特殊な企てに對しても、責任を有してゐない、自己が引受け、よく考へ、準備をした仕事を、最後まで遂行しない、莫大な時間と力とを、急進主義の彼方此方に空費するやうな、實に多數の人々を所屬せしめてゐる——他の一方に於ては、その半數は概して委員會に認められてゐない、而して他の半數は、同樣に粗野で特性を持たず、自らの職業的經驗をまた同樣に積んでゐない、他のものの經驗を利用しようとはしない、眞に委員會と同樣に、『總てのことに關して』はてしなき物議や選擧や規約の作製に從事する、實に多數の學生及び勞働者の團體を存在せしめてゐるが如き委員會によつて、切りはなされてゐる限りは。思ふに、中央部をしてよく活動することが出來るやうにする爲めには、地方委員會そのものを改造し、特殊化し、且つそれを、何等か實際的な機能に於て、眞に『完全』なものとなり得るところの、より『事務的』な組織たらしめなければならない。また中央部をして、

評議を行はしめ、その議論論爭に當らしめるのみではなく（今日まで行はれて來たやうに）、眞實にオーケストラを指揮せしめることが出來るやうにする爲めには、誰れが何處で如何なるヴアイオリンを彈いてゐるか、何處で如何にして彼れが、如何なる樂器を彈くのを學んだか、また學んでゐるか、誰れが何處で如何にして誤れる彈奏をしてゐるか（もしも音樂が非常に聞きにくいものであつた時は）、而してその誤れる音色を訂正する爲めに、如何なる人間を、如何にして何處に置き換へなければならないか、等々のことを、正確に知ることそのことが必要である。今日に於ては——かうしたことが公然と唱へられてゐなければならない——吾々は、委員會の宣言や一般的通信以外には、委員會の眞實の內部的活動に就いては、何事も知つてゐない。知つてゐても、友人や個人的よしみある知人を通じて、そのことを知つてゐるのだ。而もこれが、ロシヤの勞働運動を指導し、〇〇〇

ところの、媒介者（エージェント）の完全な隊伍の綱をつくり上げること、最後に、種々な機能を擔當するか、もしくは社會民主黨に結成されてゐて、それを援助なし、自らも社會民主々義者たらんとつとめてゐるところの個人を、結合してゐるところの、多數の集團及び團體を創設すること、而もそれに際しては、委員會及び中央部に、これ等團體の活動（及び構成）を、常に通告しなければならないこと――これ等のことに、ベテルスブルグや總て他の黨委員會の再組織の問題が、横はつてゐなければならないのであつて、從つてまたそこに、規約の問題の非常に重要ならざる意味が存立してゐるのである。

（以下二節は英譯による）――譯　者

宣傳家の團體

……今や私は、宣傳家の團體に關する問題にうつることにする。あらゆる地域に於て、この種のものを組織するといふことは、宣傳家が缺乏してゐるといふ見地からすれば、殆ど不可能なことであり、また殆ど望み得ないことである。宣傳は、全體として委員會によつて遂行さる可きであつて、嚴密に中央集權化されなければならない。さればそのことに關する私の考へは、次

のやうなものである。卽ち委員會は、宣傳家の團體（委員會の支局として活動するか、乃至は委員會制度の一つであるところの）を、組織することを、その成員の或るものに委任するものである。地域的團體の奉仕を、○○○に役立てるこの團體は、全都市を通じて、宣傳を行ひ、また委員會の『權限で』、あらゆる地方に於て宣傳を行ふ。もし必要なら、この團體は、副次的團體を設置するであらうし、實に委員會の單なる承認を得て、その機能の或るものを變移するかも知れない。而して委員會は、常に無條件に、各團體、副次團體、もしくは運動に少しでも何らかの接觸を有する團體に對して、その代表者を特派する權利を有する……。

ついでにまた私は、宣傳家の問題に關して、猶ほ二三の言葉を述べ、其れに對しては無能力な人間に、この仕事を擔當せしめ、宣傳家のレベルをしかく低める通例の事實を、批評して見よう。殆どあらゆる學生が、何らの選擇もなしに、宣傳家として認められてゐるのであつて、我が青年の全部は、彼等が『團體を與へらる』可きことを求めてゐる。このやうな傾向は、其れは非常に多くの障害を持ち來すが故に、克服されなければならないのである。實際の事實として、理論に於て立派な基礎を持ち、訓練されてゐる、能力ある宣傳家は、甚だ稀有であつて（このやうな宣傳家たるには、かなり多くの訓練と經驗の堆積とを必要とする）。彼等はそれ故、專門化されなけ

ればならないもので、吾々は彼等を專らこの仕事につかせ、非常な注意を、彼等に拂はなければならないのだ。吾々は、彼等の爲めに、一週數回の講義を開かなければならない。吾々は、必要な場合には、彼等を他の町へ送ることが出來るやうでなければならないし、一般的には、能力ある宣傳家が、種々な町々を、へめぐつて歩くやうにしなければならない。而して初歩的な青年の多數は、寧ろ實際的な仕事につかす可きであつて、これ等のことは、學生によつてなされてゐるまたのんきに『宣傳』だと呼ばれてゐるところの、かの團體への顏出しに比較して、寧ろ等閑に附されてゐる。勿論、眞劍な實際的な仕事といふものは、同樣に著しい訓練を必要とするものであるが、それにも拘らず、この領域に於ける仕事は『初心者』にとつてさへ、より容易に見出されるのだ……。

種々の團體

同樣な方法により、また委員會乃至委員會制度の支局のその型により、運動に役立つ總て他の團體が組織さる可きである○○○○○○○○の團體、○○○○の謂はゞ扶助的團體、運輸の團體、出版團體、旅券團體、○○○○を準備する爲めの團體、○○○○あばく爲めの團

體、○○○團體、○○○○○○○○

六、黨員資格（一歩前進二歩退却）

（一九〇四年の初めに書かれたもの）

（イ）規約の第一條

マルトフ草案の第一條、『黨の綱領を承認して、黨の機關の統制と指導の下に、黨の任務の達成を、自發的に働くものは、何人でもロシヤ社會民主勞働黨所屬員としての資格あるものである』

レエニン草案の第一條、『黨の綱領を承認して、而も物質的手段並びに黨組織の一に於ける個人的協力によつて、黨を支持するものは、何人でも黨員としての資格あるものである』

マルトフが黨大會に提出して、採用された草案の第一條、『黨の綱領を承認して、物質的手段によつて黨を支持し、而も黨の一組織の指導の下に、正規な個人的支援を示すものは、何人でもロシヤ社會民主勞働黨員としての資格あるものである』

× × ×

私は上に、黨大會に於て興味ある論爭を生ぜしめたところの、異れる原案樣式を引用した。この論爭は、殆ど二回の會議に亘つて行はれ、而して、二回の記名投票を以て終結になつた（私自身誤りなくば、全大會を通じて、僅かに八回の記名投票が行はれたのみであつた。この記名投票は、莫大な時間の浪費がつきものであるが爲めに、特殊な重要な場合にのみ採用さるべきものである。）この際取扱はれた問題は、明かに一の原則であつた。論爭に對する黨大會の感興は、全く大きなものであつた。總ての代議員が、投票に加はつた――其れは、吾々の黨大會に於ては（概してあらゆる大きな評議大會に於けると同樣に）、稀有なことであり、また同樣に論戰の感興から生じた一現象なのである。

では、論戰になつた問題の核心は、何處にあつたのであるか？　私は、黨大會に於て、そのことを既に述べたが、而も其の後屢々、其れを繰り返して來た。即ち『私は、吾々の意見の相違「第一條に就いての」を、黨の存亡に關するといふほどに、決して重大には考へなかつた。吾々は單に、規約の一缺點の爲めに、破滅してはならない』といふことを。この意見の相違は、其れ自身に、原則上の少しの差異を持つてゐたが、それにも拘らず、大會の後に起つたやうな、このやうな分離（婉曲にではなく實際的に云へば、このやうな分裂）への道を、何ら招來することは出來なか

つた。しかし如何なる小さな意見の相違でも、人が其れを固持し、其れを前面に押し進め、その相違のあらゆる根や枝を、あらさがしし始める時は、一の大きな相違となる。如何なる小さな意見の相違でも、確實に誤れる見解に向つての、出發點とされるなら、而してこの誤れる見解が、新しい次々に生ずる差異の結果、黨を分裂にまで導くところの、無政府主義的行爲と結びつくなら、其れは、一の重大な意義を持つことになるのである。

其のやうなのが確かに、この場合に於ける事情なのであつた。第一條に關する比較的小さな意見の相違も、少數者の側に(特に同盟の評議大會に於て、且つまた新『イスクラ』の分裂に於て)立てる日和見主義の深慮と無政府主義の空言虛語への、眞に危機を孕むことに役立つ時は、まさしく其れは、重大な意義を持つことになる。眞に其の相違が、『イスクラ』少數派と反イスクラ派との提携の爲めの根據を與へたものであり、また、其の沼澤(スウムプチ)に、選擧の時期に及んで、明確に一定の形をとらしめるに至つた根據を與へたものでもあつて、このことの理解なしには、中央部の大構成問題に於ける、主要な根本的分離を、理解することが不可能である。マルトフとアクセルロッドの第一條に關する小さな過誤は、吾々の脈管の中に、一小躍動を起さした(私が同盟の評議大會に於て述べたやうに)。吾々は其の脈管を、解き得ないやうな結び方で、適當に、而して固く

くゝりつけることが出來たであらう(しかし、同盟の評議大會の間、ヒステリイに近い狀態の中にあつたマルトフが考へたやうに、解き得ない吊繃帶を以てではなく)。吾々はまた、全努力を、其の躍動を大きなものたらしめ、脈管を破滅させることに、向けることが出來たであらう。而して、激情的なマルトフ派のボイコット及びそれに類した無政府主義的態度の結果は、實際、最後の方を招來した譯けであつた。第一條に關するこの意見の相違は、中央部の選擧問題に於て、輕小ならざる役割を演じた。而もマルトフのこの問題に於ける敗北は、非常に粗惡な、加之誹謗者的な方法(ロシヤ革命社會民主主義の在外リガ評議大會に於ける演說)をかりて、『原則上の鬪爭に』其れを向けて行つた。

今や、總てかうした事件の後に、第一條に關する問題が、それ故重大な意義を帶びて來た。そこで吾々は、この規約文に關する投票をする爲めに、黨大會に集つたことの性質に就いて、竝びに——それにもまして無比な重要性を持つところの——第一條に關して現はれた、または現れ始めたところの、見解の少しの差異の眞實の性質に就いて、正確な說明を與へなければならない。今や、讀者諸君に判明したかうした事件の後に、問題は既に次のやうに置かれる。卽ち、アクセルロッドが辯護につとめたところの、マルトフの草案說明の中には、私が黨大會に於て述べたや

うに、彼れの（もしくは彼等の）無節操、無定見、政治的曖昧を表示してはゐないか？　また、同盟の評議大會に於て、プレハノフが批評したやうに、其の中には、ジョーレス主義や無政府主義への、彼れの（もしくは彼等の）傾向を、表示してはゐないか？（同盟の議事錄一〇二頁及びその他）。或は、プレハノフが辯護した私の草案の說明の中に、正當ならざる、官僚主義的、公式主義的、誇大的、中央集權主義の非社會民主々義的把握が、表示されてゐるのか？　日和見主義と無政府主義か、或は官僚主義と公式主義か？——小さな意見の相違は大きな相違となり、今や問題は其のやうに置かれてゐるのだ。而して、吾々が、私の草案說明に對する贊否の議論を、本質的に吟味するに當つては、吾々は、事件が餘儀なくせしめたところの、このやうな問題の置方を、公正に批判しなければならない——私は、もし高踏的な言葉に響かないなら、歷史が其れを示してゐるといふことを述べる。

吾々は、大會に於ける論爭の分析を以て、この議論の吟味にとりかゝらう。最初の演說は同志エゴロフであつて、多くの代表者の其れに比べて、甚だ特徵のある態度であつたので、たゞ其の點だけで興味がある（彼れの演說の價値が、何處にあつたか、其れは私にはまだ分明でないし、まだ判らない）。蓋し、多くの代表者は、實際に新しい、非常に複雜な、而も細密にわたる問題で

自身の考へを明かにすることが、容易なことでなかつたのであつた。次の演說は、同志アクセルロッドで、彼れは直ちに、その問題を原則の側から論じた。彼れの演說は、原則に關して、正當に論じた最初のものであつて、其の上猶ほ、其れは、黨大會に於ける、同志アクセルロッドの最初の演說なのであつた。而して其の演說は、惡評『敎授』の初舞臺を、特に榮光あるものとして、考へさせることは出來なかつた。『私は』と同志アクセルロッドは述べた『黨といふ概念と組織といふ概念を、吾々は區別しなければならないと信ずるものである。しかしこゝでは、この二つの概念を混同してゐるのである。この混同は、危險なことである』。私の草案說明に對する最初の反對論は、しかく叫ばれたのであつた。吾々は其れを、精細に吟味して見よう。私が、黨を組織の總體（而も一の單純な數學的の總體ではなくして、一の混合型な）であらねばならぬと說く時、其の時其れは、私が黨といふ概念と組織といふ概念を、『混同』してゐることを意味するか？　勿論、さうではないのである。されば私は、全く明瞭且つ正確な、自分の希望、自分の要求を、表明することにする。卽ち、階級の前衞としての黨は、出來るだけの範圍で、組織的なものとされなければならない。また、黨は、少くとも組織の最少限をでも、支持することの出來るがやうな分子を、黨員として取り入れなければならない。然るに、私の反對者は、黨に組織された分子と

未組織分子を、指導するところの分子と指導せざる分子を、進歩の高いものと改善し難い低級なものを（改善することの出來る低級な分子は、組織の中に取り入れることが出來るであらうが）、彼等は混同したのである。然り、かゝる混同は、實行に於て危險である。同志アクセルロッドは更に議論を、『過去に於ける强烈な陰謀的及中央集權的な組織』（「土地と自由」及び「人民の自由」[7]）の上にひろげ、『これ等のものの周圍には、組織には屬してゐないが、しかし、何らかの點で、黨の援助者であり、黨員としての資格あるところの、人民の集團の非常な數が、存在してゐた……この原則は、社會民主々義組織の中に、より嚴正に、採用されなければならないであらう』と說いた。かくて今や、吾々は、問題の中心點に到達した。卽ち、『この原則』は――何ら黨組織に屬しないが、しかし單に『何らかの點で援助』する總てのものを、黨員と稱することを承認するところの、この原則は、確實に社會民主々義の原則であるか？　プレハノフは、この問題に對し、唯一可能な說明を與へて云つた、『アクセルロッドは、一八七〇年代に對する彼れの論及に於て、誤謬があつた。其の當時にあつては、よき組織とすぐれた規律を持つ中央部が存在してゐた。この中央部の周圍には、其れ自身が創造したところの、種々な組織群がとり卷いてゐた。而して、これ等の組織の外部に存在したところのものは、たゞ混沌と無政府のみであつた。この混

沌の形成分子は、自身を黨員だと稱したが、しかし其のことによつて、事情は何らよくはならないで、反つてより惡くなつた。吾々は、七十年代の無政府を、敢てまねるものではなく、反つて其れを回避しなければならないのである』。かくて、同志アクセルロッドが、社會民主々義的なものとして、僞稱せんとしたところの、『この原則』は、實際に於ては、無政府主義的な一原則なのである。このことを否定する爲めには、組織の外部に存在する統制、指導及び規律の可能性を、示さなければならない。また、『混沌の形成分子』に、『黨員』といふ名稱を與へなければならないところの必然性を、示さなければならない。しかし、同志マルトフの草案說明の辯護者は、兩者のいづれをも、示さなかつたし、また示すことが出來なかつた。同志アクセルロッドは、一例として、『自身を社會民主々義者だと考へ、然も其れを屢々宣言した』ところの『敎授』を、例にひいた。この例證の中に含まれてゐる考へを、結論に導くこと、其のことの爲めには、同志アクセルロッドをして、組織された社會民主々義者が、かうした敎授を、社會民主々義者として承認するや否やといふことに就いて、更らに論じさせなければならなかつた。しかし彼れは、それ以上この問題を論じようとしなかつたし、また、彼れの議論は、半ばにして途切れてしまつたのである。實際に於ては、問題は、二つのうちの一つである。つまり、組織された社會民主々義者が、

我が興味ある教授を、社會民主々義者として承認する場合と――この時は、何故彼れ、いづれかの社會民主々義の組織に、編入してはならないのか？　かくの如き編入によつてのみ、教授の『宣言』は、其の實行に一致し、而して空虛な言葉（教授の宣言には、あまりに夥しい虛僞あるもの）ではなくなるのだ――さもなければ、組織された社會民主々義が、教授を、社會民主々義者として承認しない場合――この場合は、黨員たる名譽ある而も責任ある名稱を擔ふ權利を、教授に與へるといふことは、下らぬ、無意味な、そして有害なことである――この二つの場合のうちのいづれか一つである。かくて、問題は、確實に、組織の原則をあくまで運用すること、もしくは混亂と從つて無政府を神聖視することの上に、進展してゐる。吾々は、既に吾々が形成した、そして社會民主々義者の固く結んだ核心を生ぜしめた。例へば、黨大會をつくつたり、各〻の黨組織を、擴大し、增大しなければならないところの黨を建設するのか、もしくは、總ての援助者は、黨員であるといふ、慰めの言葉を以て、吾々は自身滿足するのであるか？『吾々がもし、レエニンの說明樣式を採用する時は』――と同志アクセルロッドは續けて說く――『其の時は、吾々は、おそらく直接的には、組織の中に入れることは出來ないのであらうが、しかし、それにも拘らず黨員になることは出來る人民の一部を、甲板の上から投げすてることになるだらう』同志アクセルロッドが、私に非難を向けたところの、黨と組織との概念の混同は、彼れ自身によつて、こゝで、公然と非常な明白さを以て行はれてゐる。即ち、その混同に就いては、眞實論爭をなし、彼等反對者自らは、先づこのやうな解釋の必然性と利益とを、明かにしなければならなかつたのだが、而も總ての援助者が、黨員であるといふやうな說明を既に取り上げてしまつたのである。一見甚だ驚嘆する『甲板の上から投げすてる』といふ言葉は、一體何を意味するのであるか？　黨組織として承認されてゐるところの組織の成員のみが、黨員としての資格あるものである限り、『直接的』には、いづれの黨組織にも所屬することの出來ない人々が、全く黨組織でない一組織內で働き、而も黨に加入することが出來る理由がないのだ。甲板から投げすてるといふことは、かくて、その種の人間の運動に關與し働くことの除外といふ意味では、全く何ら議論はないのである。これに反して、眞の社會民主々義者を包括する吾々の黨組織が、より强固なものになればなるほど、黨の內部の動搖と不確實性とが、より少くなり、而も黨が包括し、黨が指導する勞働大衆分子に對する黨の影響力は遙かより廣大に、より多方面的に、より豐富に、且つより有效になるであらう。されば、勞働階級の前衞としての黨と、全階級とを、混同することは出來ない。然るに、同志アクセルロッドは、次のやうに述べた時、實際このやうな混同（概して日和見主義的經濟主

義の特質であるところの）に落ち入つたのである『吾々は先づ第一に、黨の最も活動的な分子の一組織、即ち革命家の○○○の一組織をつくるのであるが、しかし、其れは一階級黨なのであつて、從つて吾々は、非常に活動的ではなくても、黨に好意を持つ人々を、黨の外部に放置しないやうなものに、其れを考へなければならない』。第一に、社會民主勞働黨の活動分子とは、決して、單に革命家の組織をのみ意味しないのだ。それ以外にもまた、黨組織として承認されてゐる勞働階級組織の全系列を意味するものである。第二に、は如何なる根據、如何なる論理の力によつて、吾々が一階級黨であるといふ事實から、黨の所屬者と關係者との間に、區別を立てることが、不必要であるといふ結論を、引き出すことが出來るであらうか？　實際は逆である。即ち、意識の程度と實行の程度とに、差異がまさしく存在するが故に、黨への接近の程度の差異が、必然的に生じなければならない。吾々は、一の階級黨である。それ故殆ど全階級（○○○○、○○○○○○○○○○○○○）に於ては、また、もれなしに全階級）を、吾々の黨の指導下に、置かなければならないし、吾々の黨を、出來るだけ密接に、結成しなければならない。しかし、全階級乃至大半の全階級を、常に資本主義下に於て、前衛の意識と行動、社會民主黨にまで、高めることが出來るであらうといふことを信ずるのは、世界未聞の感傷主義であり、クヴオスチズム(二)であると云はなければならない。また、

聰明なる社會民主々義者で、資本主義下に於て勞働組合組織（未發達大衆の意識には、甚だ親しみ易い原始的なもの）でさへが、殆ど全部の或は全部の勞働階級を、把握することが出來ないといふことを疑ふものは、何人もないのである。もし吾々が、前衛と前衛にたよつてゐる全大衆との差別を、忘却する時は、もし吾々が、前衛の不變の本分が、非常に廣大な階級層を、彼等自身の水準にまで高めることであることを、忘却する時は、吾々は、單に自身を僞瞞し、且つまた、吾々の仕事が非常に偉大なものであることに、眼をとぢ、仕事をせばめるであらう。眞實、このやうに眼をとぢたり、忘却したりすることは、吾々が、黨の所屬者と黨の關係者との、それから、意識と活動といふことと援助といふこととの差別を、忘却してしまつた時のことである。

（一）、『組織』といふ言葉は、廣義と狹義との二つの意味で、普通用ひられてゐる。狹義には、それは、少くとも最少限度の結成を示すところの、人間社會の一の單獨細胞を意味する。廣義には、總て結合された細胞のその總體を、それは意味する。そこで、例へば海軍、陸軍、國家等は、（狹義には）組織の總體を、（廣義には）社會組織の一種類を、同時に意味するものである。また文部省は、（廣義には）一の組織であり、（狹義には）一系列の組織から成立つてゐる。されば、正確に寫もまた、一組織であり、（廣義には）一組織でなければならないが、同時にまた、（狹義には）多樣なる組織の全系列から、それは成立つてゐなければならない。黨と組織との概念に就いて、論じたところの同志アクセルロッドは、かくて第一に、組織といふ言葉の廣義と狹義との區別を考へてゐなかつたし、また第二には、組織的未組織的分子を、彼れ自身が、一緒くたに混同してしまつたことに、氣づかなかつたのである。

(二)、クヴオステズム (Khvostism) (ロシヤ語の「khvost」「尻尾」から出た言葉)、運動を指導するのではなく、運動の尻尾にくつついて行く指導者をさして云つた言葉である——英譯から。

吾々が、一階級黨であるといふことを、明かにする其の爲めに、吾々が、組織に就いての曖昧性や組織と未組織との混同を、もし正當なりとす可きであるなら、ナデツチデンの誤謬の繰り返しを、意味するものである。彼れ、ナデツチデンは、『「深みに」ある運動の「根」の哲學的及び社會史的問題を、技術的組織的問題と混同した』ところのものである(『何をなす可きか』九一頁)。眞實、同志アクセルロッドによつて、第一例が示されたこの混同は、同志マルトフの草案說明を、辯護した辯士達によつて、其の時、幾回となく繰り返されたのである。『黨員といふ名稱が、より廣義なものにひろげられゝば、ひろげられるほど、遙かによりよいものとなる』と同志マルトフは、內容を何ら有せざる名稱を、廣義なものにすることに、如何なる利益があかを、說明することなしに述べ立てた。一體、黨組織に屬してゐない黨員の統制といふことが、一の虛構であるといふことを、否定することが出來るのか? 虛構の擴大は、利益とはならないで 反つて有害なものである。『總ての同盟罷業者、總ての示威運動者が、自己の行動に對して責任を持ち、黨員たることを宣言することが出來たなら、其れは喜ぶ可きことである』。これは、眞實であるか?

總ての同盟罷業者は、黨員たることを宣言する、權利を、持つ可きなのであるか? この教義によつて、同志マルトフは、自己の誤謬を、直ちに荒唐無稽なものたらしめ、而して、社會民主々義を同盟罷業主義に、押し下げ、アキモフの誤れる結論を繰り返す。吾々は、社會民主々義者が、總ての同盟罷業を、指導し遂げる時、たゞ喜ぶ可きである。何故かなれば、プロレタリアートの階級鬪爭の總ての現れを、指導することが、社會民主々義者の直接的にして絕對的な本分であるからであつて、同盟罷工は、この鬪爭の最も深刻にして最も强大な現れであるからである。しかしながら吾々が、もし勞働組合主義鬪爭形態以上の、實際何ものでもないところの、原始的鬪爭形態と、多面的意識的社會民主々義鬪爭とを、同一視するなら、吾々は、クヴオステ主義者である。もしまた吾々が、總ての同盟罷業者に、『黨員たることを宣言する』權利を與へるなら、吾々は、日和見主義者の何らか意識的誤謬を、認めることになる。何故かなれば、このやうな宣言は、あらゆる場合に於て、僞瞞の宣言であるからである。もしまた吾々が、無限の分裂や彈壓や痲痺が、資本主義の下に於て不可避的に、『無敎育』な不熱練勞働者の非常に廣大な層の上にのしかゝつて來る際に——總ての同盟罷業者が、社會民主々者及び社會民主黨の黨員であり得るといふことを、自らも信じ、他にも信ぜしむるならば、吾々は、無邪氣な感傷主義者の夢に、寢入

るものである。眞實、この『同盟罷業者』の實例に於て、總ての同盟罷業を、社會民主主義的に指導するところの、革命主義者の支援と、總ての同盟罷業者が、黨員たることを宣言するところの、日和見主義者の空言虛語との間の差異が、特に明白に示されてゐる。吾々は、實際的に、殆ど全部の、もしくはもれなく完全な、プロレタリア階級を指導する限りに於て、一階級黨であるのだがしかし、アキモフは、其の點に就いて、言葉の上では、黨と階級とを、同一視しなければならないといふ結論を、單に示すことが出來たに過ぎないのである。

『私は○○○な組織を、恐れるものではない』と同志マルトフは、同じ演說の中で述べた――『しかし』と彼れは猶ほ附言して云つた『○○○な組織は、廣大な社會民主々義的勞働黨によつて、包括されてゐる限りに於て、私にとつて意義があるのである』。しかしながら正確には、吾々は、廣汎な社會民主々義勞働運動によつて、包括されてゐる限りに於て、と云はなければならない。而してこのやうなかたちの同志マルトフの說明樣式は、たゞ論爭する價値のなかつたものであつたのみではなく、眞實つまらぬ價値よりほかなかつたものである。從つて私はたゞ其の點に注目するものである。何故かなれば同志マルトフの其のつまらぬ價値よりほか持たなかつた樣式から、『レエニンは黨員の總ての數を、陰謀者の數に制限するものである』といふ、全く世間的で全

く卑俗な意見を引き出したからである。單に一笑に附することが出來るのみであるこの結論は、同志ポサドフスキイ竝びに同志ポポーフが引き出したものであつて、マルテノフとゲキモフによつて其れが用ひられた時は、既に其の正體を、卽ち日和見主義的空言虛語の正體を、充分明瞭にしてしまつてゐた。現在、同志アクセルロッドは、これと同じ意見を、新編輯局に關する新しい組織の見解を以て、讀者大衆を獲得する爲めに、新『イスクラ』に發表してゐる。されば、既に黨大會に於て、第一條の問題が論議されるや否や、最初の言葉の中で、私は、反對者達がこの安價な武器を、利用するであらうことを注意し、またそれ故に、私の演說の中で次のやうに警告したのであつた『黨組織は、單に○○○○○○からのみ、成立たなければならないものと、信じてはならない。吾々は、非常に密接で强固な組織から、非常に廣い、自由な、ゆるやかな組織に至るまでの、あらゆる種類、あらゆる型、あらゆる形式の組織を必要とする』。其れは、私が敢て注意する必要がないと考へたほど、明白な、自明な眞理である。しかし非常に多くの事で、吾々が後方に引き戻されて行くやうな現在の場合に於ては、こゝでまた、『古いことを繰り返す』ことが、必要であらう。其の繰り返しの爲めに、私は、『何をなす可きか』及び『一同志への手紙』から、次の文章を引用することにする。

『……アレキセーエフやミシユキン、カルテユリンやシエルヤボフ等のやうな頭目連中には言葉の最も眞實な、最も實際的な意味に於て、政治的な仕事は親しみ易いものである。卽ち、彼等の熾烈な宣傳が、自然發生的に目醒めた大衆の中に、反響を見出す限り、而も、彼等の湧き出るやうなエネルギーが、革命的階級のエネルギーをとらへ、其れを支援する限り、其の限りに於てまたは其れによつて、親しみ易いものとなる』。實際、社會民主黨の存在には、階級の支持を獲得しなければならない。同志マルトフが考へたやうに、黨は、祕密の組織を包括しなければならないのではなくて、○○○な階級、卽ちプロレタリアートが、○○な同時に祕密でない組織を結成してゐる黨を、包括しなければならないのである。

『……經濟鬪爭の爲めの勞働者の組織は、勞働組合組織でなければならない。總ての社會民主々義的勞働者は、このやうな組織を出來るだけつくり、其の中で實際的に働かなければならない。……しかし、單に職業組合員のみを、敢て社會民主々義者たらしめることを望むといふことは、大衆への吾々の影響の廣さを、制限することであつて、其れは、吾々の利益には、決してならないのである。企業家及び○○に對する鬪爭に參加しなければならないことを、理解してゐるところの、總ての勞働者は、職業組合には關與することが出來る。然り、職業組合の目的は

其れが、單に理解のこの初步的段階に達してゐる總ての人間を、結合するのでないなら、また、この職業組合が、非常に廣汎な組織でないなら、到底達成されることが出來ないのである。されば、この組織が、廣汎なものであればあるほど、其れに對する吾々の影響はまた、益々廣大なものとなる——其の影響とは、經濟鬪爭の「初步的」な發展に於てのみ、現れるものではなくしてまた、社會主義的な組合會員の、仲間に對する直接的で意識的な感化の中にも、現れるところのものである』。兎に角、勞働組合の例は、第一條に關する論爭問題の批判の爲めには、特に有效なのである。この組合が、社會民主々義的な組織の『統制と指導の下に』、活動しなければならないといふこと——其のことに就いては、社會民主々義者の間では、何ら見解の相違があり得ない。しかしながらこの見地からして、このやうな組合の總ての會員に、社會民主黨の黨員たることを『宣言する』權利を與へることになるなら、其のことは、明白に馬鹿らしきことであり、おそらく二重の損失を招くことになるであらう。卽ち一面に於ては、其れは、勞働組合運動の範圍を制限し、而もこの基礎の上の勞働者の協同精神を弱めるものである。他の一面に於ては　其れは、社會民主黨を、曖昧と動搖の危險に曝すことになる。獨逸の社會民主々義者は、請負仕事に從事してゐたハムブルグの煉瓦職工の、有名な事件があつた際に、具體的な事情の下に於て、類似の問

題を、解決する爲めの機會を得た。社會民主々義者は、何ら一瞬間と雖も、同盟罷業破りが、社會民主々義の見地からして、破廉恥な行爲であると、表明することを躊躇しなかつた。——即ち、彼等は、同盟罷業の指導及び支持を、彼等の最も固有な仕事として、宣言したのであつて、而も同時に、黨の利益と勞働組合の利益とを同一にし、個々の組合の個々の行動に對し、黨に責任を持たせようといふ要求を、また同樣に斷然と拒んだのであつた。黨は、勞働組合を黨の精神によつて滿たし、黨の影響の下に持ち來たさうと、責任を持ち、努力してゐるものなのである。されば其の影響を有利ならしめんが爲めには、實に、組合の充分に社會民主々義的な(社會民主黨に所屬してゐる)分子を、充分に意識的でない、政治的にも充分活動的でないものから區別して同志アクセルロッドがしたやうに、二つのものを全く、いつしよくたにしてはならないのである。

『……○○○○○○○○○○○、○○○機能の中央集權化は、廣大な大衆の上に立脚する、それ故出來るだけゆるやかな、出來るだけ陰謀的でない他の非常に多くの組織の活動力の範圍及び內容を、單に狹小なものたらしめるものではなくして、反つて廣大なものたらしめる。而して他の非常に多くの組織とは、勞働者の勞働組合並びに、自己敎化の爲めの勞働者の會及び○○○文書の讀書會、それから他の總ての人民層の中の、社會主義的な且つまた民主々義的な會合等々の

如きものである。このやうな會合や組合や組織が、最も廣大な數を占め、最も多樣な機能を持つことは、一般的に必要なことであるが、しかし、其の組織を、○○○なものと混同し、其の二つのものの間の限界を、取り除くといふことは、無意味なことであり、また有害なことでもある：……』。この論文に於て、廣大な勞働者の組織によつて、○○○なものが包括されなければならないであらうといふことを、私に注意せんとした同志マルトフが、如何に甚しくも問題を解してゐなかつたかが明白である。私は、其れを既に『何をなす可きか』の中で說き、且つ『一同志への手紙』の中で、この考へを、より具體的に展開しておいた。私は、其の際次のやうに述べた『工場の團體は、吾々にとつて、特に重要であつて、吾々の運動の全主力は、確かに、大工場に於ける勞働階級の組織の中にある。何故かなれば、大工場(及び職場)は、單に數に於て優勢であるばかりでなく、また影響力や進步や戰鬪力に於ても、より優勢であるところの勞働階級の指導部分を、包括してゐるからである。總ての工場は、吾々の要塞でなければならない。……工場の副委員會は、全工場を、即ち勞働階級の出來るだけ廣大な部分を、最も多樣な團體、(もしくは代表者達)の網によつて、包括することに、努力しなければならない。……總ての集團、團體、副委員會等々は、委員會の一制度としてか、もしくは其れの支部として、考へられなければ

ならない。其れ等の中の或るものは、ロシヤ社會民主勞働黨の成員に、參加せんとする希望を、直接に表明するであらう。而して、委員會の承認といふ條件の下に、黨の成員に參加し、彼等は、(委員會の委任もしくは贊同によつて)一定の機能を受持ち、黨組織の指令に服從する義務を負ひ總ての黨員が持つ權利を與へられ、委員會の直接候補者たる資格を持つことになるであらう。其の他のものは、ロシヤ社會民主勞働黨には、加入しないで、黨員によつて建設されたところの團體、もしくは、何らか他の黨の集團を結成してゐるところの團體の所屬として、取り殘されるであらう』。この私が力說した言葉によつて、第一條の私の草案說明の思想が、既に『一同志への手紙』の中で、充分に述べられてゐることは、特に明白になるであらう。そこには、黨所屬資格の條件が、直接的に示されてゐる。即ち、第一は、組織の或る程度の內容、第二は、黨委員會による承認である。かくて次の頁に於て、私は、如何なる集團及び組織が、黨に所屬す可きであるか(或は所屬せざる可きであるか)、而して其れは如何なる考へによるかといふ例をあげておいた『配布者の集團は、ロシヤ社會民主勞働黨に所屬し、而して黨員及び責任ある人々の一定數を、見知らなければならない。勞働組合の勞働條件を研究し、組合の種々な要求を作製するところの集團は、無條件に、ロシヤ社會民主勞働黨に所屬する必要がない。一二の黨員との協力の下に、自己

敎化につとめてゐるところの、學生や官吏や勤め人は、屢〻一般的に彼等が黨に所屬してゐることに就いては、知らせぬがよい』

『はがれた假面!』を明かにする爲めには、吾々はまだこゝに、より多くの材料を持つてゐる。同志マルトフの草案說明樣式は、概して、組織に對する黨の關係といふことには、關說しなかつたが、私は黨大會解散に先立つこと、殆ど一年前に、或る組織は、黨に加入しなければならないが、これに反して、他のものは加入す可きでないことを述べた。私は『一同志への手紙』の中で、私が黨大會に於て辯明した思想を、既に明白ならしめてゐる。問題は、具體的に次のやうに、置くことが出來る。即ち一般的には、組織內容の程度に應じて、特殊的には組織の○○○程度に應じて、何らか次のやうな範疇を、區別立てることが出來る。第一は、○○○の組織、第二は、出來るだけ廣大な、出來るだけ多樣なものでなければならない勞働者の組織(私は、勞働階級だけに制限するが)其れは、一定の事情の下に於ては、他の階級の分子も、同樣に其れに屬することになるのが、自明のことだと假定したからである)。而して、この二つの範疇は、黨を形成するものである。續いて第三は、黨に加入してゐる勞働者の組織、第四は、黨に加入してはゐないが、實際に於ては、黨の統制と指導に從つてゐる勞働者の組織、第五は、少くとも階級鬪爭の重要な

現れのある場合には、部分的には同様に、社會民主々義の指導に從ふ勞働階級の未組織分子、私は、自分の見地からして、問題に對して、大略そのやうに述べておいた。しかしこれに反して、同志マルトフの見地からは、『總ての同盟業者』が、自ら『黨員たることを宣言する』ことが出來るといふのであるから、黨の限界性が、非常に不鮮明なものになる。一體、如何なる利益があつて、この曖昧さを示し、それから『黨員名稱』の解釋を擴大せんとするのであるか？　そこには、階級と黨との混同によつて、組織を亂す思想を持ち來す有害性が存在する。

吾々が提出した一般原則を、說明する爲めに、吾々はまた、第一條に對する黨大會の論爭の上に、更らに眼を投げて見よう。同志ブルツカーは、私の草案說明に味方して論じたが（それは同志マルトフの喜ぶところとなつた）、しかし、其れは、私と彼れの同盟が、マルトフと同志アキモフとの同盟とは異り、一誤謬の上に基づいてゐたことを示した。同志ブルツカーは、『全規約及び其の全精神と一致してゐるものではなく』して（二三九頁）、而して、『ラボーチエ。デエロ』の支持者達が、希望してゐたやうな、民主々義の基礎として、私の草案說明を辯護したのであつた。同志ブルツカーは、政治的鬪爭に於て吾々が、時々より小さな惡を選ばなければならないといふことを、彼れの見地に、まだ取上げてゐなかつた。卽ち、吾々のこのやうな黨大會に於ける

民主々義を吾々が辯護することは、無用であるといふことを、彼れは認めてはゐなかつた。しかし、同志アキモフは、より尖鋭な見方を示した。彼れが、『マルトフとレエニンは、どの（草案說明）が、共同の目的を、よりよく達成せしめるかに就いて、論爭してゐるのである』と批判した時、彼れは、問題を全く正しく置いたものであつた。『私とブルツカーは』と、彼れは猶ほ續けて云つた。『其の目的の達成が、より微小な方を選ばうと思ふ。この理由で、私は、マルトフの草案說明を撰ぶ』。而して同志アキモフは、『彼等の目的』、（プレハノフやマルトフや私の其れが――〇〇〇の指導組織の創造で）『實現の出來ない、有害なものである』といふことを、卒直に聲明し、彼れは、同志マルチノフ(一)のやうに、『〇〇〇の組織』は、不要なりとする經濟主義者の觀念を擁護したのである。彼れは、『黨の組織を、マルトフの說明樣式によつてされようと、其れには無關係に、吾々の黨組織の中に、生活が入り込むであらうといふことを、固く信じてゐる』のであつた。もしこの見解が、同志マルトフによつてまた、分擔されてゐなかつたなら、『生活』に關する、このやうな『クヴオステスト』の見解に、吾々はこだはる必要がなかつた。同志マルトフの第二回の演說は、詳細な分析に値ひするほど、それほど全體として興味あるものである。

(一)、同志マルチノフは、自身を同志アキモフから、兎に角區別しようとしなかつた。彼れは、○○○(フエーノシユヴエラーリツシユ)(レエニンはこゝでロシヤ語の○○○といふ文字を用ひてゐる——英譯による)を、意味するものではないといふこと、而して、これ等の文字の差異の裏には、概念に關する差別がかくされてゐることを、明示しようとした。しかし、それがどんな種類の區別であるかは、同志マルテノフも彼れの足跡に追從する同志アクセルロッドも、明白にはしなかつた。同志マルチノフは、私が例へば『何をなす可きか』の中で、(『任務』に於けると同樣に)、『政治鬪爭を○○に制限すること』に、確乎たる反對を唱へなかつたかのやうに、『僞稱』してゐる。同志マルテノフは、私が戰つたところの人々が、同志アキモフが今日猶ほ認めてゐないやうに、○○○の組織の必要を認めてゐないといふことを、聽手をして餘儀なく忘れしめようとするものである。

同志マルトフの最初の議論は、卽ち何らの組織にも所屬してゐない黨員に對する、黨組織の統制といふことは、『委員會が、一定の機能を一定の人に託し、これを監視することが出來るものである限りに於て』、實現可能だといふ。このテーゼは、もし次のやうに云ひ現はすことが出來るなら、マルトフの草案說明を、誰れが必要とし、實際に於て誰れに其れが役立つか、卽ち、智識階級の個々の人々にか、それとも勞働者の集團と勞働大衆とにか、といふことを『現はす』が故に、非常に特徵のあるものである。されば問題は、マルトフの草案說明樣式には、二つの解釋が可能であるといふことである。第一は、正規的な個人的な支援を、黨の組織の一つの指導の下に示すところの(同志マルトフ自身が主張したやうに)人々を、黨員として自身『宣言』せしむることで

ある。第二は、總ての黨組織が、黨の指導の下に、正規的な個人的な支援を示す人々に、黨員と見做す權利を與へるものだといふことである。かくて、この第一の解釋のみが、『總ての同盟罷業者』に、自身黨員と稱する權利を、實際與へるのであつて、それのみが、それ故また直ちに、リベルやアキモフやマルチノフの心を捕へた。しかしながら、この解釋は、全勞働階級を包括し、黨と階級との區別を拭ひ去り、『總ての同盟罷業者』の統制及び指導といふことに就いては、單に『象徵的』に論ずることが出來るに過ぎないが故に、既に明瞭に空言虛語なものである。それ故、同志マルトフは、彼れの第二の演說の中で、直ちにまた、第二の解釋を求め與へてゐる(しかし、附言して云ふ。大會がコステツチの決議案、卽ち委員會は、機能を交付し、其の達成を監視するものだといふ決議案を拒んだ時、其れは大會によつて、直ちに否決された)。このやうな特殊な機能の交付は、勿論、勞働大衆や數千のプロレタリアート(同志アクセルロッド及び同志マルトフが、論及してゐるところの)に關しては、決して行はれないであらう——其れは實に幾度も、同志アクセルロッドが述べた敎授達に、同志リベル及び同志ボボーフが取扱つた高等學校(ギムナジユーム)(一)の學生達に、同志アクセルロッドが、彼れの第二の演說に於て論及した青年革命家達に、與へられるであらう。一言にして述べるなら、同志マルトフの說明樣式は、死せる文字として、それから空虛な

言葉として殘るか、もしくは、主として殆ど全く、『ブルヂョア個人主義によつて、完全に滿たされてゐる』而も組織には加入しようとはしないところの『知識階級』に有用なものとなるか、いづれかである。從つて、マルトフの説明樣式は、言葉の上では、プロレタリアートの廣大な層の利益を擁護するが、實際に於ては、この樣式は、プロレタリアートの規律と組織とを回避するところのブルヂョア的知識階級の利益に奉仕するのである。何人でも、近代資本主義社會の特殊層としての、智識階級が、大部分全く、其の特徴として實際、個人主義であり、また、規律や組識に不適當であることを、敢て否定しないであらう(知識階級に關するカウツキイの有名な論文を參照)、事實、其の中では、この社會層とプロレタリアートとの間の利害の差異が說かれてゐる。卽ち、其の中には、プロレタリアートが屢〻痛感したところの、知識階級の惰弱さと不確實さとの說明が、與へられてゐる。而して知識階級のこのやうな特性は、實に多くの點に於て、小ブルヂョア生活樣式(一個人としての勞働または極く小さな團體に於ける勞働等々)に近似せる。日常の生活樣式及び生活費獲得方法に、固く結び合はされてゐる。結局、マルトフの草案說明樣式の支持者が、實例として、敎授や高等學校の學生達を、あげなければならなかつた事は、何ら偶然なことではないのである! 第一條に關する論爭に於て、廣汎なプロレタリア鬪爭の先驅者は、

急進的○○○組織の先驅者と、同志マルチノフ及びアクセルロッドが述べたやうに、衝突はしなかつたがブルヂョア知識階級個人主義の手下と、プロレタリア組織及び規律の支持者とが、衝突なしたのであつた。(二)

(一)、獨逸のギムナジュームとは、日本の中學三年以上高等學校の全課程を含むところの、日本の中學校とも大學校ともつかないやうな高等學校の意。(譯者)。

(二)、嚴密には、第一條の論爭に於て既に、組織問題に關する日和見主義的な態度が現はれてゐた。卽ち、黨の組織を强固にはしないで曖昧なものにするところの彼等の辯護、並びに、黨大會及びそれによつて創造される制度から生ずる、上から下への黨の構造に就いての觀念(『官僚的』だと云はれる觀念)に對する彼等の敵意、謂はば、下から上へ行かしめようとする、總ての敎授、總てのギムナジュームの學生『總ての同盟罷業者』達に、自ら黨員と稱することを許さうとする彼等の努力、黨員にではなく、黨が承認してゐる組織の一つに、黨員、認可權を與へようとする『公式主義』なるものに對する彼等の敵意、『組織問題を單にプラトン式に考へ』ようとするブルヂョア知識階級の心理傾向、日和見主義の深慮と無政府主義の空言虛語に對する彼等の寬大さ、及び中央主權主義に對する自治主義の傾向——一言にして述べれば、今や新『イスクラ』に於て盛に發表されてゐるところのもの及び今や行はれ始めてゐる誤謬の充分具體的にして明白な態度を助長するところのもの、その總である。(一九〇四年五月レエニンが書いた序文の中から)

同志ポポーフは云つた『ニコラエフやオデッサに於けると同樣に、ペテルスブルグに於ても一般的に、これ等も都市の代表者達の證明するところによれば、文書を配布したり、口頭の宣傳をしたりするが、而も組織の一員とはなり得てゐない數十人の勞働者がゐる。彼等は、組織に加入

せしむることは出來るが、しかし成員として、吾々は見做すことは出來ない』。何故、彼等は組織の中の一員では、あり得ないのであるか――其れが、同志ポポーフの祕密として殘る。私は前に既に、『一同志への手紙』の中から、一節を引用なし、其の中に次のやうなことを述べておいた。つまり、このやうな勞働者の全部を（數十人ではなく數百人を）、眞實組織の中に獲得するといふことは、可能であり、また不要なことであつて、而もこれ等の組織の非常に多數は、黨に所屬することが出來るし、また所屬しなければならないのだ。

同志マルトフの第二の議論は、卽ちかうである『レエニンに云はしむれば、黨には、黨組織以外の、何ら他の組織は存在しない』……全く正しい！……『私をして云はしむれば、これとは反對に、他の組織が存在しなければならない。生活（レーベン）は、吾々が○○○○○○の鬪爭組織の體系の中に、組織を獲得することが出來る以上に、より迅速に、組織を創造し且つつくり出す』：……其のことは、二つの意味に於て、誤りである。第一は、『生活（レーベン）』は、吾々が必要とするよりも、また、勞働運動が要求するよりも、遙かにより强大ならざる○○○の組織を、つくり出すものである。第二は、吾々の黨は、單に○○○の組織の一體系であるばかりではなく、また勞働階級組織の集團の體系でも、あらねばならないのである。……『レエニンは、中央委員會が、

主義の點に於て、充分に信頼することの出來るもののみを、黨組織として認めるであらうといふことを信じてゐる。しかし同志ブルツカーは、生活が（原文のまゝ！）、自身の權利を取得することと、及び、多數の組織を、黨の外部に放置しない爲めには、中央委員會が、信用することの出來ない性質にも拘らず、それ等のものを公認することを餘儀なくされるといふことを、全く幸ひにも了解してゐるのである。まさしく其れが、同志ブルツカーをして、レエニンに結び付ける理由である』……しかし實際に其れは、『生活』のクヴオステスト的な理解である。勿論、中央委員會がもし、自身の意見によつては導かれてゐないで、他のものが主張するところによつて導かれてゐるところの人々から、全く構成されてゐるなら、（組織委員會の出來ごとに對比せよ）、其の時は、黨の最も進歩の遲れてゐる分子が、優勢な立場になるといふ意味で、『生活』が、其れの權利を、『取得』することになるであらう（黨の『少數派』が、進歩の遲れてゐる分子から、構成されてゐるところに於ては、今日でも猶ほ見られるがやうに）。しかしながら其れは、聰明なる中央委員會を、して、餘儀なく『信頼するに足らない』分子を、黨に加入せしめることが出來るやうな、確實な論據を、たゞ一つでも與へるものではないのである。而して、信頼するに足らない分子をつくり出すところの、『生活』に關するこの論及によつて、直ちに、同志マルトフは、彼れの組織案の日

和見主義的特質を、全く明瞭に示してゐる！『それに反して私は――と彼れは續けて述べる――このやうな（全く信頼するに足らない）組識がつくられ、其れが、黨の綱領と黨の統制とを、承認するものであるなら、吾々は、其れを黨の組織に、加入せしむることなしに、黨に加入せしむることが出來る。もしも例へば『獨立』の團體が、社會民主黨の見地と綱領とを承認して、黨へ加入することに決定したら、其れが何ら、其の團體を黨組織に加入せしむることを意味しないとしても、私は其れを、吾々の黨の偉大な勝利だと見做すものである』……かくて吾々は、マルトフの説明樣式が、招來する混亂が、如何なるものであるかに見る。卽ち其れは、黨に所屬せざる組織其のものが、黨に所屬するといふのだ！　吾々は、彼れの樣式を、單に次のやうに置くことが出來る。黨＝1、○○○の組織＋2、黨組織として認められてゐる勞働者の組織＋3、黨組織として認められてゐない（明白に多數の『獨立』の）勞働者の組織＋4、種々な機能を遂行してゐる個人、教授、ギムナジユームの學生等々＋5、『總ての同盟罷業者』。この卓越な案は、單に同志リベルの言葉を、味方にすることが出來たに過ぎない『吾々の仕事は、單に、組織を組織することではない(!!)。吾々は、黨を組織することが出來るし、また組織しなければならない』。然り、勿論、吾々は其れをなすことが出來るし、またなさなければならないのだが、しかし、組織を組

織するといふ無意味な言葉が、必要なのではなくて、實に、黨員を組織に於て、實際的に働かせようといふことを、直接的に希望するのである。吾々が『黨の組織』といふことに就いて論じ、而も、黨といふ言葉によつて、あらゆる未組織性及びあらゆる混亂の助長を主張する時、吾々は、單に空虛な言葉を唱へてゐるに過ぎない。

『吾々の草案説明は――と同志マルトフは説く――○○○の組織と大衆との間に、一系列の組織を設けなければならないといふ努力を、説くものである』。否、全く否である。この實際不可缺な努力は、眞實マルトフの説明樣式からは、引き出されないのだ。何故かなれば其れは、何ら組織に對して力説をしてゐないし、組織に對する要求さへ持つてゐないし、また未組織なものから、組織的なものを區別してゐないからである。其れは單に、名稱を與(一)へる以外の何ものでもない。この機會に、吾々は、同志アクセルロッドの言葉を、思ひ出さない譯にはゆかない。『吾々は、何ら命令によつて、彼等（青年○○○の集團其の他）や一個人に、自身社會民主々義者であると稱することを、』（神聖なる眞理だ！）『それからまた、彼等が自身黨の一部分であると考へることを、禁ずることが出來ない』……今や全く、其れは絶對の誤謬である！　吾々は、何人が自身で社會民主々義者なりと稱しても、其れを禁ずることが出來ないし、禁ずる必要もない。何故

かなればこの言葉は、直接的に、たゞ信念の體系を示すものであつて、一定の組織上の關係を示してゐるものではないからである。しかし、一の集團及び個人が、自らを『黨の一部』として見做してゐるとしても、この集團及び個人が、黨の仕事を傷つけ、損じ、混亂せしむる時は、吾々は、其れを禁ずることが出來るし、また禁じなければならない。もし一集團が、自らを全體の『一部として』見做すことを、『命令によつて禁ずる』ことが出來ないなら、一の全體として、一の政治的に強大なものとして、黨を論ずることは、其れは笑ふ可きことである！　吾々が、黨から除外する爲めに、其の方法及び條件を、確定する必要のあるのは、一體何故であるのか？　同志アクセルロッドは、同志マルトフの根本的誤謬を、明白に馬鹿らしいものたらしめた。卽ち彼れは、この誤謬を、猶ほ日和見主義的理論にまで高め、附言して云つた『第一項に關するレエニンの草案說明の中には、プロレタリア社會民主黨の、固有の本質に對し(!!)、それから仕事に對し、一の直接的にして原則上の矛盾が存在する』(二四三頁)。其れは、吾々が黨に於て、階級に於けるよりかも、より高き要求を持つなら、吾々は、プロレタリアの任務の固有の本質に對し、原則上の矛盾に陷るものだといふことを意味するもので、それ以上でもなければ、それ以下でもない。されば、アキモフが、非常に熱心に、この理論を辯護したことは、何ら不思議がないのである。

(一)、同盟評議大會に於て、同志マルトフは猶ほ、彼れの草案說明の爲めに、嘲笑に値ひするところの一の議論を述べた：『吾々は――と彼れは說く――レエニンの草案が、文字通りに見るならば、中央委員會の代表者達を、何らの組織をも形成しないが故に、黨から除外するものだといふことを、指示することが出來る(五九百)。この議論は、同盟評議大會に於てまた、議事錄に示されてゐるがやうに、非常な哄笑を受けた。同志マルトフは、彼れが示したところの『困難』が、中央委員會の代表者達を、單に『中央委員會の組織』に、所屬せしむること、其のことによつて、かたづけることが出來るといふことを意味したのであつた。しかしながら問題は、その點にあるのではない。同志マルトフが、第一條の觀念を、全然理解してゐないこと、而して、批評に於ける彼れの純粹に衒學的な方法が、實際に嘲笑を受けるに役立つたものであることを、彼れが、自身の例證によつて、明白に示したといふ其の點にあるのである。形式的には、『中央委員會の代表者の組織』を設立し、其れを黨に加入せしむる決議を通過することで、充分であるだらう。而も同志マルトフの考へに非常な頭痛を與へたところの『困難』は、直ちに消え去る。しかし、私の草案說明に於ける第一項の觀念は、眞實の統制と指導を確保する爲めに、『汝自身を組織せよ！』と激勵することにあるのである。元來、問題の本質的見地からするなら、中央委員會の代表者達が、黨に所屬するかどうかといふやうな赤裸な問題は、既に笑ふべき問題なのである。何故かなれば、彼等が代表者に任命されてゐるものだといふことによつて、それから彼等に、代表者の立場の保持が許されてゐるといふことによつて、既に完全に且つ絕對的に保證されてゐるからである。されば組織されてゐるものと未組織なものとの混同（同志マルトフの草案說明に於ける誤謬の根本）に就いては、全然何ら辯明の餘地がないのである。同志マルトフの說明樣式が、役に立たないものであることは、總ての人間が、卽ち總ての日和見主義者、總ての中味のない饒舌家、總ての『敎授』及び總てのギムナジュームの學生』達が、自身黨員として宣言することが出來るといふこと、其のことにある。黨員にあらざるものをして、黨員たらしめること、そのことに就いては、全然辯明の餘地があり得ないにも拘らず、同志マルトフは、このやうな例證によつて、彼れの草案

説明の缺點を、無用にも云ひ繕はうとしたのである。

公正を期する爲めに、吾々は、次のことに注意しなければならない。缺點のある、明白に日和見主義への傾向を持つこの草案説明を、今や、新しき見解の種子に變ぜしめようとする同志アクセルロッドが、大會に於て逆に、『討議に應ずる』用意あることを述べた。彼れは、其の理由を説いて云つた『しかし私は、開かれてゐる戸口に、驅け入らうとしてゐることを認める』……（同様に新『イスクラ』が、さうであることを、私は認めるものである……『何故なら、同志レエニンは、黨組織の一部分としての資格あるものでなければならない彼れの周圍の團體と共に、私の希望するところと合致するから……』（而も單に周圍の團體と共にではなく、また各種の勞働團體と共に。議事錄二四二頁、同志ストラコフの演説、それから『何をなす可きか』及び『一同志への手紙』からの上に述べた引用文を參照のこと）……『かくてまだ個人が、とり殘されてゐるが、しかしまだ、相互に討議する餘地がある』。私は、同志アクセルロッドに、平易に云つたら、私との討議に應ずることを、決して厭ひはしないこと、從つて、今や、いづれの意味に於て、其れが述べられたかを、説明しなければならないことを、答へた。個人、即ち教授ギムナジユームの學生等々に關しては、眞實、私は毫も讓歩しないであらう。しかしながら、勞働

者の組織に就いて、疑問が述べられてゐるなら、私は、（この疑問が、上に私が示したやうに、全く無根據なものであるにも拘らず）、私の第一項に、おそらく、次のやうな註釋を附け加へることに、贊成するであらう。即ち『ロシヤ社會民主勞働黨の綱領及び規約を、承認するところの、勞働者の組織は、出來るだけ廣大な數に於て、黨組織の數の中に、參加せしめなければならないであらう』と。嚴密に云ふなら、このやうな願望は勿論、合法的な定義に限られなければならないところの、規約の中には示されないが、説明的な註釋やパンフレットの中には示すことが出來る。（而してこの規約よりかも、遙か以前に、このやうな解釋を、私が自分のパンフレットの中に示したことは、既に前に私は述べた）。しかしながら、このやうな註釋は、同志マルトフの草案説明の中に、疑ひなく示されてゐるところの、組織を案すことを意味する誤れる思想の痕跡、日和見主義的な理論[一]の痕跡、それから『無政府主義的な概念』を、少くとも何ら含んではゐないのである。

（一）、マルトフの説明樣式を肯定せんとする企てによつて、出現したところの、この議論の中、同志トロツキイの次のやうな言葉は、特に注目さるべきである。『日和見主義なるものは、規約のどの箇條にもまして、より入り組める原因から生ずる（或はより深遠な原因によつて規定される――即ち、それは、ブルヂヨア民主々義とプロレタリアートとの發達水準の關係によつて生ずる）……論點は、規約の箇條が、日和見主義を招來することが出來るといふことではなく、その箇條の力によつて、日和見主義に對する、多かれ少かれ鋭利な武器が、鍛へらる可きだといふことである。その

原因が、より深遠であればあるほど、この武器は、より鋭利なものであらねばならない。されば吾々が、日和見主義の『深遠なる原因』によつて、それに門戸を開くところの、一草案說明を辯明する時は、其のことは、最も粗雜な種類のクヴオステズムである。同志トロツキイが、同志リベルの反對に立つ時、彼れは、規約を、部分に對する全體の、後方部隊に對する前衞の『組織された不信任』であると考へる。しかし、同志トロツキイが、同志リベルの味方に加はると、彼れは、其のことを既に忘却してしまつて、而もその上、この不信任（日和見主義に對する不信任）の、吾々の組織の無力と動搖を、『入り組める原因』、『プロレタリアートの發達水準』等々によつて、彼れは辯明しようとつとめる。同志トロツキイの今一つの議論は、卽ち『何らかの點で組織されてゐる、知識階級の青年達を、黨の名簿に記入することは、甚だ容易なことである』（私の反對なせるところ）といふのだ。それ故に、かの草案說明は、未組織分子をさへ、自身黨員なりと宣言せしめ、その爲めに、知識階級的曖昧性に導くのであつて、『自身』黨の名簿に『記入する』權利を拒否するところの、私のものとは異る。同志トロツキイは說く。もし中央委員會が、日和見主義者の組織を『認めない』なら、其れは單に個人の性格の爲めに、生ずることなので、これ等の個人が、政治的個性として認められる場合には、彼等は危險なものではなく、吾々は、黨の一般的ボイコットによつて、彼等を除名することが出來ると。それは、黨から除名しなければならない場合に於てのみ、正しいことであるのだが、而もその場合に於てもまた、半ば正しいに過ぎない。何故かなれば、組織ある黨は、ボイコットによつてではなく、投票によつて除名するのだから。しかし非常に多くの場合に於て、除名するといふことは、馬鹿々々しいことで、單に統制しなければならないのだから、それは完全な誤謬である。中央委員會は故意に、統制目的上からなら、全然信賴はしないが、活動能力のある組織を、一定の條件の下に、黨に加入せしむることが出來る。而して組織を、それは吟味し、それを正しき道に連れ込むやうな企てをなし。それの指導によつて、部分的な差異を滅却する等々のことをなし得る。黨の名簿の中に、『自身で記入する』ことが、一般的に許さる可きでないなら、このやうな加入は、危險なものではない。而もこのやうな加入は、誤れる見解と誤れる戰術との、公然にして責任のある統制の表現（及び討論）の爲めには、多く必要なものである。『しかしながら合法的な定義が、實際的關係に適應す可きであるなら、その時は、同志レエニンの說明樣式は、否定されなければならないであらう』と、同志トロツキイは述べ、而して一日和見主義者のやうに、彼れはまた論じたのである。實際的關係は、死物ではなく、生命があり、自ら發展するものである。合法的な定義は、この關係の進步的な發展に適應することが出來るが、しかしそれは、退步と停滯にもまた（この定義が惡いものになるなら）、適應することが出來るのだ。この最後の場合は、眞實、『同志マルトフの場合』なのである。

私が括弧内に示した最後の言葉は、同志パグロヴイッチの述べたものである。彼れが、『無責任に、自身で黨員名簿に』黨員なりと書き入れるやうな人々を、無政府主義であると述べたのは全く正しいことである。『一般的な言葉に飜譯すれば』――さう同志パブロヴイッチは、同志リベルに、私の草案說明を、說明して云つた――もし君が、黨員たらんとするなら、君はまた、組織の關係を、單にプラトン式に考へてはならない』と。この『飜譯』は、非常に單純なものではあつたが、單に、種々な疑はしき敎授やギムナジユームの學生達の爲めのみではなく、また眞實の黨員の爲めにも、尖銳分子の爲めにも（黨大會の後の出來事が、示してゐるがやうに）、不要なものでないといふことを示した。……同志パブロヴイッチは、同志マルトフの說明樣式と、同志マルトフ彼れ自身が、非常に包括的に考へてゐる科學的社會主義の明白なる敎義との間の矛盾

を、かなり適切に論及してゐるものである。『吾々の黨は、無意識的過程の意識的表現である』。實に、全くさうである、而してそれ故に、『總ての同盟罷業者』が、自身黨員として宣言することが出來るといふことを、主張する其のことは、實にまた、誤謬なのである。何故かなれば、もし『總ての同盟罷業者』が、單に、○○○○まで不可避的に導くところの、強力な階級本能と階級闘爭の初歩的表現ではなくして、この過程の意識的表現であるなら、其の時は……其の時は、總同盟罷業は、無政府主義的な空言虚語ではなくなり、吾々の黨其のものは、直ちに而して一氣呵成に、全勞働階級を包括し、而もそれ故に、一氣呵成に、全ブルヂョア社會を○○○○得るからである。……實際に於て、意識的表現なるものを存在せしむる爲めには、黨は、意識の一定の水準を、確實なものたらしめ、而してこの水準を、組織的に高めるところの組織關係の完成といふことを知らなければならない。『吾々がもし、マルトフの道をたどるなら』と同志パブロヴイッチは說く『吾々は先づ、綱領の承認に關する箇條に觸れなければならない。何故かなれば綱領を承認する爲めには、吾々は、其れを習得し、理解しなければならないからである。……綱領の承認は、政治意識のかなり高い水準を、條件とするであらう』。吾々は、(習得、理解等々)の要求を、人爲的に抑制する何人かによつて、指導された闘爭に、社會民主々義者が支援し、參加す

ることを、決して許容しないであらう。何故なら、この參加といふことは、其れの表現の單なる事實によつて、意識性並びに、組織の本能を高めはするが、しかし吾々が、既に一度、計畫的な活動の爲めに、一黨に結成してゐる限りは、吾々は、この計畫を、確保する爲めにつとめなければならない。

綱領に關する同志パブロヴイッチの警告が、不要なものでなかつたことは、同じ會期の間に、直ちに明示された。同志マルトフの草案說明を、通過させたところの、(一)同志アキモフとリベルは、綱領をして、(黨の『黨員資格』に對する)彼れの論據を、單に、プラトン式に承認せしめなければならないといふことを、要求することによつて、直ちに其の眞實の性質を明白ならしめたのであつた。『同志アキモフの動議は、同志マルトフの見地によれば、全く論理的なものである』と、同志パブロヴイッチは述べた。不幸にも、議事錄には、アキモフのこの動議に、どの位の投票數が集つたか、示されてゐないのだが、おそらく(五人の同盟者とアキモフ及びブルッカーの)七人以下ではなかつた。而して實際、この七人の代議員が、まさしく黨大會を棄て去つたことによつて、規約第一條を、作製しようとしてゐたところの『密なる多數』反イスクラ派と『中央黨』と(マルトフ主義者達の)は、密なる少數に變つてしまつた! 眞實、この七人の代議員達の退出は、(一)

舊編輯局是認の動議の失敗に、『イスクラ』編輯上の『政策繼續』の、徹底的にして極端な破壞に、導いて行つた。今や、この風變りな七人が、『イスクラ』の『政策繼續』の唯一の支援者であり、支持者であつた。而して、同盟者とアキモフとブルツカーから、成るこの七人は、謂はゞ、實際『イスクラ』を、黨の中央機關紙として認めようとする動機に對して、反對をなしたところの、代議員達であり、また、その日和見主義を、評議大會によつて、それから、綱領に關して、第一條を緩和しようとした時には、特に、マルトフ及びプレハノフによつて、幾回となく承認されたところの連中であつた。かくて、『イスクラ』編輯上の『政策繼續』は、反イスクラ派によつて、掩護されたのだ！――こゝに吾々は、評議大會後に始まつたところの、悲喜劇の紛亂を見るのである。

（二）、マルトフの草案說明に贊成の投票は、二十八票で、その反對は、二十二票であつた。而して反イスクラ派の八人の中、七人はマルトフ、一人は私に投票した。日和見主義者達の援助なしには、同志マルトフは、彼れの日和見主義的說明樣式を、通過させることは出來なかつた。（同盟の評議大會に於ては、同志マルトフは、あらゆる點に於て、ブンド派の投票を、單に抑制し、而も同志アキモフや其の友人達を忘れ、或は反對に、同志ブルツカーと私との一致が――それが對立的になつたことが、證明された場合にのみ、單に彼等を思ひ出し、この疑ふ餘地のない事實を、否定しようと試みたが、それは非常に覺束ない望みとなつた）。

（ロ）組織問題に於ける日和見主義

新『イスクラ』の原則的立場の吟味は、明かに、同志アクセルロッドの二つの論文の批評から、始めなければならない。

同志アクセルロッドの基礎テーゼは（『イスクラ』五七號）、次のやうなものである『吾々の運動は、最初から二つの對立的な傾向を、自身の中に包持してゐたものであつて、その相互の撞着は、それ等のものの固有な發展につれて、自らを發展せしめ、而も運動に於て、完成しなければならなかつたのである』。つまり『原則的には、運動（ロシヤに於ける）のプロレタリア的目的は、西歐社會民主黨の其れと同一である』。しかし我が國に於ては、勞働大衆への影響は、『彼等とは異れる社會的分子の側』つまり急進知識階級によつて、持ち來たされたのであつた。かくて同志アクセルロッドは、吾々の黨に於て、プロレタリア的及び急進知識階級的傾向の間の撞着を、確言したものである。

同志アクセルロッドは、この點に於て、絕對的に正しい。このやうな撞着の存在することは（ひとりロシヤ社會民主黨に於てのみではなく）、何ら疑ひのないところである。而も猶ほ、それには

とゞまらないのだ。實際、顯著な程度に於けるこの撞着は、ロシヤに於ても過去十年間に、吾々の運動に於て明白なるがやうに、近代社會民主黨の、○○的（或は正統派的）及び日和見主義的（修正派的、組閣派的、改良派的）なものへの分裂を、明示するものであつて、其のことは、何人も知悉してゐるのである。即ち、實際に、運動のプロレタリア的傾向が、正統派の中に、その現れを見出し、これとは逆に、民主々義的知識階級の傾向が――日和見主義的社會民主黨の中に、その現れを見出すことは、また世界の總てが知つてゐるのである……。

同志アクセルロッドの――『ジヤコビン黨員』に關する――他の關說は、猶ほ、より以上に教訓的なものである。同志アクセルロッドは、革命的及び日和見主義的なものへの、近代社會民主黨の分裂が、既によほど以前に、而もひとりロシヤに於てのみではなく、『フランス大革命時代の歷史的類推』の爲めに、機會を與へたといふことを、おそらく知つてゐることだ。同志アクセルロッドはまた、近代社會民主黨のジロンド主義者が、常に絕えず、彼等の敵手の特性を現はす爲めに、『ジヤコビン主義』『ブランキズム』等々の言葉を、楯にしたことを、おそらく知つてゐることだ。吾々は、同志アクセルロッドの眞理の恐怖を、まねることは出來ない。吾々は、吾々の黨大會の議事錄に就いて、吾々によつて考察された傾向及び類推を、分析し吟味することの爲めに、材料

が其の中に與へられてゐるかどうか、見究めて見よう。

第一の例。黨大會に於ける綱領に關する論爭。同志アキモフ（彼れは、同志マルチノフと『完全に一致して』ゐる）は、言明して云つた。『政治權力の獲得（プロレタリアの獨裁）に關する章句は、總ての他の社會民主々義的綱領との對照に於て、次のやうな解釋を示してゐる。即ち、組織の指導者の役割が、その指導者が指導した階級を、後方に押しのけ、前者を後者から切斷しなければならないものだといふ意味に、彼れが說くことが出來たし、また實際、プレハノフによつて說かれたといふことを』と。吾々の政治的任務の說明は、それ故確かに『ナロドナイヤ・ヴオリヤ』の其れと同一である。同志プレハノフや他のイスクラ派の人々は、同志アキモフに反對なし、彼れを日和見主義なりと非難した。同志アクセルロッドは、この論爭が、社會民主々義に於ける、現代のジヤコビン黨員及び現代のジロンド黨員の歷史のでつち上げられた妄想に於てではなく、實際に於て）撞着を、吾々に示してゐるといふことを、發見しなかつたのであらうか？　また、同志アクセルロッドは、彼れが（自身なした過失によつて）、社會民主々義に於けるジロンド黨員の團體に、活路を求めたが故に、それ故、最後には、ジヤコビン黨員に就いて、論じ出しはしなかつただらうか？

第二の例。同志ボッサドフスキイは、『民主々義の原則の絶對價値』に關する『根本問題』に於ての『眞面目な意見の相違』に就いて、問題を提出した。而して、彼れは、プレハノフと共に、其の絶對價値を否定した。『中央黨或は沼澤(エゴロフ)と、反イスクラ派(金箔)との指導者達は、これに對立して、決定的に抗辯なし、而して、プレハノフに『ブルヂョア戰術の模倣』があると主張したのであつた——これは卽ち、正統派とブルヂョア傾向との結合に關する、同志アクセルロッドの思想をさすもので、單に、アクセルロッドに於ては、この思想は、中空に懸つてゐるが、一方金箔に於ては、公開の討論に持ち込まれたといふ相違があるだけである、吾々は、もう一度問題にする。現代社會民主々義に於ける、ジヤコビン黨員とジロンド黨員との撞着が、吾々の黨大會に存在したといふことを、この論爭が、吾々に明白に示してゐるのを、同志アクセルロッドは、一體發見しなかつたのであらうか？　彼れ自身が、ジロンド黨員の團體に、活路を求めたので、それ故しかく、同志アクセルロッドは、ジヤコビン黨員への對立につとめたのではなかつたらうか？

第三の例。規約第一項に關する論爭。何人が、『吾々の運動に於けるプロレタリア的傾向』を辯護するか。何人が、勞働者は組織を恐れはしないといふこと、プロレタリアートは、無政府主義を

是認しはしないといふこと、彼れは『自らを組織せよ！』といふ激勵を、尊重するものだといふことを强調するか。何人が、日和見主義に感染してゐるところの、ブルヂョア知識階に對して、警告するか？　其れは、社會民主々義のジヤコビン黨員だ！　然るに、急進知識階級を、黨に連れ込んだのは、何人であるか。教授、ギムナジユームの學生、個人、急進的な青年などに、心を向けたのは、何人であるか？　ジロンド黨員リベルであると共に、ジロンド黨員アクセルロッドだ！

同志アクセルロッドは、吾々の黨大會に於て、『勞働者解放』の集團の大多數に對して、公然と流布されたところの『日和見主義の誤れる非難』なるものに對し、頗る拙劣に自身を辯護した！卽ち彼れは自身、ジヤコビン主義、ブランキズム等々に關して、大言壯語的なベルンスタインの語調を繰返すことによつて、非難の理由を確證するやうな、そのやうな、辯護をなしたのであつた！　彼れは、知識階級に對する關心によつて持ち來したところの、彼れ自身の演說を、黨大會に於て、大聲疾呼しようとして、急進知識階級の危險性に、悲鳴をあげてしまつたのであつた。

この『恐る可き』言葉『ジヤコビン主義』其の他は、全然日和見主義の曝露にほかならない。階級的利害に目ざめてゐるプロレタリアートの組織と、密接に結びついてゐるジヤコビン黨員は、〇

○○社會民主々義者である。教授やギムナジユームの學生達に、期待を持ち、プロレタリアの○○に、恐怖を感じ、而も民主々義的要求の絶對價値を憧憬れるジロンド黨員は、日和見主義者である。政治闘爭を○○○なものに、制限しようとする思想が、吾々の文書に於て、幾回となく否定され、實に遠い以前から、拒否され、また排斥されてゐる今日、それからまた、政治的な大衆の煽動が、疑ひなく重要であることが、承認され且つ噛んで含めるやうに說かれてゐる今日、○○組織に、危險を感ずるのは、たゞ日和見主義者のみである。○○○○とブランキズムとに對する恐怖の現實的根據は、運動の實踐に於て現れた衝動の何ものでなくして（ベルンスタイン及び其の仲間が、長たらしく且つ無益に、說いてゐたやうに）、ブルヂヨア知識階級のジロンド黨的臆病、卽ち、今日の社會民主々義者の中から、實に屢〻現れるかの心理なのである。かくて、四十年代及び六十年代の、フランスの○○○の戰術に對する警告の如き、新しい言葉（當時幾度となく唱へられたところの）を唱へようとする、新『イスクラ』のこの非常な努力にまさるところの喜劇は、何ものもないのである……。

……ゆるやかに前へ、ジツクザツクに進め！[21] 吾々は、戰術の問題に對する適用に於て、このやうな掛聲を聞いたが、今や、組織の問題に對する適用に於て、其れを聞くのだ。組織問題

に於けるクヴオステズムは、[22] 無政府個人主義者の心理の、自然な且つ不可避な所産であるが、其の場合には、後者は、おそらく最初は單に偶然な無政府主義的傾向を、觀念の體系に、それから特殊な原則上の意見の相違に、高めようとするものである。吾々は、同盟評議大會に於て、この無政府主義的傾向の端初を認めたし、新『イスクラ』に於て、其れを一體系に高めようとする企てを見た。この企ては、社會民主黨に加入してゐるブルヂヨア知識階級と、階級的利害に目ざめてゐるプロレタリアートとの、觀點の相違に就いて、黨大會に於て、既に現れてゐた議論を、大々的に確證してゐるものである。例へば、その知識の深いことは、吾々が既に、よく知つてゐるところである新『イスクラ』のかの『實際家』は、尖鋭分子の獨裁としての中央委員會を持つ『一大工場として』、私が、黨を考へてゐると云つて、私を非難してゐる（附錄五七號）。この『實際家』は、自身が述べた恐る可き言葉が、ブルヂヨア知識階級の心理を、曝露するものであることを、豫知してゐないで、而も、プロレタリアートの組織の理論にも實際にも、信頼を置いてゐない。謂はば、工場は、或る人々にとつては、單に恐る可き妖怪として見えるものであつて、其れは、プロレタリアートを結合させ、訓練し、彼等に組織を與へ、其れを勤勞被搾取人民の他のあらゆる層の尖端に置くところの、資本主義的共同勞働の最高形態を示すものである。資本主義によつて教育さ

れたプロレアリアートのイデオロギイとしてのマルクス主義は、動搖する知識階級に、工場の搾取的方面(餓死の恐怖に基礎づけられてゐる訓練)と、その組織的方面(技術的に高度に發達した生產の諸條件によつて、結合されてゐる共同勞働に基づく訓練)との相違を、敎へもしたー敎へてもゐる。プルヂョア智識階級には、たゞ創造しようとするだけにとゞまるこの訓練と組織は、プロレタリアートによれば、まさしくかの工場『敎育』なるものゝお蔭で、特に容易に、獲得される。この敎育の死滅の恐怖とその組織的意義の徹底的誤解とは、つまり、小ブルヂョア生活條件を反映するところの、思考方法にとつての特質であり、また、獨逸の社會民主々義者が、貴族的無政府主義と稱したところの、無政府主義の一變種にとつての特質である。ロシヤの虛無主義には、この貴族的無政府主義は、特に固有なものである。彼れには、黨組織が、奇怪なる『工場』として現れ、全體に對する部分の從屬と、多數に對する少數の從屬が、また、『奴隸化』として現れる(アクセルロッドの論文を參照。)中央部の指導の下に於ける分業は、彼れによれば、人間を『車輪的及び螺旋的』なものになすであらうといふ、悲喜劇的な悲鳴となる(特に編輯人と記者に對する悲鳴となる)。而して、彼れは、黨の組織の規約に關する論說に對しては、侮蔑的な澁面を現し、吾々は全く何らの規約なしにも、間に合はせることが出來るといふ低劣な意見(『公式主義者』に

對する)を、唱へてゐるのである。

眞實この敎訓的な意見は、同志マルトフが、『イスクラ』の第五十八號に於て、私に對して發表したものである。其の中で彼れは、自己の言葉を强調する爲めに、『一同志への手紙』から、私自身の言葉を、引證してゐる。さうしたことは、信ず可からざることであるが、しかし眞實なのである。吾々が、分裂の時代と團體の時期を例にとつて、黨建設の時期に於て、團體精神の維持と擴大、それから無政府を、辯明しようと試みるなら、其の時其れは、貴族的無政府主義ではないか、クヴオステズムではないか?

然らば、吾々は何故、以前に何らの規約をも、必要としなかつたのか? 其れは、黨が、相互に何らの組織的結合を有さない、個々の團體から成立つてゐたからである。一の團體から他の團體への移動は、單に、個々の關係者の『隨意』によるものであつて、其れは、如何なる形式に於ても、全體の意志表示を意味するものではなかつた。團體內部に於て論爭された問題は、規約によつて裁決されずに、『鬪爭と脫退威嚇』によつて裁決された。卽ちそのやうに、私は、一般的には團體の一員としての經驗を基礎として、特殊には、編輯局に於ける吾々六名の團體の經驗を基礎として、『一同志への手紙』の中で述べたのである。團體の時期に於ては、このやうな現象は、自